

ては工業の部を参照すべし。

高知市の西南能茶山は第四紀古層に屬し、上層は黃褐色の埴埴にして中に角岩の礫を含有し、其の直下に厚さ四五尺の灰色粘土層あり、更らに下層には黑色の粘土層あり、其の内より里俗扶桑木と稱する埋れ木を出だす。此の灰色なるものを最上品となし黄色なるを次とす。尙其の附近の城山よりも同様の粘土を産す。製品は粗造なる食器煉瓦の類にして其の産出年額壹萬餘圓なり。

内原野は高知縣安藝郡安藝町の北方安藝川の左岸にあり、同地字澤ノ平と稱する所より陶土を産す。第四紀古層中二尺内外なる灰色粘土礫岩の上層を占め更らに上部は紅黄色なる土にて被覆せらる。製造品は多く粗造の食器土管等にして年額三千圓を上下す。

高知縣安藝郡安田村唐ノ濱に於ては第三紀に屬する凝灰質粘土を産す、淡綠色にして厚約十尺、採りて瓦を製す、其の製出年額五十萬枚に上ると云ふ。同村東島の東南大野の第四紀古層中に赤褐色の粘土あり、黑色なる粘土中に

挿入す、内原野の陶器製造所に於て粗造の食器に赤褐色の色を附するは多く該粘土を用ふ。

香川縣大川郡富田西丸山の東麓に白色の砂質粘土を産す、該粘土は石英粗面岩花崗岩等の著しく靈爛化成せるものにして一丈餘の厚層をなす、住民之れを採掘し水簸して以て陶土となし高知市に輸送す。然れども其の原土は多量の硅酸及び鐵分を含有し、礬土の量少きを以て其の儘にては磁器製造に適せざるべく、製陶の原料として使用するには十分に陶汰して原土中の石英粒又は酸化鐵に富める砂土を取り去るを要す。

香川縣大川郡富田西字吉金産の粘土は花崗岩の分解せしものに係り其の色灰白色なるものと黄色なるものとあり、共に土瓶の原料となす。

同縣木田郡牟禮に在る有名の上剣山腹なる源氏ヶ峯産の砂質粘土は亦花崗岩の分解せるものに係り厚さ六尺を超ゆる所あり、土管窰瓦等を燒製す。

同郡屋島山の南麓なる西濱元村産の者も同様の成因を有し掘り採りて屋島燒の原料となす。

徳島縣板野郡萩原村字西山田産のものは、厚さ四五尺を有し泥板岩の分解により成り、頗る粘着力に富む。製造品には土管、七輪、徳利、甕、火鉢等にして、大阪兵庫和歌山岡山愛媛等に販賣す。同郡川端村にては畑土の下厚さ約四五尺の粘土を採掘して徳利、甕等の原料となし、製品は大阪に出だす。同郡北泊浦村字一本松産の者は泥板岩の分解して成れるものにして煉瓦の原料となす、製品は京都・中國・東京の諸地方へ販賣す。

麻植郡桑川村に於ては剝岩の分解して成れる粘土を原料として瓦、土瓶、火鉢、七輪、土管等を製出す。

愛媛縣南宇和郡伊都産のものは石英粗面岩の分解により成れる白色の者に於て之れを採掘して同郡緑村及び大道村に建設しある陶器製造所に輸送し、粗悪の食器、土管、甕等を製し壹箇年の産額二三千圓を上下す。

北宇和郡泉ヶ森産の者亦石英粗面岩の分解に係り、白色緻密にして水蒸して陶器製造の原料に供すれども産額至つて小なり。

八幡濱及び宇和島吉田附近に於ては水田の下底をなす粘土を採取して煉瓦

ゴス土

雜礦物

水晶

電氣石

方解石
柘榴石

及び瓦の製造に供すれども農民の副業に過ぎずして巨額の産出なし。

此の礦物はコボルト・マンガン・礬土等の化合物にして所謂後生礦物に屬すべきものなれども未だ其の母岩なるものを發見せず、其の用陶磁器製造に必要な藍色釉藥の原料となす、本地方に於ては愛媛縣下別子鑛山に於て其の沈澱、鑛中コボルトを含有し會て之れより顏料を製精したることあるのみ。

雜礦物 裝飾・標本・藥用其の他種々の雜用に供するものを總括して雜礦物とす。本地方に於ける以上の礦物は其の種類産額頗る少なく、随つて其の需用も亦小なりとす。左に其の主なる種類産地等の一斑を述べんとす。

水晶は愛媛縣宇麻郡市之川鑛山に産する輝安鑛の鑛床に於て無色透明のものも産すれども甚だ小形なり。香川縣大川郡火打山字シャウギ山に水晶を産すれども食指大にして多量を産せず、共に實用に適すべきものなし。高知縣幡多郡頭集附近の花崗岩中に水晶を産すれども良材ならず、又水晶と共に電氣石を産するも之れ亦美品なし。愛媛縣別子鑛山に於て往々其の脈石の空隙に方解石の結晶を産すれども周圍不完全にして且つ多額を産せず。柘榴石は

陽起石

香川縣仲多度郡碑殿村に於て輝石富士岩中に存在し、其の大小一種内外のものあるも不透明にして光澤なく爲めに裝飾用に供すること難く、同縣牛島の片麻岩中に存在するもの及び沼隈半島の南岸常石に産するものは共に美麗にして貴柘榴石と稱すべきものもあるも微小にして應用上の價值少なく、僅に標本として採取するのみ。陽起石は愛媛縣宇麻郡關川村五良津山及び高知縣長岡郡吉野村に産す、白色なる滑石剝岩中に綠色なる斜方柱狀の結晶を成して介在し、其の長さ一〇〇程を有す。此の外別子鑛山に於て石英塊中に二〇程の塊狀を成せる金紅石を産し、徳島市附近の字眉山に紅簾片岩中に金紅石の結晶を産し、同縣名東郡八萬村字下八萬に石英塊中に同鑛物を抱有せり。愛媛縣北宇和郡日吉村父ノ川より出づる自然派は、藍色の泥板岩中に小粒をなして夾介せられ、辰砂と共産す。

自然派及び辰砂

總説

六 商 業

四國地方と他の地方との交通は全く海路の便によるものなるが故に商業上

の取引も亦多くは沿岸の港市に於て行はれ、然らざる者は特殊の交通機關によりて聯結せる附屬港を有せり。然して其主要交通線路は何れも大阪神戸の兩港を發着點となすを以て、本地方に出入する貨物の多くは一旦大阪の市場を經過するを常とし、又水産物麥稈真田木臘樟腦等の如き海外貿易品は多く神戸港を経て輸出せらる。從て本地方と阪神との間には商業上密接なる關係を有し、商品商賈の往來極めて頻繁なり。就中瀬戸内海岸は既に交通の條下に述べたるが如く、良港多く、阪神中國及九州の沿岸諸港との間に汽船の來往絶ゆるとなきが故に、何れも繁盛なる港市起り、讃岐の如きは其豊沃なる沿岸平野の間には高松多度津の港市及九龜市等發達して、何れも地方商業の市場となすを以て縣下商業の中心を見る能はず。然れども南方の地は山岳重疊するを以て徳島縣に於ては其給配地として縣下第一の生産地なる吉野川河谷を控ゆる徳島市を、高知縣に於ては土佐灣頭の高知市を共に其縣下商業上唯一の中心となし、縣下商品の大部は一旦此地に集散す。又土佐西部の中村と宿毛も別に局部的商業の市場をなし、宿毛は阪神の地と汽船の連絡あると

既述せるが如し。愛媛縣は商況の盛なると四國第一にして商事會社銀行取引所等の商業機關完備し松山市を其中心とす。此市は附庸港なる高濱三津濱との間に鐵道の聯絡あるが故に、港市にあらざれども貨物の出入至便に又短距離の鐵道四出して郊外平野の諸邑を連ぬるを以て縣下商品の大部は此地に集散す。然れども本縣西南部の宇和地方と東部の所謂東豫の地方とは、共に商業上の一區劃を形成し前者は宇和島後者は今治を其中心とし。共に阪神の地と汽船の往來繁し。斯の如く縣下の各地に商業上の中心を有すると東隣の香川縣と相似たるは實に本地方瀬戸内海岸地方の特色とも稱すべきものなり。

(イ) 商業市一斑

徳島縣に於て商業の市として著るしきものは徳島市あるのみにて其他には撫養港の鹽の輸出港として知らるゝに過ぎず。

徳島市は本地方中最大の都會にして、本市と大阪との間又た四國沿岸諸港の間大阪商船會社の汽船常に往復し徳島縣に出入する貨物の大部分は必ず此市

徳島市

撫養町

高松市

を經由せざるべからざるを以て市街の商業極めて活潑なり。又市には特産たる織織シヨウシの外に近年の創業に係る綿シヨウ糸シヨウ紺シヨウ等共に市の主物産をなすあり。又附近の郡部は有名なる藍の産地にして其の葉藍は多く東京大阪九州中國北陸の諸地方に輸送せられ、農産物中の最たるものなり。商業機關には徳島商業會議所阿波商業銀行(資本金五拾萬圓)徳島銀行(同五拾萬圓)阿波農工銀行あり。撫養港は近く淡路島と相對し、有名なる鳴門の海峡を其の間に挟む。繁盛の小市街にして、又た徳島縣東北方の一商區をなす。阿波足袋は多く此の地にて製作せられ、産額頗る多し。殊に海濱一帶の地より産する鹽は齋田鹽と稱し古來赤穂鹽と併稱せられ港は實に其の輸出港として名あるなり。

香川縣の海岸地方は生産に富み港市多く縣下の商品は分かれて此等の諸港より出入す。其主要なる港市を高松九龜多度津阪出とす。

高松市は瀬戸内海に臨める良港にして、百貨輻輳し、市街の商業殷賑なり。元港内は水淺く、汽船は遠く沖に繋ぐの不便ありしも、明治卅二年港を改築してより防波堤長く海中に突出し、又棧橋の設けありて、大に運輸の便を増

丸龜市

多度津町
阪出町

し、四國航路中國航路及大阪高松間岡山高松間航路の汽船常に出入して、市街の面目を一新したり。米麥砂糖材木水産物麥稈眞田保多織羽二重織漆器高松焼等は縣下の重要物産にして、市に於て取引せらるゝもの多し。殊に麥稈眞田は重要な輸出品たり。高松焼は一に治平焼と稱し、現今栗林公園内に於て造らる。市の金融機關には高松百十四銀行高松銀行讃岐農工銀行高松商業銀行あり。又博物館木材株式會社等の設あり。商業の盛なる縣下第一なり。丸龜市は高松市に次げる縣下の都會にして、港内水深からざるも、船舶常に幅輳し、又鐵道を通し水陸の運輸便なり。市内花筵團扇竹細工の製造盛にして、花筵は明治二十六年頃一度衰頹の模様ありしも、爾後大に改良を施し嶄新なる意匠を加へ海外輸出をなすに至れり。團扇は價格廉なると、繪模様意匠を凝らすとにより販路廣く、亦海外に輸出せらる。金融機關には丸龜商業銀行商事會社には丸龜漁市株式會社丸龜麥稈株式會社等あり。多度津港は圓形の防波堤を以て圍まれ瀬戸内海の一要津をなす。汽船の寄港すること高松と同じく其出入頻繁にして、讃岐鐵道は又琴平高松に通じ水

松山市

今治町

陸の交通便にして商業繁盛を極む、琴平銀行多度津銀行は本港の金融機關なり。阪出町は鹽業の中心地をなし鹽の輸出港として知らる。愛媛縣は其縣下に數箇の商業の中心を有すること香川縣に異らず。東豫には今治あり、南豫には宇和島なり、而して松山は西豫の中心たると共に亦全縣中最も重要な商業市をなせり。松山市は四國有數の都會にして、高濱三津濱を其附庸港として鐵道を通し縣下中部の貨物を出入す、又市には松山奉書を出し市内並に其の附近よりは伊豫紵を産し、東京大阪九州中國地方に輸送販賣せらる。米穀取引所農工銀行五十二銀行資本金六十萬圓松山商業銀行同四十萬圓等は市の商業機關の主たるものなり。今治町は東豫の一要港にして、又た一商區をなす。白木綿綿ネルは本市の主要物産にして、綿ネルは販路最も廣く、東京大阪を始め内國は勿論清國韓國に輸出せられ、白木綿は多く大阪市を得意となし、其業日に盛なり。製作工場には伊豫紡績株式會社今治興業舍商業機關には今治商業銀行資本金四十

宇和島港
八幡濱港

萬圓あり。

宇和島港は南豫第一の良港たるを以て商況頗る活潑なり。本港及び附近の郡部より産する木綿織物は價格の低廉なると、品質の強堅なるを以て本港を介し、中國九州は勿論遠く東海東山の各地に輸送せられ、販路漸く廣まらんとす。紙は又た本港の一名産なり。八幡濱港は佐田岬半島の南脚に在る一要津にして、港内廣く、水深く、近海航海の汽船商船輻輳して、市街般販商業盛なり。

高知縣に高知市あるは猶ほ徳島縣に徳島あるが如し。縣下貨物の集散は主として市の掌る所にして、此他須崎宿毛等の諸港は中村町と共に一地方の商業市として知らる。

高知市は浦戸灣頭の港市をなし、縣下の主要なる産物たる紙は市の西方伊野町地方より來り、鯉節は西南幡多郡東南安藝郡より來り、其他種々の水産物は沿海の地より集り、製茶は縣下各地より來り、何れも市を經由して先づ阪神地方に送らる。商業機關には高知商業會議所土佐銀行(資本金百萬圓)高知

高知市

商業會議所

銀行(同八十萬圓)土佐農工銀行等にして、土佐物産株式會社土佐水産株式會社土佐木材株式會社等は主たる商事會社なり。

(口) 商業機關

商業會議所 本地方の商業會議所は香川縣愛媛縣に之れを缺き、其の他の二縣に於ては縣廳所在地に各一個を有すること左の如し。

商業會議所

地方	會議所所在地	設立地	定員數	設立地區域内商號 總數(有スル者)	同業團體商號總數 (有スル者)
徳島	徳島市	徳島市	三〇	四五	六三五
高知	高知市	高知市 五箇町村外	三九	一六〇	三八六

(第二十六統計年鑑により明治三十八年末日の数を示す)

取引所 本地方四縣下内に取引所の有るは只松山市に於けるもの一個のみなり。資本金其の他の模様は左表の如し。

取引所

取引所

名	株式 人員	人仲 人員	資本金	拂込資本金	名	株 式	人仲 人員	資本金	拂込資本金
松山米穀	二五	八	100,000	100,000					

(第二十六統計年鑑により明治三十八年の數を示す)

(ハ) 會社事業

本地方中一般に會社事業の發達せるは愛媛縣下にして、其の事業の成績は概して他地方の夫れに甚しく劣ることなし。今此等の概況を掲ぐれば左表に示すが如し。

地 方	農 業		工 業		商 業		水、陸、運 輸		合 計	
	社 數	拂込資 本金	社 數	拂込資 本金	社 數	拂込資 本金	社 數	拂込資 本金	社 數	拂込資 本金
德 島	四	八五七	三	七三	三〇	一〇六,二八五	六	九六,〇〇〇	三三	二,七三,三九二
香 川	一	七三	七	一,三二,四七二	五三	二,六四,五七六	九	一,九,九四〇	一三六	四,三六,七五九
愛 媛	一	四〇〇	五	一〇六,三六七	八〇	六,三六,三五二	九	八七,六五〇	一四七	八,一七〇,七六八
高 知	六	六四,六二九	三	五七	六二	二,六八,八〇五	九	四,五,三三〇	一〇八	三,二七六,三六九
計	一二	七四,三七八	一九	一,九六,四九三	二三	三,二二〇,〇一七	三三	二,三六,九二〇	四六四	一八,五九二,二八八

(ニ) 金融機關

商業銀行 本地方に於ける銀行業に於ても、亦其の發達をなせるは松山市にして、他縣に比し大に優勢の状態にあり。而して是れ等諸銀行中大資本を擁して、盛に活動をなせるものは稀なり。各縣銀行の、狀況を示せば左表の如し。

(第二十六統計年鑑により明治三十八年末日の數を示す)

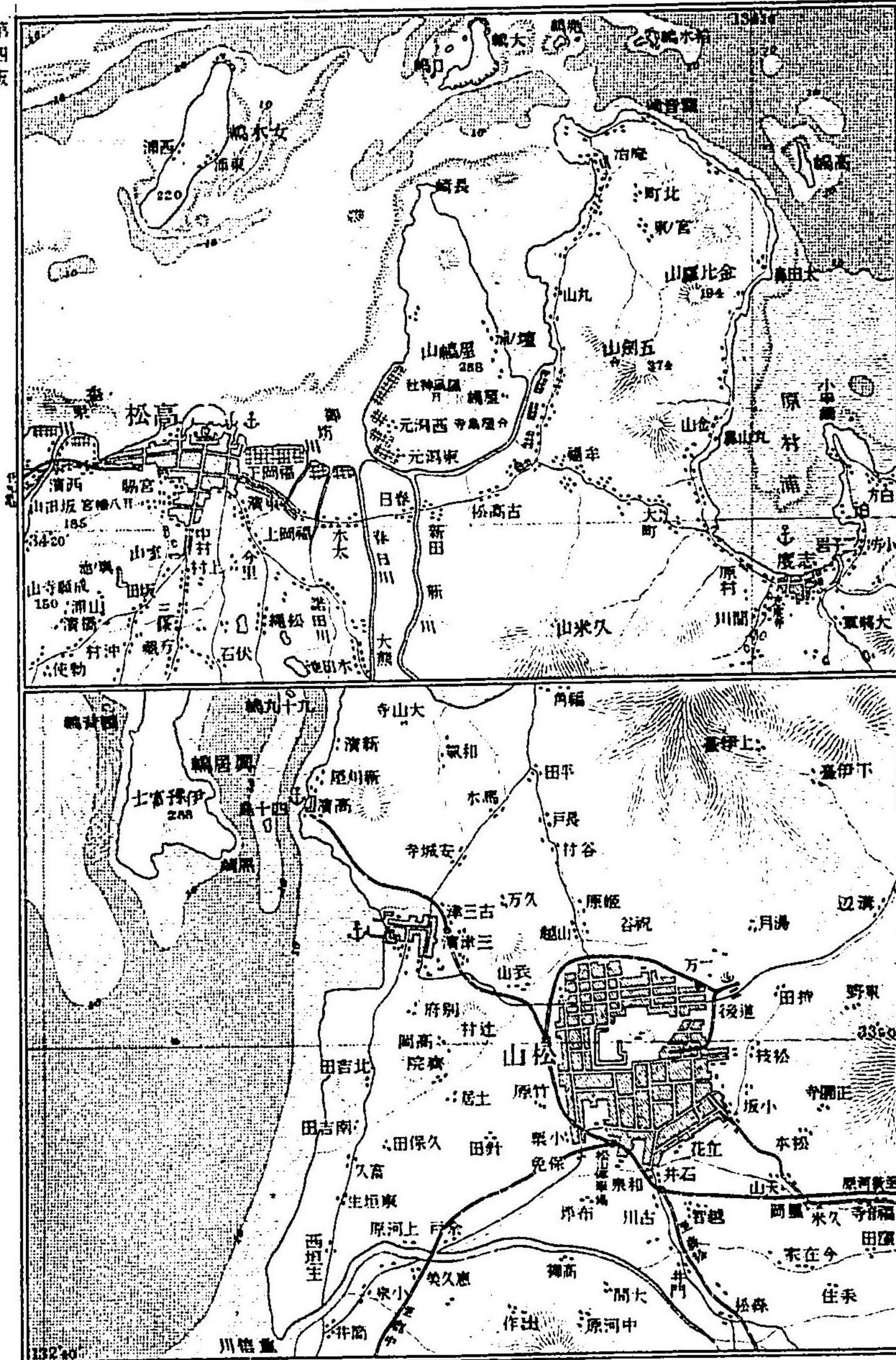
地 方	本 店			地 方		
	社 數	拂込資 本金	積立金	社 數	拂込資 本金	積立金
香 川	二	五〇,二六六	二四,八〇〇	高 知	三	一,三三,〇〇〇
愛 媛	三	一,三三,〇〇〇	二,六八,八〇五	愛 媛	三	五,三三,〇〇〇
計	五	一,八三,二六六	二,九三,六〇五	計	六	一,九六,九〇〇

(第二十六統計年鑑により明治三十九年末日の數を示す)

農工銀行 本地方に於ける農工銀行の狀況は左表の如し。

近附山松及松高

第四版



一之分万五千米

第三編 地方誌

徳島縣

徳島縣は本地方の東部に位し、東は海に瀕し、西より西南は愛媛縣と高知縣に境し、北は香川縣に接し、縣廳を徳島市に置き、阿波國の一市十郡を管す。一市は徳島市にして、十郡は名東勝浦那賀海部名西板野阿波麻植美馬三好即ち是なり。東西の最も長き所二十七里半、南北の長き所二十一里半、面積二百九十方里四一四九、六九方料人口七、三九六八(一方里二六一七人)を有す。各郡の中、面積の最も大なるものは美馬郡にして、海部郡これに次ぐ。前者は面積六十三方里、後者は六十方里、これに次ぎて那賀郡は四十三方里、三好郡は四十二方里を有す。面積の最小なるは名東郡にして、十方里を有するに過ぎず。されど人口の密度に於ては名東郡は第一に位し、一方里五千五百人余を占む。これに次ぐは名西郡の三千二百人、板野郡の三千人な

徳島縣

人口

地勢

り。美馬郡は人口の密度最も小にして、一方里千百余人を有するに過ぎず。地勢は縣の南部及び中央には、劔山山脈東西に蜿蜒せるを以て、山嶽重疊、海部郡の西部、那賀郡の西部、麻植美馬三好の南部の如きは、殆ど全く平地を見ず。しかも縣下の一大巨流なる吉野川流域には、兩岸の平地比較的良好に發達し、田園開け、交通亦整ひ、名西郡以東に至りては、人煙稠密、中に徳島の繁盛なる市街を包む。蓋し縣下最も重要な地方なり。名西郡は吉野川の支流鮎喰川の流域を占め、勝浦郡は勝浦川の流域を占め此二流は共に相似たる縦谷を形成して各郡の中央を走る。那賀郡を貫ける那賀川の流域は、其區域比較的に廣く、海岸地方より、縣の南部を横斷して、高知縣香美郡に通ずる一路、この川に沿ひて走れり。此等の餘谷は、皆な其兩岸に平地を開展し、農業商業共によく行はる。されど海岸地方、殊に東部紀伊水道に面する地方は此等の山地より猶一層の發達を爲し、北は板野郡の一角、撫養の一市街より南下して、吉野川の河口に近く、河川縦横、交通頻繁なる徳島市を經、勝浦郡の東南部、那賀郡の東部は、概して人煙稠密、農商繁盛、名邑の發達

せるもの尠なからず。これより南して海部郡に入れば、山嶽直に海に逼りて海岸平地に乏しく繁榮の度大に前者と異なる所あり。されど内地の山地は人煙稀少にして交通不便なれば、一郡の繁華は自から此海岸に散點せる港津に集るの觀あり。

産業

縣下の産業は農業工業にして、農業は米穀を主とす。農業の副産物として製藍業頗る盛なり。阿波藍の名は天下に喧傳せらるゝもの、板野郡を主産地と爲し、名東名西の二郡これに次ぎ、麻植郡またこれに次ぐ。此他麻植郡以東の諸郡に於ける蠶業、吉野川流域以外に於ける製茶、其他製糖業又多少の發達を爲せり。製鹽業も板野名東勝浦の海岸地方に發達すれど、之を讃岐伊豫に比すべくもあらず。織物業は麻植郡及び徳島市四隣の特産なり。副業として阿波足袋を産す。鋳業は概して振はされども、石炭は四國中獨り本縣の特産にして、吉野川北岸の北帶山脈讃岐山脈中に二三の炭鑛を有す。

縣下の交通を記せんに、鐵道は徳島市を起點として、吉野川の南岸を縫ひ、石井川島山崎穴吹を經て、船戸に至るの一線路あり。道路は伊豫街道を最も

交通

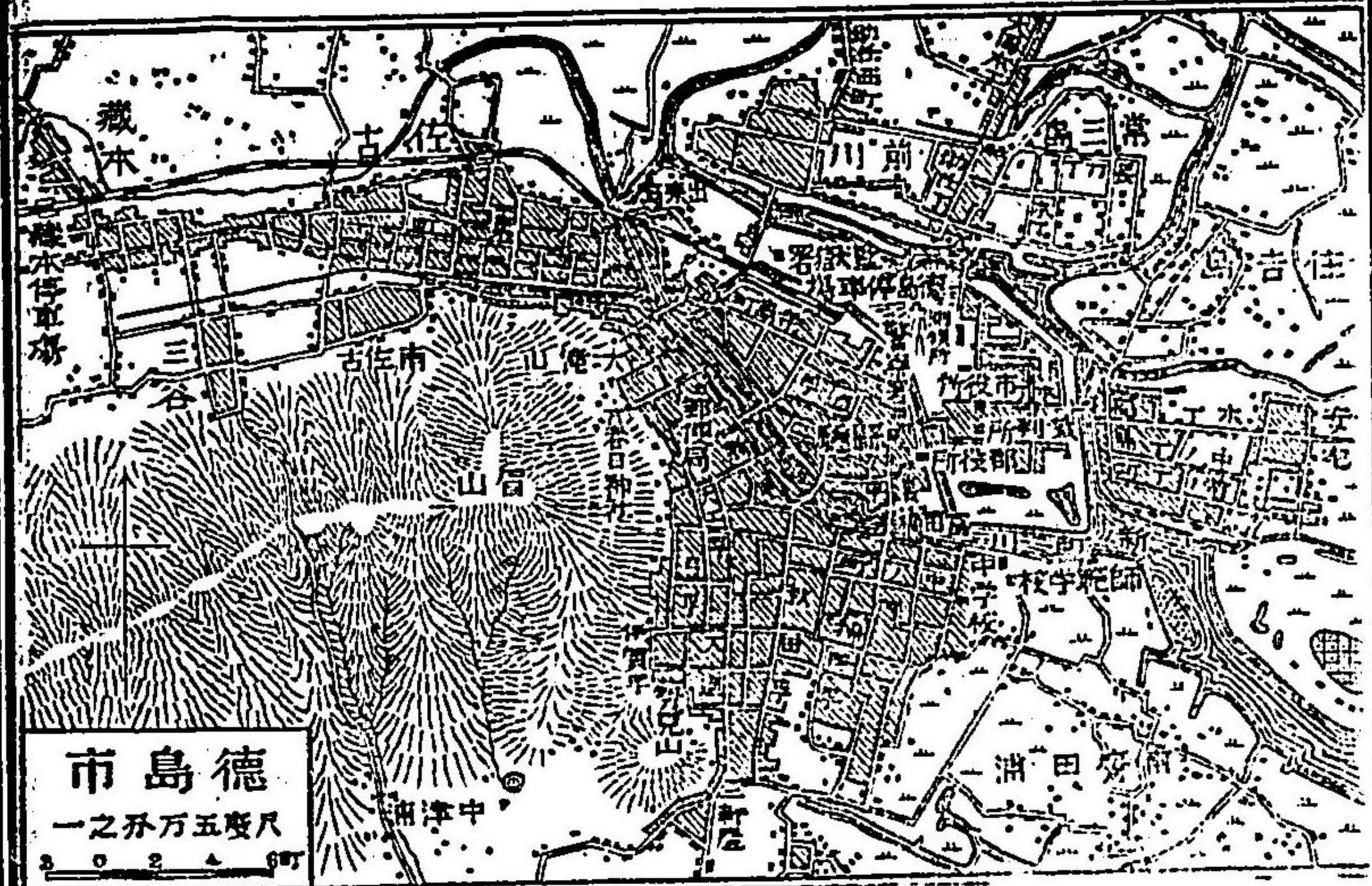
交通頻繁となす。これ即ち縣下第一繁華の地、吉野川流域に添へるもの、徳島市より起りて西し、石井牛島を経て、吉野川の南岸に沿ひ、鴨島穴吹貞光辻を経て池田に達し、こゝに吉野川を渡りて、全く川に離れ、佐野を経て伊豫國宇摩郡惹尾に達す。徳島市を距ること二十五里餘なり。此の道路と川を隔て、並行せる一路あり撫養街道といふ。撫養より姫田、大寺、脇町を経て、池田に至り前路と合す。其間洲津より北に岐れて、讃岐に向ふ間道あり。池田より川を渡り、白地より猶川に沿ひて南する一路は、土佐西街道と稱し、吉野川の四國山系を横断して流るゝ峡谷の間を過ぎ、大崩壊小崩壊の奇勝を経て、高知縣長岡郡大久保に達す。池田町より國境まで五里餘、徳島市より三十里餘なり。讃岐街道は徳島市より南し、新居奥野大寺を経て、北帶山脈の一端大坂峠を越えて、讃岐大川郡引田町に達す。徳島市より撫養町に至る道路また良好なり。縣の南方、土佐に至るの道の中街道濱街道の二に分つ。中街道は小松島、三谷を経て、那賀川の峡谷に添ひ、和喰吉野櫻谷御所谷等を経て、これより那賀川に離れ、人烟稀れなる山地の間を経て、土佐香美郡別府

に達す。山路崎嶇として、半は車を通ぜず。濱街道は徳島市より立江岩脇桑野を経て、海岸の一名邑山岐に至り、これより概して海岸を縫ひ、日和佐牟岐浦淺川浦穴喰等の諸名邑を経て、土佐安藝郡甲浦に至る。徳島よりの道程二十四里、此他鮎食川に添ひたるものと勝浦川に沿ひるものとあれど、一方の交通道路なるにとゞまりて、敢て記すべきことなし。

吾人は先づ徳島市より筆を起さん。

徳島市(第三十六圖甲 第三十七圖甲)は吉野川の末流、別宮口と津田口との間に位し、寺島福島住吉島常三島助任前川出来島佐古富田の諸邑を其の中に收め、地形上、吉野川の三角洲の上に發達せり。東西一里十町、南北二十二町、戸數一萬二千五百餘人口六萬二千七百餘を有し、縣下第一の都會たるのみならず、また四國第一の都會なり。町の西南は石槌山脈の末梢平野に終る所にして樹木鬱蒼たる一丘陵をなし大瀧山眉山二八〇米等の名ありて市の名勝たり。吉野川の一派、津田川の水は、西南より來りて市の中央を數派に別れて貫流し、更に相合して一流となり、津田浦に至りて海に注ぐ。これを以て船舶の出入頗る

徳島市



盛に、一面港市としての特色を備へ、汽笛の聲常に小灣の中に響く。市街の中央に一翠微あり城山といふ。これ、二百六十有餘年の長き阿波一國の國主大名蜂須賀侯の居城ありし所にして今猶其址を存す。維新後市は舊城市の繁華を承けて依然阿波國の首都たりしを以て、其繁榮は更に加はり、百貨輻輳人烟稠密たり。殊に、此市は縣下の重要地方なる吉野川流域の門戸を爲し、假りに吉野川を以て一樹幹とせば、市は實に其根底をなし、其全流域を涵養する位置にあり。殊に市は又關西商業の首腦たる大阪市と海路近きを以て定期の航海船日毎に此間を往復し、

賣買取引頗る盛にして、従つて市風總て大阪に酷肖し、市街及び市廛の光景宛として其市街の一部を此處に移したるが如し。徳島停車場は市の中央寺島町にありて、北に近く城山の翠色を見る。寺島町と相並行して組屋町八百屋町通町中通町等の町筋相連る。通町の縦街路と寺島町の横街路と相交錯せる處に、徳島縣廳あり。これと相背きて各東郡役所あり。徳島市警察署あり。これより徳島橋を渡れば、本町に徳島市役所あり。新倉町に地方裁判所あり。徳島町と福島町との間に福島橋あり。

されど徳島市の繁華は此方面にあらずして、停車場を出て、眞直に南したる所にあり。停車場より一道の大路、直ちに新町橋(第三十圖甲)に達す。橋は市の中心を成し、交通頗る頻繁なり。橋を渡れば新町の横街路西に連り、豪商巨賈多く、まことに市の商業區なり。大工町に、郵便電信局あり。また此附近に銀行多し。これより南すること數町、市の公園なる大瀧山の境内に至るべし。山(第七圖乙)は眉山の中腹にあり。山下老樹鬱蒼たる間に、縣社春日神社あり。春は櫻花其間に點綴せられ、遊覽の人陸續として絶えず(第八圖甲乙)。これ

公園

に隣りて、薬師堂あり、賽者多し。これより山に登れば、三重塔あり、招魂碑あり、丘上よりは市の萬甍一眸の下に落ち、遙かに別宮川の海に注ぐの景、港頭に無數船舶の碇泊せるさまを望む。

この山の南に連れる處を勢見山といふ。また甚だ眺望に富めり。山上に忌部神社あり。國幣中社にして、阿波國中の式内社なり。構造甚だ宏壯ならざれども、境内清楚にして自づから神威の身に逼るを覺ゆ。又其附近に金比羅神社あり。蓋し大瀧山と新見山とは市人行樂の地なり。

これより再び新町に歸り、船場町に至れば、地は其名の如く汽船問屋、運漕店等多く、又穀物肥料等の問屋軒をつらね、一種特色ある喧噪と繁華とを呈せり。兩國橋々畔には小型の商船輻輳して岸に集れるもの甚だ多し。街路はかくて鷹匠町・織町等を過ぎて、土佐濱街道の一路を起せり。

これと方向を異にして、仁心橋の對岸に佐古町の一區あり。一丁目より十丁目に至る。即ち伊豫街道の起點にして、商賈櫛比、市の中心なる新町附近の繁華に比しては、稍場末の趣なきにしもあらず。此他出來島に監獄署、裏

中町に中學校あり。市の物産は阿波縮阿波足袋燐寸等あり。

徳島市より北すれば五里にして撫養港に達することを得べし。此間は吉野川河口の三角洲の發達せる沖積平野にして、數派に別れたる河川は、縦横に此間を貫流す。徳島市を離れて、下助任に興源寺の巨剎あり。これより別宮川を渡り、鯛濱中街の諸邑あり。中街の西方一里に勝瑞の一古邑あることを旅客は忘るべからず。此地は建武年中、足利尊氏が其臣細川頼春をして四國を統御せしめし時、其首都と爲せしところ、長曾我部氏の起るまでは、此地は實に四國唯一の繁華なる都會なりき。今は其繁華なる遺跡を求むる能はざれど、後に吉野川の大河あり、前に平坦にして豊饒なる平野あり、形勢依然轉た當年英雄の偉業を思ふの情に堪へざらしむ。これより蘆戸川を渡り、姫田に出て、東折すれば一里餘にして撫養町に達す。

撫養町は本縣の東北端に位し北帶山脈のまさに海中に盡さんとするところにある。板野郡中第一の名邑にして、且つ本縣北方有數の港なり。前に大毛山島を控へ、自然の良好なる海峡を爲し、船舶常に來りて群を爲す。町は東

撫養町

鹽田

西に長く、岡崎より四軒屋まで十數町あり。人口八千餘を有し、板野郡役所あり。北方に於ける唯一の都邑にして、其繁華徳島に次ぐと稱せらる。撫養港の前なる大毛山島は周圍五里十一町を有せる大島にして、此西に細き海峡を隔て、高島あり。其北に島田山島あり。東は大磯岬より狭長なる海峡を爲し、北、島田山島と堂の浦との間に撫養瀬戸を作る。世俗これを小鳴門と呼び、小型の汽船は大鳴門の險を避けて、多く此の間を往來す。撫養港と相對せる大毛山島の土佐泊は、龜龜以來土佐航路の往昔の著名なる港津なりき。紀貫之の土佐日記に、「あもしろき所に船を寄せて、こゝや何處と問ひければ土佐のとまりとそいひける」と記せしは即ち此處なり。今猶ほ海口に紀貫之の纜を繋ぎしといふ一雙の奇岩屹立せり。大毛山の北端に孫崎あり、淡路の鳴門岬と相對して、有名なる鳴門海峡を爲す。海潮の盈虚によりて、波濤掀翻せる一大奇景を呈し、其壯觀殆ど名狀すべからざるものあり(海洋の章参照)。孫崎の傍に裸島飛島の二小嶼あり。また一段の風光を添ふ。

撫養港の東南海岸の地は、鹽田多し。世にいふ齋田鹽は實に此附近の産なり。

り。慶長四年、益田大膳なるもの、播磨の人数名を招き、夷山の下に鹽濱を設けたるを其濫觴となすといふ。撫養町の東、里浦に五輪塔の石碑なり、傳言ふ清少納言の墓と。

土御門天皇陵

撫養街道を傳ひて西すれば、三里にして坂東に至る。大麻山の翠微眉を歴して聳え、其山麓に大麻比古神社あり。國幣中社にして、本地方著名の古祠なり。社殿壯麗にして境内瀟洒なり。堀江村大字池谷に、土御門天皇の山陵あり。世人此山陵を圓山と稱し、四面水田を以てこれを匝らす。承久の亂北條義時の爲めに遷謫せられ、數年の後此地に崩御あらせられしは、史を讀むもの、皆知るところなり。讃岐街道の撫養街道と相交又するところを少しく南に下れば、地は有名なる阿波藍の産地にして、一望綠色の藍の遠く連れるを見る。藍園の大字を得たる、これが爲めなり。松阪村に、天台の巨刹莊嚴院地藏寺あり。三好氏此國を治せし時は、子院五十五を有し、香火一國に冠たりしといふ。寺中に有名なる五百羅漢あり。天明中僧定宥の作りしもの、また郡中の一名勝なり。

再び徳島市に戻り、阿波鐵道に乗じて、吉野川流域地方に向ふとせんか。鐵道は伊豫街道と相交錯し、藏本府中の二停車場あり。往昔國府を置かれたる府中は府中停車場の南數町の處にあり。蕭然たる一村落なれども、また往昔を追想すべし。鮎喰川は名西郡より來り、府中の東を掠めて吉野川に注ぐ。其上流一里の處に、一宮城の舊址あり。永祿年中一宮成助の據りたるもの、蜂須賀氏の阿波に鎮するや、始めは此城を居城と爲せり。府中の次驛を石井といふ。名西郡中の一名邑にして、郡役所其他の官衙は皆此處にあり。名西郡は其大半は山岳巍々として、平地に乏しく、其中央を鮎喰川南より北に流る。郡中の高山に、建治山、燒山寺山、高根山等あり。建治山は吉野川流域に近く、燒山寺山は麻植郡の境を爲し、高根山は勝浦郡に接す。燒山寺山には摩應山、燒山寺と稱する名刹あり。鮎喰川の沿岸に神領、上分上山の二邑あり。山中の一僻地に過ぎず。郡中瀑布多く、建治に建治瀑、神領に雨乞瀑、上分山上の山中に神通瀑あり。雨乞瀑は雄雌二瀧に分れ、殊に奇觀なり。汽車は石井より牛島、鴨島の二驛を經、吉野川の北岸に添ひ、西麻植を過ぎ

川島

て、川島村に達す。村は麻植郡役所の所在地にして、豫土街道に位し、人口三千を有す。徳島市を距ること五里三十五町なり。川島の次驛を山崎驛と爲す。四國地方の古蹟忌部山は此附近にありて、有名なる古祠忌部神社は此地にあり。本郡は往昔天富命と天日鷲命と共に麻穀を此處に植えたるの地、其末孫忌部氏の族本郡に蕃息し、其遺跡到る處にあり。土器溪、日熟溪などありて、古墳多く、古陶器を發掘すること往々にしてありといふ。山崎を距る南方三里、中村山に東宮城の舊蹟あり。土御門天皇の暫し坐しましたる處なり。御泉と稱する泉、御埒と稱する所など猶今日に残れり。川田村に高越山あり。一名衣笠山と稱し、山上に伊弉諾神社あり。櫻花の名所にして、麓より一里餘の間、櫻樹道を挟み、風光絶佳、恰も吉野の花を此處に移したるが如し。山頂の平坦の地を寒風と稱し、古櫻樹多く、眺望また甚だ佳なり。劔山は四國第一の高山にして、中帶山脈の主峯なり。海拔二二四二米、巍然として雲間に聳ゆ。此山に登るには、阿波鐵道の山崎驛より南し、中村山を經て、穴吹川の峽谷に添ひ、木屋平村に至り、これより川上を過ぎ、一の

劔山

峠二の峠三の峠を経て絶頂に達す。木屋平村より四里十八町なり。山は麻植、美馬那賀海部の四郡に跨り、山頂に一小祠あり、劔の社と稱す。安徳天皇の劔を祀れるより其名を得たりといふ。眺望の雄大なる、四國の群山皆脚下に朝す(地形参照)。

麻植郡の南、吉野川を隔て、阿波郡あり。北に北帯山脈を帯び、吉野川流域に一帶の平地を有す。撫養街道は板野郡より來り、豫土街道の其南岸を縫ふと均しく、川の北岸を縫ひて西に向ふ。八幡香美市場、西林等は其街道中の名邑なり。阿波郡役所は香美市場にあり。邑は人口四千餘を有し、郡中の一小邑を成す。

阿波鐵道は山崎より湯立を經、船戸に至り、此地を現今の終端驛と爲す。豫土街道を西すれば一里にして穴吹の一邑あり。川を渡れば、北岸に西本の一邑あり。之より撫養街道を西すれば、一里半にして臨町に至る。町は美馬郡中の名邑にして、人口三千を有し、家屋櫛比、人煙稠密、美馬郡役所あり。これより曾江山を經、清水越を越えて、讃岐に出づる一路あり。車を通せず

臨町

と雖も、行旅少ならず。美馬郡は國中の大郡にして、北は北帯山脈蜿蜒し、南は中帯山脈峻峻を極め、中央、吉野川の灌漑する狹長なる地方に稍々平坦なる耕地を認むるのみ。而してこの流域の北岸を撫養街道、南岸を豫土街道走りたり。前者には前に記したる臨町の他、岩倉郡里重清の三邑あり。後者には、貞光半田の二邑あり。貞光は吉野川の支流貞光川に臨み、其上流二里の地に忌部神社あり。國中有名の古祠なり。これより貞光川に添ひて南すれば、一宇村に一宇山聳立し、其猿飼と稱する地に有名なる鳴瀧の奇景あり。瀑高さ三十六丈、幅十二間、三段になりて漏下し、壯觀實に狀すべからず。これより南數百歩、一宇川の水岩石に激し、形釜のことくなる深潭三箇をつくる。土人これを土釜と呼ぶ。

この一宇川の溪谷と祖谷溪との間は、中帯山脈の最も險峻なる山嶺西南より東北に横斷し、西南は劍山より九篠山、黒笠山、矢筈山の諸峯を起し、三好郡の諸山嶺に連亘す。九篠山と黒笠山との間に、稍々低き鞍部を爲せるものを大島峠といふ。これ一宇川の溪谷より阿波國中の別天地なる祖谷溪に通する

祖谷山

山路なり。一字谷の一字奥山より祖谷溪の谷山に至る、里程約四里なり。祖谷山は海拔二千四百尺、四面山壁を廻らし、南北七里、東西十三里、南は土佐に界す。遠く塵寰と絶ち祖谷川の峡谷に沿ひ、左右に東祖谷村、西祖谷村あり。又これを小別して今窪石脇元井京上落合谷山等の諸部落に分つ。戸數九百、霧厚く雲深く、殆ど太古の趣を成す。而して劍山の麓那古呂谷に發したる祖谷川は逶迤として此間を西流し、兩岸の絶壁削るが如く、峻峻殆ど狀すべからず。有名なる祖谷の蔓橋は此絶壁の間に架せられたるもの、この奇橋の數上下五六、其の最も大なるものを善徳橋と爲す(第廿九圖甲)。幅四尺、長さ三十三間、水上より高さこと十八丈なり。其構造は長さ五六尺の木を二割にして横になし、蔓を幾條となく糾ひて經となし、布を織るがごとく粗く編みて南岸より北岸に至る。飛驒白川の釣橋とは稍々其趣を異にせり。此の祖谷山開山は天地陰陽に形とり、地方を東西に分ち、巡回の月數を表し、東は十二々に定め、月の中節二十四季を形どり、西に二十四名を定む。故に三十六の村落あり。今に至るまで皆村に名の字を附す。舊家七家あり。阿波國司

寄殿山

小笠原(三好家祖)の後統にして、西祖谷村の阿佐某なるもの、三階菱の旗を傳ふ。阿れも天正年中の殖民と覺しく、爾後租稅諸役を免かれ、唯兵役に服するの義務を有するのみにて、全く別天地の生活を送り。従つて外界の文明の感化を受くること稀に、太古の遺風を存し、其の舊家七家をば御屋敷と稱して尊重せり。住民の性質は素朴温順にして、山に生ずる茶と葉煙草とを遙々貞光地方に持ち出て、物と換へ、平和なる一生を送れり。本邦深山には往々此地の如きあり、肥後の五箇庄、下野の栗山郷、信濃の秋山のごとき、皆是類なり。而して此等地方の民が皆平家の後裔と稱するは一奇とすべし。貞光より半田を経て、三好郡に入る。郡は縣の西方に位し、四面山岳を以て圍繞し、吉野川は土佐より來りて北流し東流して郡の中央を貫流す。撫養街道は太刀野足代洲津を経て、川を渡りて豫土街道に合し、洲津よりは別に讃岐街道を起す。豫土街道は池田町に至り、急に南折せる吉野川を渡り、白地に至り、二路に岐れ、西するを伊豫街道と爲し、南するを土佐西街道と爲す。縣下有名なる古刹箸藏寺は、撫養街道の洲津驛の北十數町の處にあり。

雲邊寺山

箸藏山の中腹に位し、山麓より登路半里、松柏蒼鬱として、中に宏壯なる伽藍數宇を包む。僧空海の創立にして、大師自刻の薬師如来を其本尊と爲せり。土人これを信仰するもの多く、讃の金比羅の奥の院と稱するに至る。薬師堂鎮守堂護摩堂等あり。賽者常に陸續として絶えず。

辻村は豫土街道の要驛にして、煙草の製造地として著名なり。祖谷山の煙草は多く此地に於て製造す。人口二千、生業裕かにして、人煙稠密なり。二里川上に池田町あり。三好郡第一の都邑にして、伊豫境の山嶺に源を發したる佐野川は此處に來りて吉野川に入る。三好郡役所あり。人口四千を有し、家屋櫛比、百貨輻湊す。煙草の製造も亦甚だ盛なり。吉野川を上下する船舶も亦此處に輻湊するを以て町は一種河港の繁華を有し、縣下西部に於ける第一の繁華を保てり。これより佐野川を西に登れば、馬路佐野の二邑を経て、阿波伊豫兩國の境なる境峠四百七十米に達す。雲邊寺山は其北方に踞蹠し、其頂よりは瀬戸内海を望み得べし。山頂に雲邊寺あり。僧空海の創建せるところにして、嵯峨天皇の勅願寺たり。今は其結構昔の如くならざれど、四間

白地

四面の本堂、三棟建の護摩堂、三間四面の大師堂等流石に宏壯ならざるにあらず。會式縁日には、賽者陸續として踵を接す。天正年中、白地に其城を築きたる長曾我部元親が、此山に登りて、四州を望み、吞噬の念勃々禁ずる能はず、遂に兵を起して、讚を打ち豫を平げ、覇を此地に稱するに至りぬ。英雄の地理を察する深さを見るべし。

土佐西街道は白地より吉野川に沿ひて南す。白地は長曾我部元親の城邑たりし地、今其遺址を存す。これより以南、吉野川の南岸は漸く迫り、平地を得ること殆ど稀なり。されど住民至る處山腹を開きて耕作し、高地に家屋を構へて村落を成せり。此高地には多く煙草を産し、平地には往々にして藍をつくるを見る。白地の地形は交通上甚だ便にして、且險要なれば、長曾我部氏が此に據りて、覇を四國に唱へたるも、亦理ありと謂ふべし。伊豫川の峽谷及び山城谷の地は、煙草の産出多く、白地池田等の町はこれを集めて製造に従事す。川口は伊豫川と吉野川との交叉點に位し、人口二千を有す。吉野川水運の河港にして、土佐より來るものは、多く此處より河舟の便を借りて、

大崩城
小崩城

東部地方に向ふを例とす。西宇より以南は山路愈險に、吉野川の溪流は峡谷をなして深く流れ、大崩城小崩城の邊に至れば、水鳴り石活き、宛然柳州八記の中にあるがごとき思ひをなす。蓋し縣下山水の最もすぐれたるもの乎。これより上名、下名の二邑を經、二里にして、高知縣の境に達す。

再び徳島市に還りて、南に向ひ、吉野川流域以外の地を巡回することとせむ。市の東南富田山の一端勢見の忌部社を右にして南すれば、暫くにして勝浦郡に入り、西須賀の一邑に達すべし。これより一路は岐れて勝浦川の岸に沿ひ、勝浦郡中の一重要道路を爲す。一路は海岸に近く、忽ちにして那賀郡に入る。小松島村は勝浦郡中の第一の名邑にして、人口三千を有し、前に良好なる小灣を展開せり。船舶常に櫛比し、汽笛の音日夜絶えず。街は東西に長く南北に短く、家屋稍々整正なり。地に勝浦郡役所あり。町の南に日の峯と稱する山あり。大字中田の海岸に聳立し、登路頗る險なり。山嶺は四方絶壁にして處々に松樹の盤回するを見、眼下に波濤の澎湃たるを開く。而して小松島の粉壁は美しく夕陽にかゝやきて、宛然活畫圖を見るがごとし。山上

小松島村

沼江

に日峯権現の社あり。この山下は即ち有名なる餘戸の浦にして、源義經が元暦二年平氏追撃の爲め、暴風を犯して上陸したる處、其西方の旗山はかれが先づ旗旒を樹てさせたるどころなりといふ。義經は阿波國守の軍を此處に破り、板野郡の大坂山を踰えて讃岐の屋島に攻め入りたるなり。

勝浦川の長さは十三四里、此間に沼江、横瀬等の名邑あり。皆な舟楫を通す。小松島村の西方半里、多家良村本庄に、曹洞宗の巨刹丈六寺あり。白鳳年間の開基にして、規模構造共に宏壯なり。これより飯谷を經て、沼江に至る。人口二千を有す。地方の一名邑たるに過ぎず。生比奈村大字星谷の山中に岩屋瀑あり。高さ十丈幅四尺、頗る奇觀なり。同村字生谷に古義真言の名刹鶴林寺あり。灌頂瀑は藤川の山中にありて、郡中に於ける瀑布の最も著名なるものなり。三溪村に横瀬津あり。勝浦川舟運の起點なるを以て、山村各種の産物輻湊し、自づから一種の繁華を呈せり。これより徳島地方に輸出するものは、木炭及び石灰を重ねるものとす。これより以西以南は小山矮嶺起伏し、また名邑の記すべきなく、五六里にして旭村に至り、一嶺を踰えて隣

接せる那賀川の溪谷に通ず。

那賀川は縣下第二の大河にして、其長さ二十八里、舟楫を通ずるもの十五里、吉野川と同じく縦谷を爲し、蜿蜒那賀郡の中央を略ぼ東に向ひ貫流す。河の丘陵地を出て、平野に出づる邊は、土地豊饒にして、都邑發達すれど、漸く山に入るに従ひ土俗邊僻にして、人煙また次第に稀なり。徳島市より濱街道を傳ひ、立江の一邑を過ぎ、漸く那賀川の峽谷に入れば、大龍寺山は加茂谷村にありて、孤峯巍然として雲表に聳え、老杉蒼鬱たる中に輪奐たる堂塔甍を並べたり。延暦年間、桓武天皇の勅を奉じて、僧空海が創始せしもの、本堂、三重塔、多寶塔等あり。賽者多く、十二月晦日には通夜するもの千人に及ぶといふ。山頂に行場あり。更に一峯あり、中に四箇の石窟あり。龍の窟鐘の窟最も顯はる。蓋し縣下屈指の古刹なり。山を過ぎて川を溯ること一里、和食の一邑あり。人口千余を有し、地方的小繁華を成せり。此地は那賀川溪谷の山關とも稱すべき要害の地に衝れるを以て、往昔は豪族仁宇某世々居を構へ、長曾我部氏の雄を以てしても、猶ほ之を陥ること能はず、元親

大龍寺山

那賀川峽谷地

自から其女を納れて以て味方となしたることあり。これより流を溯れば、地愈僻に、河床婉曲、道路險惡、殆ど車を通ぜず。かくて和食より溯ること七里、日眞に至り分岐し、一は東流と稱し、劔山の南に其源を發し、木頭掛盤岩倉等の僻邑を有せる一小縦谷を成す。木頭は茶を産するを以て著名なり。一は北川と稱し、土佐中街道の一路これに沿ひて西に向ふ。即ち西宇北川の諸邑を経て、日和田峠を踰え、土佐の別府に出づるもの是なり。此間は木頭上山分と稱し、海部郡に屬し、山路險峻にして人跡稀なり。此地、劔山を隔て、祖谷と相背し、深雲寒村の情態また異ならず。産物は唯木材あるのみ。かくて再び濱街道に戻る。立江は小繁華の一邑にして、地藏寺は其地にあり。四國靈場の一として著名なり。此附近は縣下屈指の米産地にして、稲田穰々として遠く相連る。宮倉末廣岩脇等の諸邑あり。中島は那賀川本流の河口に位し、人口三千余を有す。良港にあらずれども上流より輸送し來れる木材米穀の賣買地として、商業自づから繁盛なり。那賀郡第一の都邑富岡町は中島の對岸、桑野川的那賀川に入らんとする處にありて、瓦甍粉壁盡くが如

中島町

富岡町

津の峯

き光景を呈す。人口六千二百を有し、地に那賀郡役所あり。一古城址あり。これ永祿年中新開忠之の據りし所、天正元年長曾我部元親の爲に歎き亡され終りぬ。町の南に一孤峯あり、鬱然として聳立す。津の峰といふ。麓より頂まで十二町、山上に一小祠あり。賀志波比賣命を祀る。老松岩石の所に簇生し、眼下に一小灣の畫のごとくなるを望み、東方遙かに蒲生田岬の海中に突出せるを認む。灣内小島星散羅列し、島上には松樹點々として生し、風景宛として奥の松島に似たり。辨天島長島神島野々島小勝島鱸島等其名最も顯はる。蒲生田岬の東端にある伊島の翠螺も亦趣を添ふ。柿本人麿歌ふて曰く「百傳の濱の浦和を漕きくれば阿波の小島は見れど飽かぬかも」と。蓋し縣下屈指の名勝なり。

蒲生田岬と伊島との間は一里十五町、此間亂礁多く、橋杭と稱す。舟行甚だ艱む。此近海は鰹の産地にして、鰹漁の光景は壯觀を極むといふ。海岸に椿泊の一邑あり。鑽石と稱する紫赤色なる石を産す。硯をつくるに適す。

濱街道は中野女枝鉦打等の諸邑を経て海部郡に入る。海部郡は縣下屈指の

日和佐

大郡にして、太平洋に瀕するものは、獨り當地方に限れり。氣候風俗物産また他郡と其趣を異にし、阿波の他地方よりは寧ろ土佐に近似す。空氣の濕潤せる、降雨の多量なる、寒暑の激しからざる、氣質の素朴なる、地質の凡て泥板岩より成れる皆相似たり。地貌も亦土佐の幡多安藝に均しく、高山峻岳なきも起伏常ならずして、頗る錯雜を極め、河流に一定の方位を見ず、正に一山地をなせり。山岐浦木岐浦等沿岸の漁業地を過ぎ、日和佐の一邑に至る。邑は日和佐川の河口に位し、人口三千港を有す。海部郡第一の都邑にして、地に海部郡役所あり、徳島市を距ること十三里二十町餘なり。半漁半商の特色に富める名邑にして、人煙稍々稠密なり。大字奥河内にある藥王寺は眞言宗の巨刹にして、四國靈場札所の一なり。賽者常に群を成す。

これより牟岐浦に至る、四里、路は海を離れて丘陵の間を行く。牟岐浦は人口二千余漁業盛なり。この海中に大島津島出羽島等の島嶼散點し、風光明媚なり。牟岐浦と淺川浦との間に八阪八濱の勝あり。其間二里半、大阪内妻濱松阪古江濱芝朶阪九島濱福良阪福良濱萩阪白壺濱鍛冶屋阪宇網濱楠阪桶島

八阪八濱

濱借戸阪三浦濱等即ち是なり。山は峻険にして阪路崎嶇、風浪少しく高き時は、往々人を捲き去ることありといふ。蓋し北越の親不知の險の如く、山路沙路相半せるもの、従つて風景絶佳、宛然畫圖の中を行くが如し。長曾我部元親土佐より此地に入るや、此處に成兵なかりしを喜び、もし此處を扼されなば我事去るべし、今一兵の守るなき阿讃は最早わが掌中にありとて、酒を岩上に酌みて喜びしといふも亦宜なるかな。

淺川より南方に一里、海部川の河口に輛浦あり。一に那佐港といふ。那佐灣の狭長なる入江長く灣入して、自つから良港を成す。船舶の來り碇泊するもの多く、繁華の港津を成せり。人口二千余を有す。安喰はこれを距る二里の處にあり。縣の最南端にして、其光景すべて此等沿岸の諸邑に類す。人口千五百餘を有す。此に縣下有名なる古祠八阪神社あり。

海部川の峡谷は山深く、雲多く、概して山村僻地記すべきこと稀なり。唯此川に添へる一路ありて、那賀川峡谷の土佐中街道に合するあるのみ。其途中、小川より西折せる海部川上流に縣下第一の名瀑轟の瀑あり。

香川縣

人口

安喰より半里にして高知縣の境に達す。

香川縣

香川縣は本地方の北方に位し、南は大半徳島縣に接し、其の一部畿かに愛媛縣に連る。北部と東部と西部とは全く瀬戸内海に瀕す。縣廳を高松市に置き、讃岐の二市七郡を管す。二市は高松市九龜市にして、七郡は大川・木田・香川・綾歌・仲多度・三豊・小豆即ち是なり。長さ凡そ十八里餘、幅凡七里半、面積一〇八〇方里一七〇八九二方籽人口七一三、〇三九二方里六四二四にして、各郡の最も大なるものは綾歌郡にして面積二十四方里を有し、三豊郡これに次ぎて二十二方里を有す。綾歌・木田二郡これに次ぎ、香川、仲多度、小豆またこれに次ぐ。小豆郡は瀬戸内海にある小豆島及び豊島にして、面積八方里を有するに過ぎず。本縣各部に於ける人口の密度は、他縣に見るかごとき極端なる等差なく、一方里四千三百人乃至八千七百人を數ふ。蓋し本縣の文化の度比較的平等にして、僻地の割合に少きに由るなるべし。今、其人口密度を

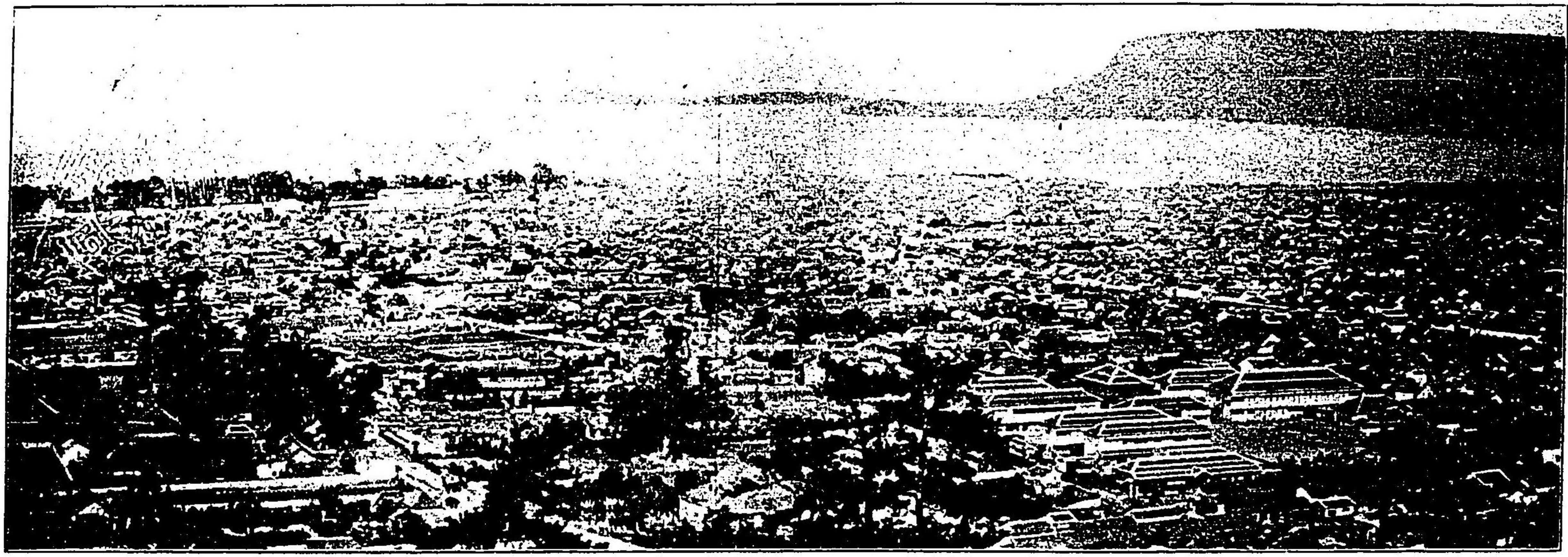
地勢

記せば、仲多度郡の八千七百七十三人を第一とし、香川郡の六千六百五十五人これに次ぎ、三豊郡の六千二百十三人またこれに次ぐ。木田郡は六千百十二人、小豆郡は五千五百六十三人、大川郡は四千三百八十一人、綾歌郡は四千三百三十三人の割合にして、本邦中人口密度の最も多き地方の一なり。

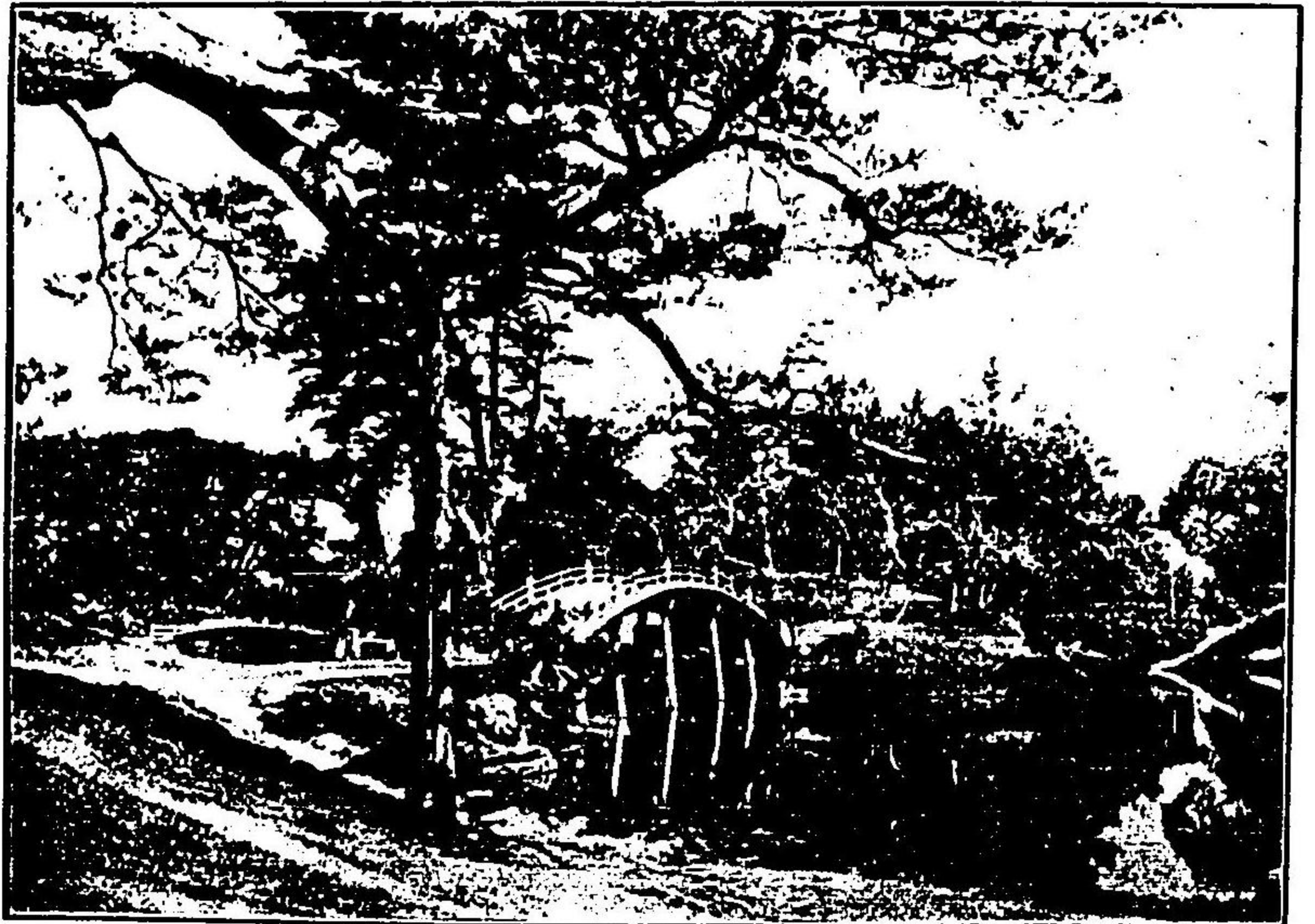
地勢は讃岐山脈の南部に横はり其麓には丘陵起伏して海岸地方の平野に連る。此平野には村落都邑發達し、就中香川郡の平野最も廣く、本縣第一の都會高松市は此處に其の繁榮なる市街を開く。これに次ぐは仲多度平野にして、丸龜市、多度津町の重要な市邑を包む。師團所在地なる善通寺町も亦此中にあり。琴平祠の爲めに發達せる琴平町も此平野を距ること遠からず。

三豊郡は観音寺川の流域より伊豫の國境に近く、海岸地方に平地發達し、観音寺川河口に観音寺町あり。其南に豊濱町あり。共に伊豫街道上の重要な市街を爲せり。要するに此海岸の地は、陸運水運共に盛にして、漁業工業商業發達し、四國地方最も繁華なる地方を成せり。蓋し大阪神戸と縣下海岸各邑との交通自由なるに由るなるべし。

景全市松高岐讚(甲)



園公林栗同(乙)



上同(丙)

産業

河川には鴨部川・新川・香東川・綾川・土器川等あり。皆北流して海に住ぐ。三豊郡に至りて、観音寺川あり。他の諸川と例を異にし、獨り西流して備後灘に入る。此等諸川概して小にして、長きも十里に過ぐるものなく、従つて舟楫を通せず。

縣下の産業は農業・工業・水産にして、農業は米・麥・甘藷等を主とす。眞田製造に使用する麥稈も農業副産物として多額を産す。工業は高松附近の燐寸・漆器・小豆郡の醤油、高松市・丸龜市の麥稈・眞田・大川郡の砂糖、仲多度郡の花筵等其重なるものなり。蠶業には高松・焼屋島・焼あり。前者は稍盛なり。機業は本地方各縣に比して甚だ振はず。絹物にては羽二重、綿織にて白木綿あれど、其發達の餘地は猶充分にあり。水産は頗る盛に、春季に於ける鯛・鱒・鰻・鰯等は頗る多額にして、神戸・大阪地方に輸送す。製造品には乾鰯・煮乾鰯・海參・乾鰯等あり。又、本縣大川郡には全村朝鮮海出漁を業とするものあり。其漁獲物また少しとせず。

縣下の交通を記せんに、鐵道は高松市を起點として伊豫街道に沿うて西走

交通

し、阪出、宇多津を経て、丸龜市に達し、伊豫街道を岐れて、多度津町に至り之れより東南に屈折して、琴平町に達するの線路あり。この哩數二十七哩あり。現今に於ては、鐵道は此一線のみなれど、高松市より阿波の撫養に通すべき阿讃鐵道、金倉寺驛より伊豫の松山に至るべき豫讃鐵道は、共に敷設計畫中に屬せるを以て、此二線路竣工の曉は、縣下陸運は更に大なる發展を見るに至るべし。水運は現今縣下最も重要な交通機關にして、これを司る港灣は高松、多度津を第一とし、東讃に於ける志度灣、西讃に於ける託聞灣これに次ぐ。神戸より高松に至る定期船、大阪より多度津を経て伊豫に至る定期船等頻繁に此海岸を航行し、旅客の往來、百貨の運搬頗る便なり。其他對岸中國地方との交通も頗る頻繁にして、高松、岡山間、尾道、多度津間は毎日相互に汽船の發着あり。本縣が四國地方中、關西商業の隆運を最も多く占めたるは、蓋しこの水運の便に由るなるべし。道路の重なるものは阿波街道、伊豫街道、脇町街道、池田街道の四とす。阿波街道は高松市に起り、元山平木長尾西を過ぎ、北帶山脈の餘波たる丘陵起伏の間を過ぎ、舟生三本松

を過ぎ、引田に至りて海岸に出て、再び山に入りて、阿波の大坂に達す。これ源義經から阿波より平家追討の爲め屋島に攻め入りたる當年の道路なり。道程十三里三十三町なり。伊豫街道は高松市を出て、西し、鐵道線路と相並行して坂出町に達し、丸龜市に至り、これより西折して、琴平に至る鐵路を横さり、寺家を経て、觀音寺平野に出て、和田濱を経て、伊豫の宇摩郡川の江に達す。道程十八里三十三町を有す。脇町街道は前二路の横街道に對して縦街道を爲し、阿波街道の長尾東驛より南に分岐し、鹿庭奥山を経て、清水越の凹所を越えて、阿波の曾江山より脇町に達す。近年の開設にかゝり、行旅多し。池田街道は高松より畑田、瀧宮を經、琴平に至り、財田を經、中蓮寺峰の傍を掠めて阿波に入る。此道路は比較的良好にして車を通し、關西地方より阿波の西部及び土佐に赴かんとするものは、多度津より汽車の便を借りて琴平に至り、これよりこの街道を吉野川流域に出つるを例とす。琴平より阿波吉野川沿岸の池田町まで、行程五里餘に過ぎず。其他重要な道路としては高松より屋島を經て、志度に至り、津田を經て、阿波街道の丹生に出る

高松市

の一線あり。小豆島の交通は、高松市より土庄町へ毎日定期船の往復あり。土庄町よりは蒲生、池田を経て、草壁灣に臨める西下の二邑に達す。道路良好にして車を通す。

吾人は先づ汽船に乗して東方より高松港に入るとせん。五劔山の巍峨たる山容は前に高く、其右に接して、源平合戦を以て歴史上に有名なる屋島山の宛然屋のごとくなるを認むるならん。かくて汽船は兜島、大島、男木島、女木島等の諸島嶼の畫の如く碧瑠璃盤上に散點せる間を過ぎ、遙かに瓦葺粉壁美しく海波に掩映せる高松の市街を望みつゝ、次第に築港の規模整然たる高松港中の人となるべし。

高松市(第四十圖甲)は縣の海岸中央に位し、北は内海に面し屋島は半島をなして其東に突出す。地勢南西に丘陵を負ひ西に狭く東に廣し。道路は東西南の三面より來りて市に集中す。東西二十四町、南北二十五町、市坊の數六十二、人口三萬五千七百餘を有す。四國第二の都會にして、其繁華は蓋し本地方に冠たり。市の沿革を尋ねるに、此地は三百年前にありては、篁原の庄と稱し、

高松城址
高松築港

一箇の漁村に過ぎざりき。天正十一年豊臣秀吉讃岐全土を擧げて、生駒近規を封するや、生駒氏始め引田城にあり、其地勢餘りに東に偏し、統治に便ならざるを以て、一度宇多津城に移り、後再び地を篁原の庄に卜し、玉藻の浦に臨みて居城を築き、名けて高松城といふ。蓋し屋島古戰場なる牟禮高松の名を用ゐたるなり。其後、寛永十九年松平頼重常陸下館より此地に封せられ、以後繼承十一世、以て明治維新に至る。市は南に琴平街道あり。東に阿波街道、志度街道あり。西に伊豫街道あり。鐵路は之に沿ひて西し、高松停車場は市の西方西濱村にあり。されど市の重要な交通は繋りて高松築港埠頭にありて、數隻の汽船は常に煤煙を漲し、汽笛を鳴して、近畿中國地方の交通を便ならしめつゝあり。海上より來りたる旅客は港頭に近づくに従ひて、一箇の白壁城の海を壓して美しく立てるを見て、眼を刮せざる能はざるべし。これ即ち高松城にして、二百五十年前、生駒氏が黒田如水の設計によりて築く所、今、存するものは外郭の城樓二三に過ぎずと雖も、また封建時代を追想するに足る。高松築港は明治二十八年計畫し、五年の後完成したるもの、



其本突堤は西に位し、長さ三百五十間幅五間、其外側に高さ四尺の防波堤を繞らす。これに對せる東方の突堤は長さ二百七十五間幅二間を有す。港内の面積八萬坪、平均干潮十四尺の水深を保つ。本築港に臨むて長さ九十間幅十五尺の浮槽三箇を設け、棧橋を作りて突堤に連接し、船客の上下及び貨物の出入に便にす。其規模整然、蓋し四國諸港に冠たり。

栗林公園

築港棧橋より新港町に出て、進むこと五六町、内町の横街路あり。高松城の城濠と相對す。其一角に香川縣廳あり。これと一路を隔て、高松區裁判所あり。裁判所の西に隣りて、高松電燈株式會社及び高松ホテルあり。縣廳より北すれば、郵便局あり。其北に、一溝渠東西に通し、常盤橋これに架す。橋よりも起れる縦街路は丸龜町通にして、片原町兵庫町の横街路と共に、市中屈指の繁華地なり。市街店舗の光景すべて大阪式にして、風俗又甚だそれに類せり。百間町に、天神社あり。御坊町に興正院別院あり。眞宗にして京都の興正寺に屬す。本堂の構造宏壯にして市内第一の巨刹なり。市役所は五番町にあり。稅務署と高等女學校とは其附近にありて相隣接す。中學校は高等女學校と相對す。天神前に市立病院、香川縣工藝學校あり。天満宮は境内稍廣潤に、市民遊覽の地なり。五番町に淨土宗の巨刹淨願寺、三番町に臨濟宗の名刹法泉寺あり。

常盤橋より通する琴平街道を一直線に北に進めば、十五町餘にして、栗林公園に至る。林泉の美を以て世に聞ゆ。此庭園(第四十圖乙丙)は今を去る二百年前、

延寶中藩祖松平頼重の擬建せるもの、四世の孫頼恭延享中にこれを修治し、以て今に傳ふ。西湖南湖以下六箇の池水と、飛來峯神子峯以下十三箇の陂隄とを以て成り、老樹霽蒼、幽邃の致を極む。岡山の後樂園に比すれば、其風致結構一步を譲らざるを得ざるも、岩石の蒼古なることに於て、他に比すべきものなく、又天下の名園たるにそむかず。此公園の北門に近く、陶器を製造するものあり。所謂高松焼にして、紀太理平の後裔と稱す。

公園の西半里、宮脇村に石清水八幡宮あり。龜命山の半腹に位し、縣社にして高松市の鎮守神なり。

停車場は丸龜街道に位し、其北に西濱の小港あり。防波堤を有す。この東を絲よりの濱と稱し、風景絶佳なり。蓮華寺波止場はこの東に連る。和船常に輻湊す。

市の物産は燐寸漆器にして、燐寸は年産額二十萬圓に達せり。

高松市を過ぐる者は、必ず屋島山に登躋せざるべからず。屋島山の風景は常に四國に冠たるのみならず、また日本屈指のものたればなり。此地は高松

屋島山

市を距ること遠からず。市の東郊、御坊川に架せる新橋を渡り、志度街道を東にすゝめば一里にして春日驛に達す。古高松驛は其東方十數町にあり。これより矢島寺に養し、西瀉元に至り、これより登臨す。登路十町餘に過ぎず。山は南北に長く屋梁の形を爲し、東麓に源平古戰場なる有名なる埴の浦あり。山角海中に突出する處を長崎と稱す。安徳天皇行宮の舊址として著名なり。壽永二年、平氏太宰府にありて緒方惟義の爲めに追はれ、逃れて此地に来る。菊池胤益材を阿波に取り、内裡及び大臣公卿の居所を造營し、元暦二年、源義經の爲めに焼く所となれり。屋島寺は山の頂にあり。南面山千光院と稱し、四國八十四番の札所なり。山頂の眺望の絶佳なるは、容易に名狀すべからず。西方、海灣の弓弦を引ける間に、高松市の瓦葺粉壁は築港の石堰を擁して宛然畫くが如く、大小の島嶼碧瑠璃盤上に浮び、氣象の濶大なる、眺望の絶佳なる、三景の美と雖ども多くこれに缺くべしと思はれず。春光駘蕩の候、秋天寥廓の節、これに登臨せば、殆ど忘我の境に遊ぶの思ひあるべし。埴の浦は平軍の源氏を迎へて決戦せしところ、今日猶當年鼙鼓の聲を聞くの思ひあ

總門跡

り。曾て聞く風景は歴史を得て更に佳なりと、屋島のこときは蓋し最もこれに適ふものなり。

古高松より志度町に至る間は、源平の古跡甚だ多し。總門跡と稱するは平家の諸將が陣營を設けたる地、志度街道より右折數町の處にありて、今猶田畝の中に二柱を存す。平軍は牟禮村の六萬寺を行在所と爲し、此處を總門として、大に源氏軍を防かんとせしも、勢利ならずして、遂に船に乗りて壇の浦に浮びぬ。六萬寺は今牟禮村に僅かに寺名を留むるに過ぎず(第四十圖乙)。源氏の驍將佐藤繼信か墓も、其街道上にあり。今、石碑を立て、其事を表彰す。石碑の傍に繼信の乗馬大夫黒の墓あり。又、牟禮の海岸に至れば、祈石駒立石あり。那須宗高が扇を射んとして祈念せしところなりといふ。また射落畑は佐藤繼信が義經に代りて戦死せしところなりと傳ふ。里傳信するに足らずと雖も、亦當年を追想するに足る。

繼信墓の上に一丘あり。これ、神櫛王の墓(第二十圖甲)なり。里俗大墓又は王墓と呼ぶ。王は景行天皇第十七の皇子にして、讃岐國造の祖、屋島の下に宮居

六萬寺

五劍山

したまひ、墓して後此處に葬る。事は國史に明かなり。二箇の石あり、北面して立つ。其面に星辰の象を刻せり。

牟禮村の北に、讚の名山五劍山屹然として聳ゆ。其形鋸齒の如し。(地形地質の章參照)山の半腹に一寺あり。五劍山千手院と稱す。眞言宗にして、四國遍路巡禮の札所なり。延暦年間、僧空海の創始せるところ、本堂、大師堂、聖天堂等あり(第二十六圖丙)。五劍山は海拔三四七米、山麓より頂上まで二十四町、中腹に至るまでは松樹多けれど、その上部は怪岩突起容易に足を着くべからず。

また牟禮村に白羽八幡宮あり。碩儒柴野栗山の遺宅(第四十圖丙)あり。

高松市より起れる阿波街道は、志度街道と二里弱の距離を隔てつゝ、木田郡の中部を西に走れり。此間に元山平木の二邑あり。山中なる西植田に、戸田、神内の二城址あり。十川に西尾城址あり。三谷に三谷城址あり。共に戰國時代土豪の割據せる所なり。東植田に松尾池、神内池と稱する小池あり。志度街道は牟禮村より五劍山の麓を掠め、大町を過ぎ、原に至りて全く海

志度町

岸に出づ。即ち志度灣にして、眼下に志度の市街を見る。小串岬東北に突出し木田郡の丸山鼻と相對し、風景絶佳なり。志度町は東西一里廿九町、南北廿九町、人口八千余を有し、市街整正、家屋櫛比、人煙稠密なり。町に多和神社あり。式内社の一にして寶物多し。境内又眺望に富めり。新町に平賀源内の故宅あり。源内の事蹟は人皆知る。今日地に源内焼なる陶器を産するも、渠の指導に由るといふ。町の東北端に、名刹志度寺あり。補陀落山と稱し、四國遍路巡禮の札所なり。創立は頗る古く、推古天皇の朝にありと傳ふ。天武の朝、大に堂宇を修め、持統天皇僧行基を遣はして法華入講を修せしめしより、更に隆盛を加へたり。爾後盛衰一ならざりしも、賽者は常に陸續として絶えず、現今の堂宇は明暦三年より安永七年に至る間の建設なりといふ。結構宏壯、頗る輪奐の美に富む。寺、寶物を藏すること多く、就中繪畫絹本着色十一面觀音像、着色志度寺緣起圖幅、彫刻木造十一面觀音兩脇士像は國寶として重せらる。また、町の東南端に高松藩主の菩提寺靈芝寺あり。

長尾村

長尾村は阿波街道上に位し、志度町の南二里にあり。人口七千を有し、大

志度寺

武の朝、大に堂宇を修め、持統天皇僧行基を遣はして法華入講を修せしめしより、更に隆盛を加へたり。爾後盛衰一ならざりしも、賽者は常に陸續として絶えず、現今の堂宇は明暦三年より安永七年に至る間の建設なりといふ。結構宏壯、頗る輪奐の美に富む。寺、寶物を藏すること多く、就中繪畫絹本着色十一面觀音像、着色志度寺緣起圖幅、彫刻木造十一面觀音兩脇士像は國寶として重せらる。また、町の東南端に高松藩主の菩提寺靈芝寺あり。

津田町

川郡役所は此處にあり。市街繁華と謂ふべからざるも、家屋長く街道に連り、純乎として宿驛の特色を有す。長尾西に、四國遍路巡禮の札所長尾寺あり。長尾東に眞言の名刹極樂寺あり。寺に國寶として木造彫刻藥師如來立像を藏す。長尾東よりは阿波脇町に通する新道開設せられ、行旅稍多し。この隣村石田村に農事試験場あり。富田村には、宇茶白山に上代の石窟古墳あり。志度町より東せる街道は、鴨部川を渡り、鴨部中筋、鴨部東山を過ぎ、海岸の一名邑津田町に達す。町は東西十七町、南北三十町、人口六千五百を有す。商賈櫛をたらね、人煙稠密なり。此町に特筆すべきは、宇北山と宇小田との部落、悉く韓國遠洋漁業を業とせることにして、縣下遠洋漁業者の總數の九分は實に此の町附近を根據とす。組合東支部を津田町に西支部を小田村に設け、盛に其事業に執筆せり。出漁期は春季と秋季にして、春季は四月より六月まで、秋季は十月より十二月までなり。彼等は韓國各道の海面に漁場を擴張し、本國地先海面の如きは老幼者に委して顧みずといふ。其漁獲物は鯛及鱈にして、彼地にて販賣するものと鹽藏して持ち歸るものとあり。年

津田松原

産額少くとも八萬圓を下らず。
津田町を出て、東すれば、平滑なる沙濱に松樹碧を拖き、風景描くかごとし。これ即ち有名なる津田松原(第三十圖)なるもの、一に琴林と稱し、東讃屈指の勝地なり。林中には八幡神社あり。これより鶴羽町を過ぎ、丹生に至りて、西より來れる阿波街道に合す。

丹生村字大谷に眞言宗の名刹釋王寺あり。其所藏せる彫刻木造聖觀音像は國寶なり。同村字土居に、脇屋義治の墓あり。これより阿波街道は西村を経て三本松町に至る。町は人口三千餘を有し、富豪豪商多く、郡内最も繁盛の市街なり。町に區裁判所あり。町の東一里、松原村に白鳥神社あり。縣社にして日本武尊を祀る。東讃屈指の古祠なり。ことに秋季祭禮の儀式に古風を存し、來り觀るもの多しといふ。これより二里にして引田の一邑に達し、風光明媚なる引田浦の岸を繞ひ、馬宿坂元を経て、阿波の大坂峠に至る。

高松市の南方、香川郡亦記すべきこと尠なからず。先づ琴平街道を東に距る里許、一の宮村に國幣中社田村神社あり。國中の一ノ宮にして、元明帝和

佛生山町

銅二年の創建なり。堂宇宏壯ならざれども境内清洒なり。この西に隣りて眞言宗の古刹大寶院あり。此東一里に佛生山町あり。人口六千を有し、阿波別街道は此より南に岐る、を以て、人煙稍稠密なり。町に淨土宗の巨刹法然寺あり。讃岐別街道は大川郡の脇町街道新に修築せられたる以來、行客稍減少したれど、阿波の中部に至る重要なる道路なることは言ふを俟たず。此道路は香東川の上流に浜り、安原上東安東上西の二路に岐れて阿波に入る。由佐村に冠尾八幡宮、天福寺等あり。安原村大字安原下に最明寺あり。鹽の江礦泉は安原上東村によりて、周囲は峯巒連亘し、清流其間を奔下し、自づから幽邃の一區を爲す。泉質は炭酸泉にして、沸して游浴に供す。夏時は浴客群を爲す。

再び高松市に還り、更に伊豫街道を西に進むとせんか。檀紙村大安中間に中間天神社あり。高松市より起れる海岸の一路は、香西を経て、縣下著名の勝地白峯山に達す。山は崇徳天皇の山陵と眞言の古刹白峰寺を有するをもつて世に聞ゆ。白峯山(第二十圖)は松山村にある一丘陵にして、香西より登るもの

白峰山

と讃岐鐵道の橋岡驛より至るものとの二路あり。白峰神社は山の中途に位し、崇徳天皇の山陵は其背後千兒ヶ嶽の絶頂にあり。保元の亂、崇徳天皇の此地に遷させられ、空しく恨を吞んで、崩御給ひしは、史を讀むもの、皆な悲憤する處なり。此廟、維新後までは門に頓證寺の額をかゝげ、白峯寺主として其祭祀を營み來りしが、明治十一年改めて縣社と爲し、白峯神社と稱し、崇徳天皇を祭神と爲せり。本社拜殿神門等宏壯にして、賽者をして自から襟を正さしむ。其南に、白峯寺あり。松山村大字青海に屬す。眞言宗の巨刹なり。貞觀二年、智證大師此山を開き、弘仁六年、僧空海始めて伽藍を建設し、長寛二年、崇徳天皇の廟を建設す。境地は山中松樹蒼鬱の間に位し、幽邃深奥、自つから別乾坤の思あり。北の一面は斷巖屹立し、瀬戸内海は一碧鏡の如く、鹽飽諸島は點々として、宛然瑠璃盤土に基石を散じたるが如し。本堂大師堂阿彌陀堂行者堂等、頗る輪奐の美を極む。十一面堂には崇徳天皇の御持佛たりし十一面觀世音木像を安置す。

國分寺

國分驛に國分寺あり。其本堂は特別保護建造物にして本尊木彫十一面千手

觀音は國寶なり。高さ二丈一尺、頗る逸品なり。國分に隣れる、府中村には崇徳天皇の行在所たりし木丸御所址あり。天皇は林田の御所より此處に移らせ給ひ、六年にして崩御あらせ給ひぬ。址は一堆の丘岡を成し、松樹鬱蒼として行客をして當年を思ふの情に堪へざらしむ。丘上に一小祠あり。里人これを天皇社といふ。同村城山の麓字北谷に、城山神社あり。讃岐國造の祖神櫛王を其祭神と爲す。創建頗る古く、國內式内廿四社の一なり。また此城山に、城山長者の遺墟と稱する大石窟あり。府中より西すれば加茂村あり。地に式内二十四社の一なる加茂神社あり。其北神谷に神谷神社あり。海岸に近く林田村に雲井御所址あり。崇徳天皇が同郡松山に御着船ありし時、國司未だ御所を造營せざりし爲め、在應野太夫高遠の檀寺なる長命寺に奉迎し、此處に三年のいふせき月日を送り給ひぬ。宸筆の御製「こゝもまたあらぬ雲井となりにけり空行月のすむに任せて」は此寺の柱にしるし給ひしもの、天正の兵燹以前までは依然として存じたりきと傳ふ。雲井の御所の名は蓋しこれより起る。伊豫街道の西庄村に、當國第一の清泉なりといふ八十八の清水あり。

瀧宮村

其水清冽にして旱天にも枯るゝことなし。
 琴平街道は伊豫街道と一里餘の間を隔てつゝ、綾歌郡の中央を東南より西北に向つて駛れり。此間を記すれば、高松市より圓座山崎陶等小丘陵の間に連れる諸邑を過ぎ、綾川の清淺なる流を渡りて、瀧宮村に至る。村は綾歌郡の中部集散地を爲し、人口五千を有し、家屋櫛比し、人煙稍稠密なり。村に瀧宮天満神社あり。縣社にして菅原道真を祀る。道真仁和二年四十二を以て讃岐守に任し、此地に官衙を置き、政を布き民を撫せり。民今に至るも、其徳を稱す。この西に瀧宮神社あり。菅公在任の頃、屢其處に遊びしこと、文集中に見えたり。以て其の古祠たるを知るべし。寺寶として木像菅公座像を藏す。また其神門内に國分石あり。相傳ふ菅公讃岐國守たりし時、此地を國の中央と定め、此石を建てたるなりと。宇北上の原に光貴寺あり。菅公來遊の古址として著名なり。

坂出町

再び伊豫街道に戻れば、西の庄の西半里に、坂出町あり。町は綾歌郡の北部に位し、前に穩波瀆が如くなる瀬戸内海を展く。戸數二千三百、人口一萬

宇多津町

二千餘を有し、伊豫街道上屈指の都會なり。此町は製鹽の都會と稱すべく、其發達、その繁華全く懸りて鹽業にあり。この町の今日の如き隆盛なる業況を呈するに至りしは、今より七十年前大川郡引田村の人桑榮左衛門なるもの、惣めて鹽田一百町歩を開墾せしに胚胎す。蓋し本郡食鹽の生産は、其産額全對下の半數以上を占め、其輸出は總て本港と經過せざるなし。従つて専賣局の出張所を集め商賈運漕店街頭に櫛比す。近年之に加ふるに、麥稈眞田の製造、紡績の製出を以てし、商工業の地として、益發達の域に進めり。地に、綾歌郡役所縣立商業學校讃岐紡績會社あり。その他各種の銀行發達し、金融機關全く備はれるは、多く他市街に見る能はざるところなり。海岸、坂出浦の地は、多くは鹽田にして、其規模、設備の大なる縣下他に其比を見ず。(第十四圖甲)

町と一小丘陵を隔て、宇多津町あり。新川の流其市街の中央を貫流す。人口五千八百を有し、其繁華坂出町に次ぐ。坂出町と同じく製鹽業の都會にして、鹽田町の東西に連る。されど此町の發達は坂出町に比して甚だ古く、歴

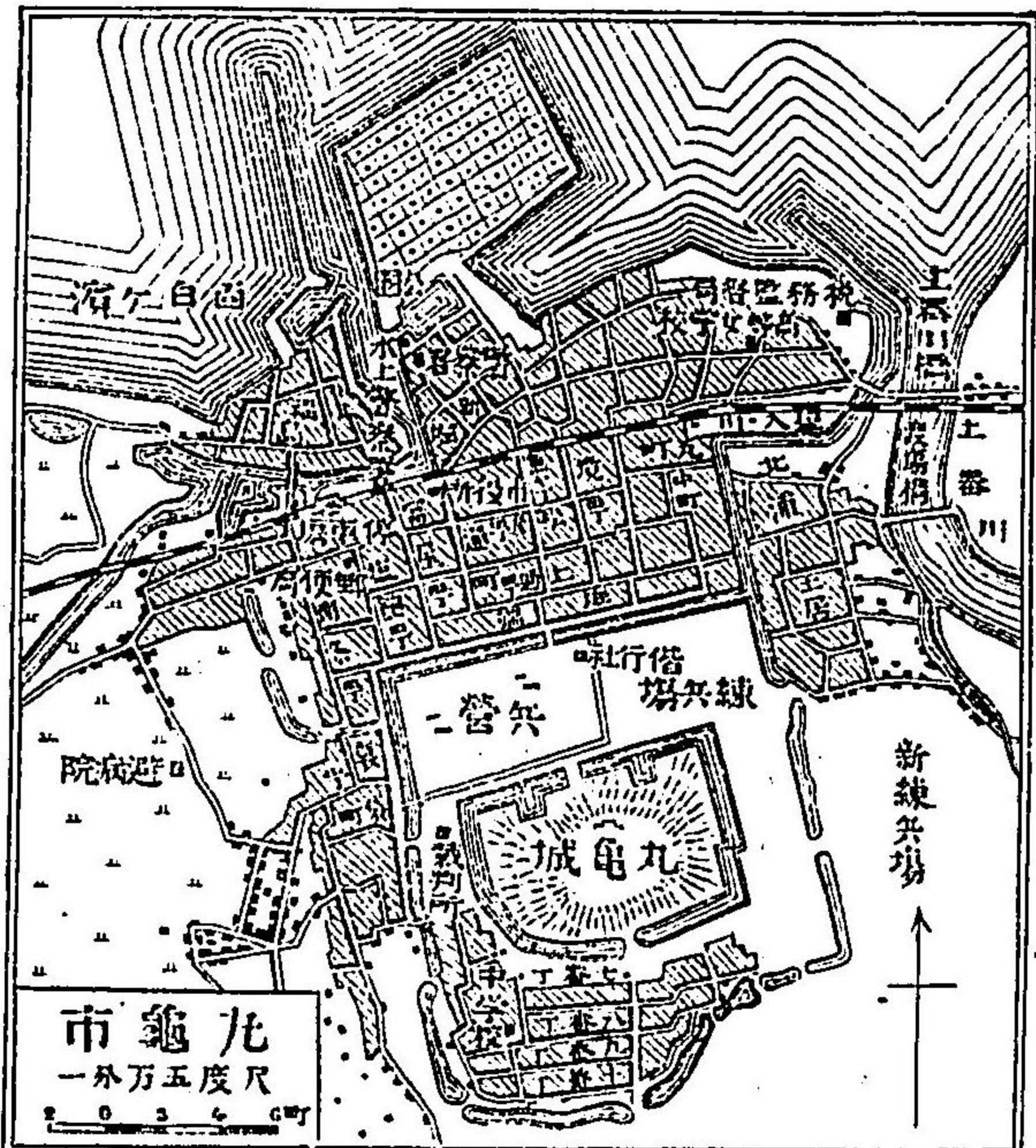
飯野山

丸龜市

史上早く世に開えたり。蓋し西讃の地に於ては、最も古く發達したる所なるべく、細川頼之曾て此地に陣し、土豪奈良氏を白峰に攻めたることあり。豊臣氏が生駒氏を讃岐に封するや、先づ此城を其居城と爲せり。今、其城址、聖通寺山の背後に残れり。町の西南丘陵の上に、四國遍路巡禮の札所なる道場寺あり。其に接して、聖通寺あり。共に西讃の古刹あり。町を貫流する新川の上流、西岸に飯野山あり。海拔四百四十米、平野の間に特立し、數里を隔て、これを望むを得べし。山容富嶽に似たるを以て、世にこれを讃岐富士と稱す。西に飯神社あり。式内二十四座の一なり。

讃岐鐵道はこれより土器川を渡りて、西讃の都會丸龜市に達す。
 ●丸龜市は讃岐海岸の中央に位し、東西十一町南北十二町、市坊の數三十、人口二萬三千餘を有す。此地、昔は今の米屋町を限り、其以東は舊鶴足郡津野郷に屬し、以西は舊那珂郡柞原郷に屬する一小村落なりしが、慶長二年生駒親正此處に城を築き、宇多津の住民を移せしを始とし、寛永十八年山崎榮治入城以來商工の移り住むもの多く、萬治元年京極高和入府してより、益繁

盛に起き、七世二百餘年の間に、地を開き海を埋めて、遂に一都會の地を成すに至れり。現今市は四國街道の起點に當り、中國四國交通の連絡點を成し、百貨輻輳、人煙稠密なり。國道二條、一



は東高松を経て阿波に通し、一は西南仲多度郡龍川村に至り、岐れて二となり、南するものは琴平を経て阿波に入り、西するものは三豊郡を貫きて、伊豫國に通ず。鐵道は市の北部を過ぎて多度津町に向ふ。

市の北端に、新堀港あり。往時は金比羅參詣の要津にして、那珂港と稱したりしも、港内水淺く、海底遠淺にして、汽船の出入に便ならざるを以て、今

は多度津港に其繁華を移したり。現今防波隄長く海中に突出し、和船出入の便に供せり。伊豫街道は市の東端土器川橋より汐入橋を渡り、北平山町西平山町を過ぎて南に向ひ、通町なる繁華なる街道を過ぎ、本町一町目の角を西に折れて西に向ふ。本町一町目角より南を指すものは、琴平街道にして、上通町より堀端を過ぎ、餌指町を経て南に向ふ。此二大路の分岐せる附近、即ち通町の一區は、市の最も繁華なる處にして、銀行會社等多く此處に集る。濱町の南角に市役所あり。これに東南に對して勸工場あり。丸龜商業銀行あり。市廛軒を接し、百貨輻湊し、行人織るが如し。此街路の正面は、丸龜城址にして、一小丘陵を成し、松樹鬱蒼たる間に、石垣階を成して聳え、上天守閣の美しき白壁を認む。城内に第十二聯隊區司令部あり。歩兵第十二聯隊の兵營は其附近に散在す。又其舊壕内に練兵場、作業場あり。作業場と一渠を隔て、更に廣濶なる新練兵場あり。日夜操練演習の聲を聞く。中學校は城址の背後六番町にあり。

市の著名なる神社は、本町の西端にある天照大神宮と、城址の背後にある

多度津町

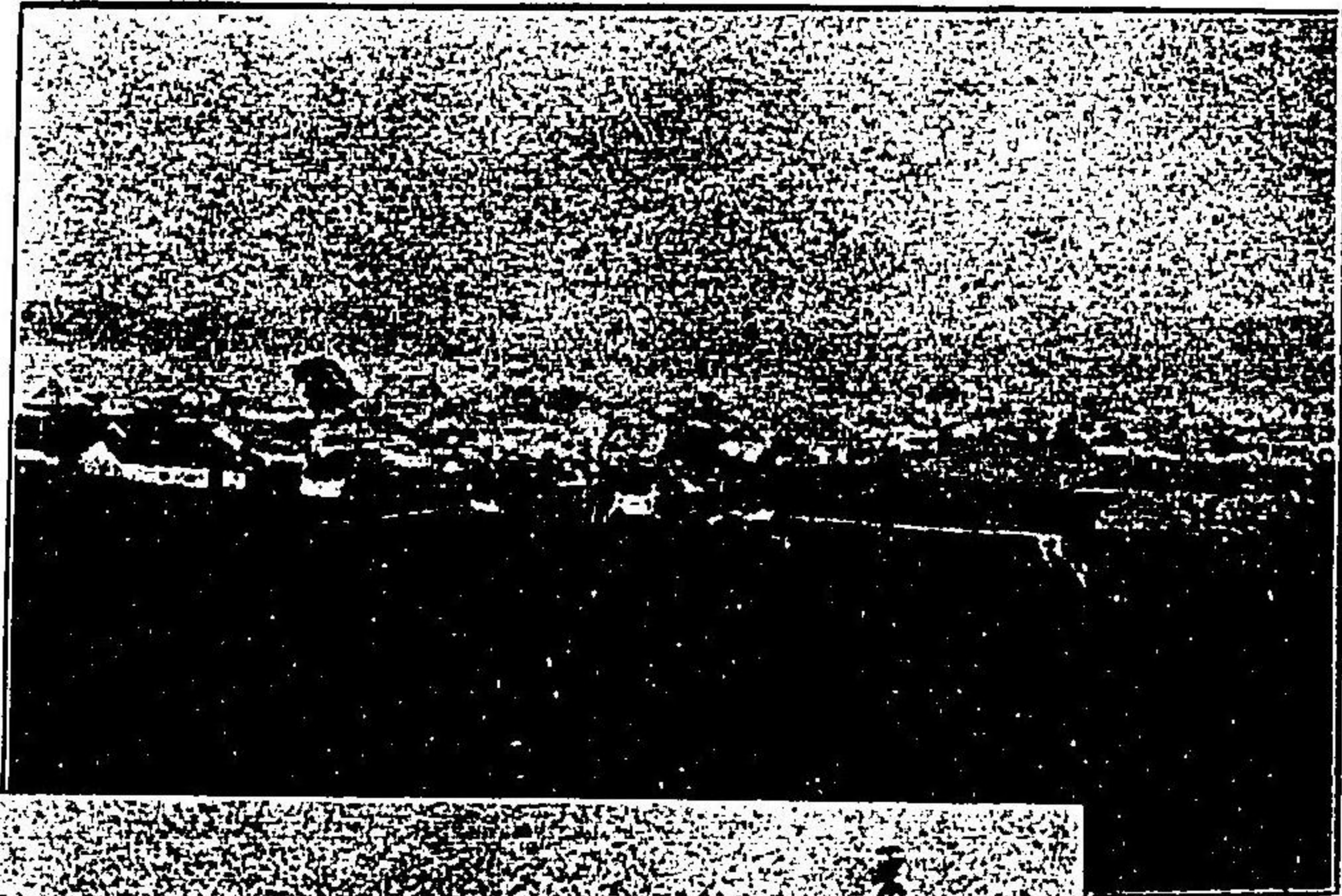
八幡宮にして、寺院は、南條町の主要寺法善寺・宗泉寺・富屋町にある法妙寺等なり。主要寺にはかの有名なる金比羅利生記の主人公民谷小太郎の墓あり。法音寺には井上通女の墓あり。宗泉寺には丸龜藩祖歴代の墓あり。海岸埋立の地は港として一種の繁華を有し、新堀、福島の地區殊に喧噪を極む。新堀に、魚市場あり、福島に花筵製造所あり。市は甚だ生産力に富み、團扇花筵竹細工を産し、花筵のごときは年産額四萬圓に達す。これより街道鐵路共に海岸を西南に駛り、一里余にして、多度津町に至る。町は人口七千七百を有する繁華なる都邑にして、中國交通の要津に衝り、頗る殷賑を極む。殊に、四國第一の流行神なる金比羅神社は此處を南に距ること三里餘に過ぎず、賽者多く此港に上陸するを常とせるを以て、旅客常に群を爲し、港頭は防波隄を築きて、船舶の出入に便にす。ことに港内水深きを以て、汽船絶えず碇泊し、大阪四國間、多度津尾の道間の定期汽船は日毎に此港に出入す。中の町角屋町等最も繁華なり。町に多度津城址あり。また染織學校あり。

讃岐鐵道は其本社を多度津町に有し、これより南、琴平町に其線路を延長す。多度津驛の次驛に金藏寺の一驛あり。驛を距る東方一里に、西讃の一名刹金倉寺あり。智證大師生誕の地にして、齊衡二年の創始にかゝる。往昔は七堂伽藍、頗る壯嚴を極めたりと云ふ。今、猶金堂大師堂を有し、結構壯嚴なり。四國靈場遍路巡禮の札所として、賽者常に群を成す。其所藏智證大師傳來兩界曼荼羅及び大般若經本尊十六善神像は國寶たり。此村に農事試験場あり。

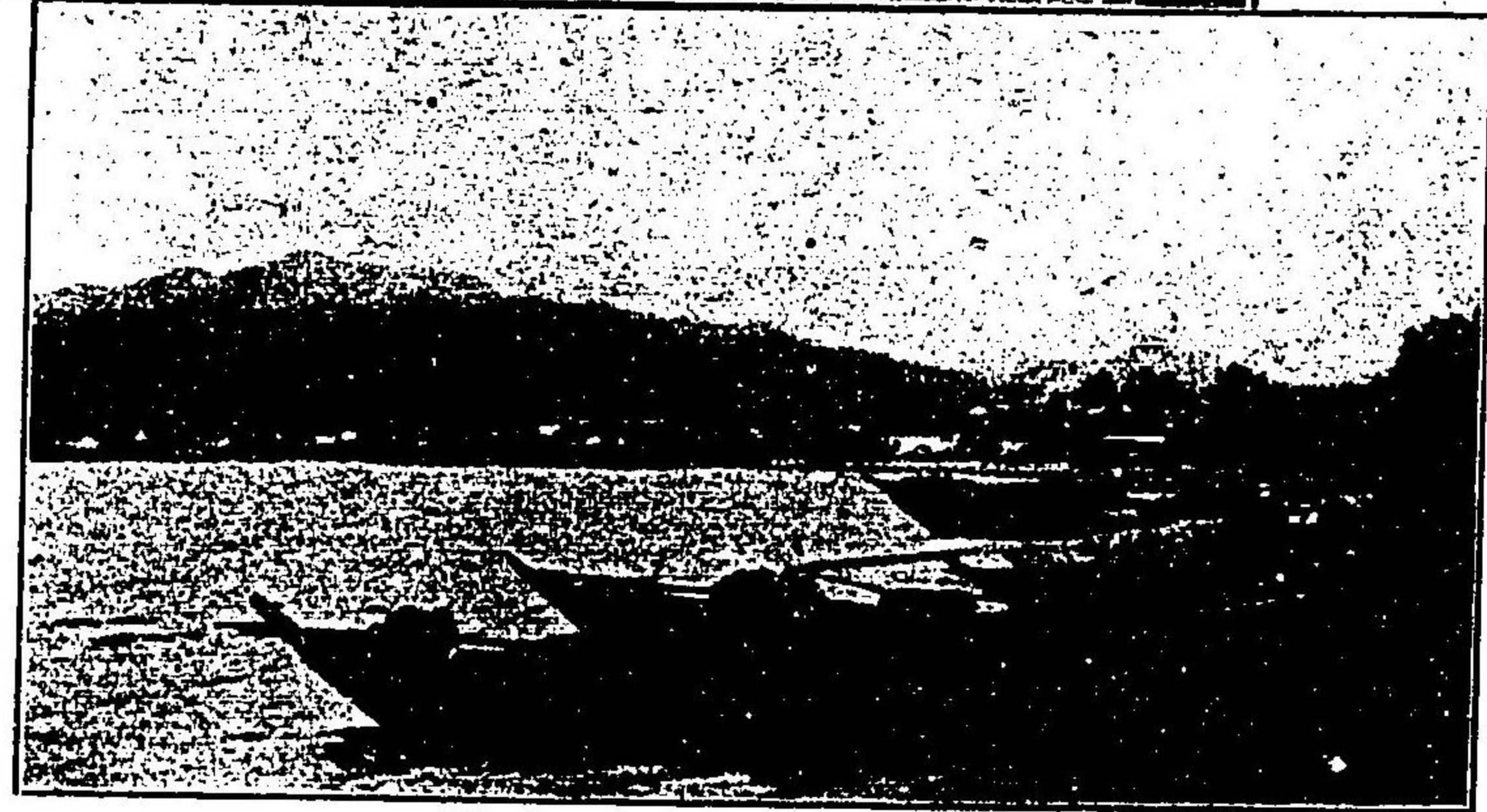
普通寺町

普通寺町は多度津町の南、二里餘にあり。此町は普通寺あるが爲めに、往昔より多少の繁華を有したれど、今日のごとき繁盛を來したるは、全く師團兵營の設置による。明治三十一年十一師團司令部を置き、歩兵第四十三聯隊及び騎兵砲兵工兵等の兵營設立せられしより、人煙日を追ひて増加し、明治三十年までは戸數八百人口三千三百に過ぎざりしもの、今は戸數二千三百人口一萬二千を有するに至れり。以ていかに町の進歩の速かなりしを知るべく併せて「兵舎町」の稱ある所以を知るべし。普通寺は町の西方にあり。五岳山麓

町度志岐讃(甲)



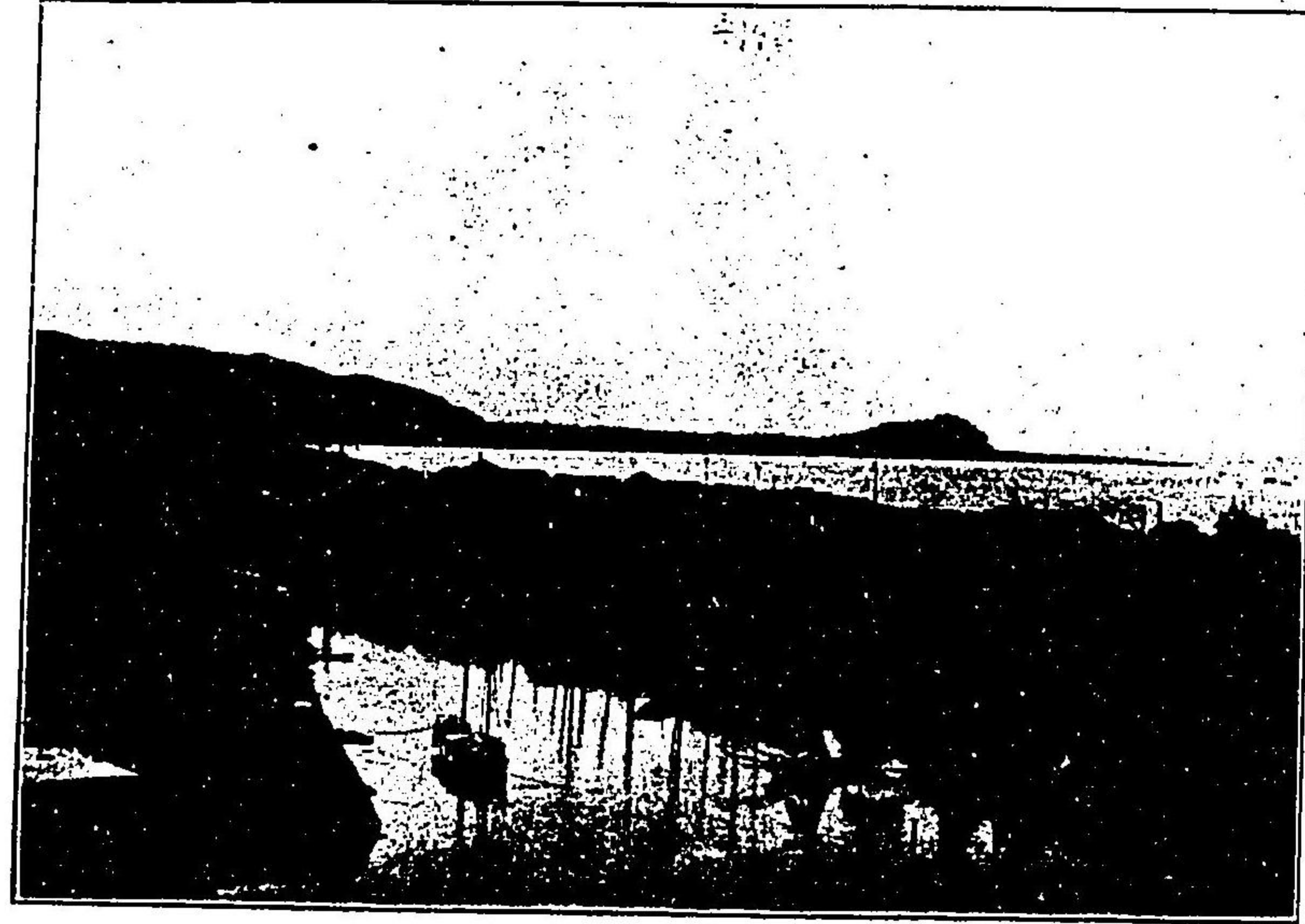
(乙) 同上市街



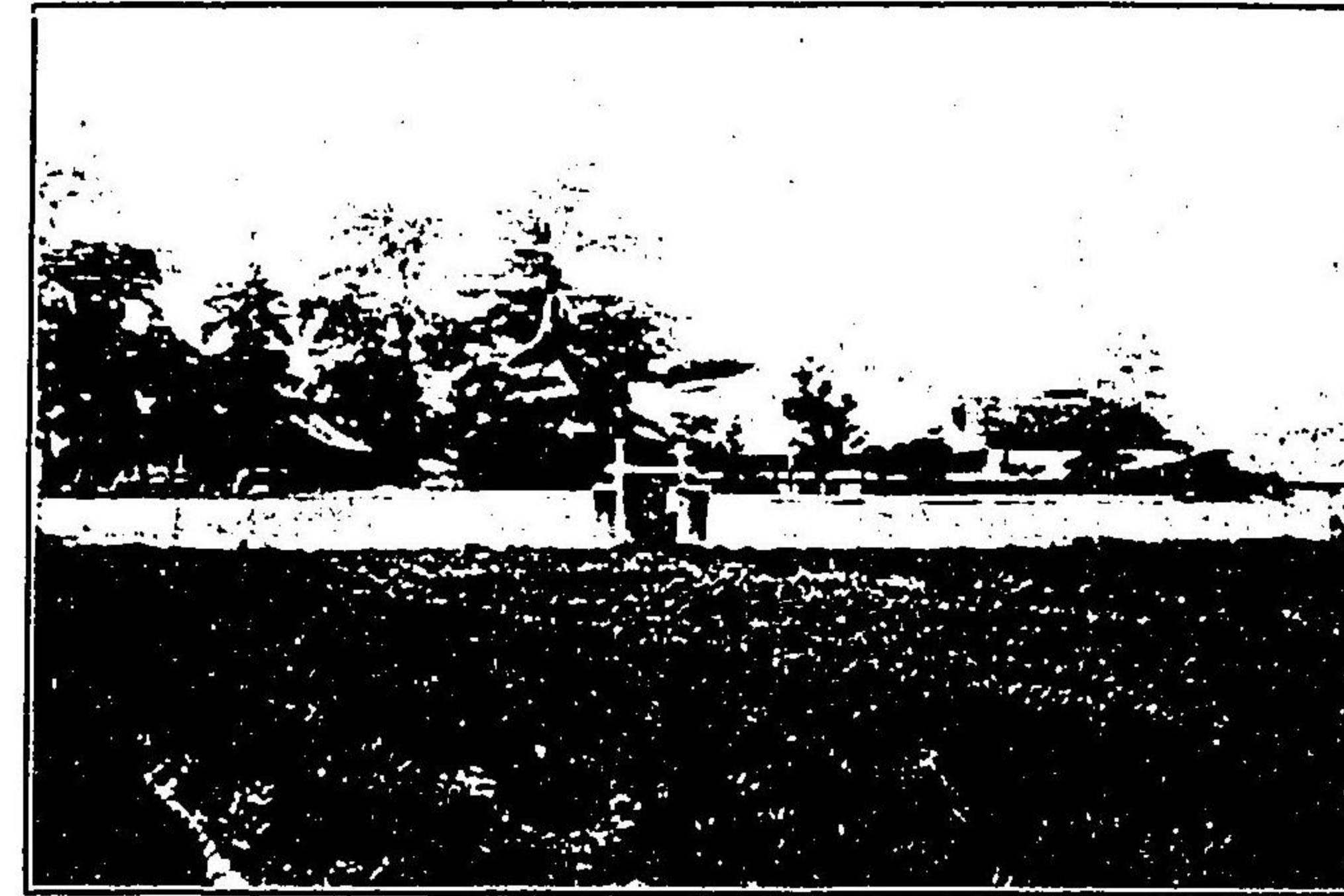
岸海同(丙)

(第四十一圖)

港出阪岐讚(甲)



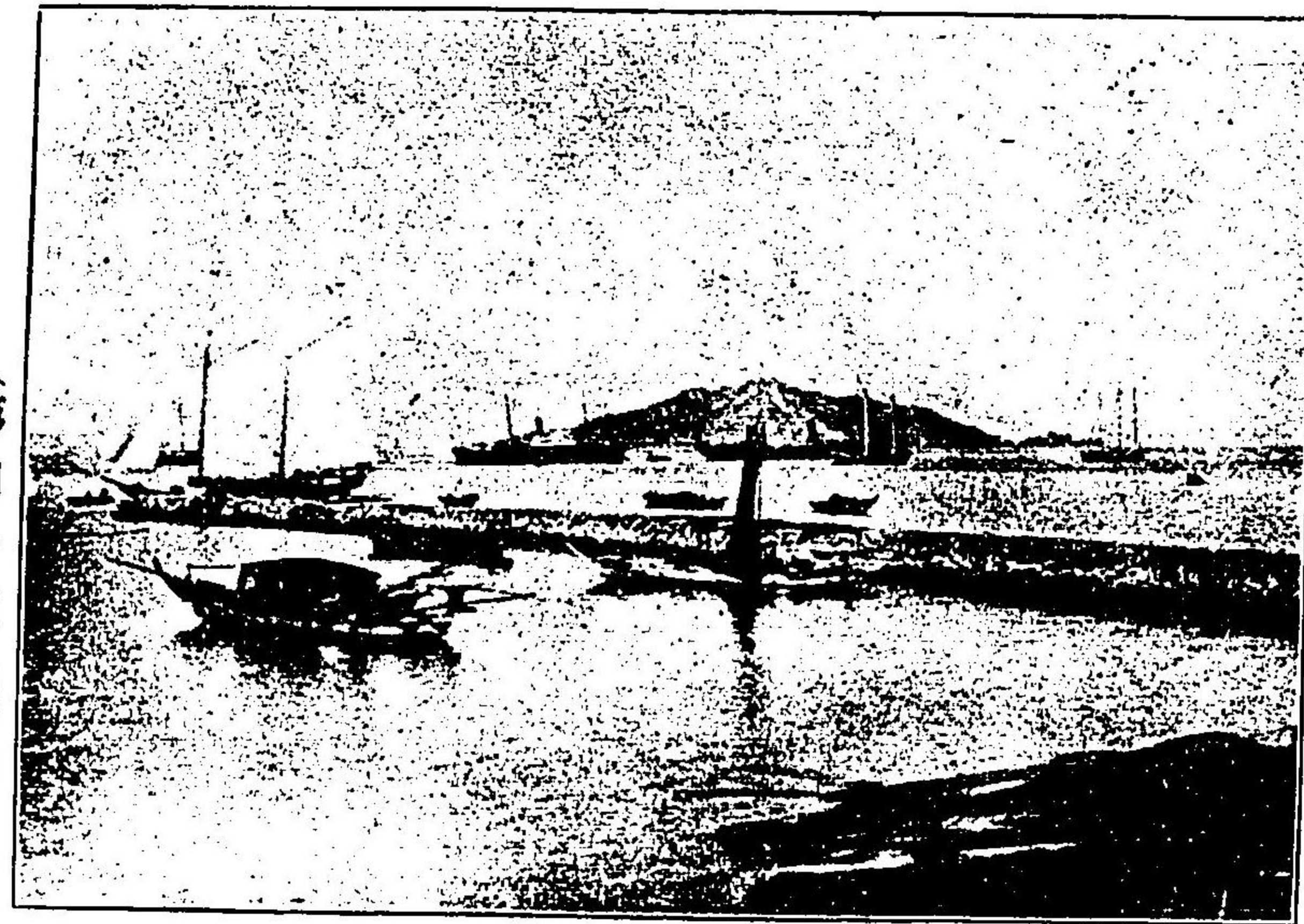
寺崎洲岐讚(甲)



(乙) 同六萬寺

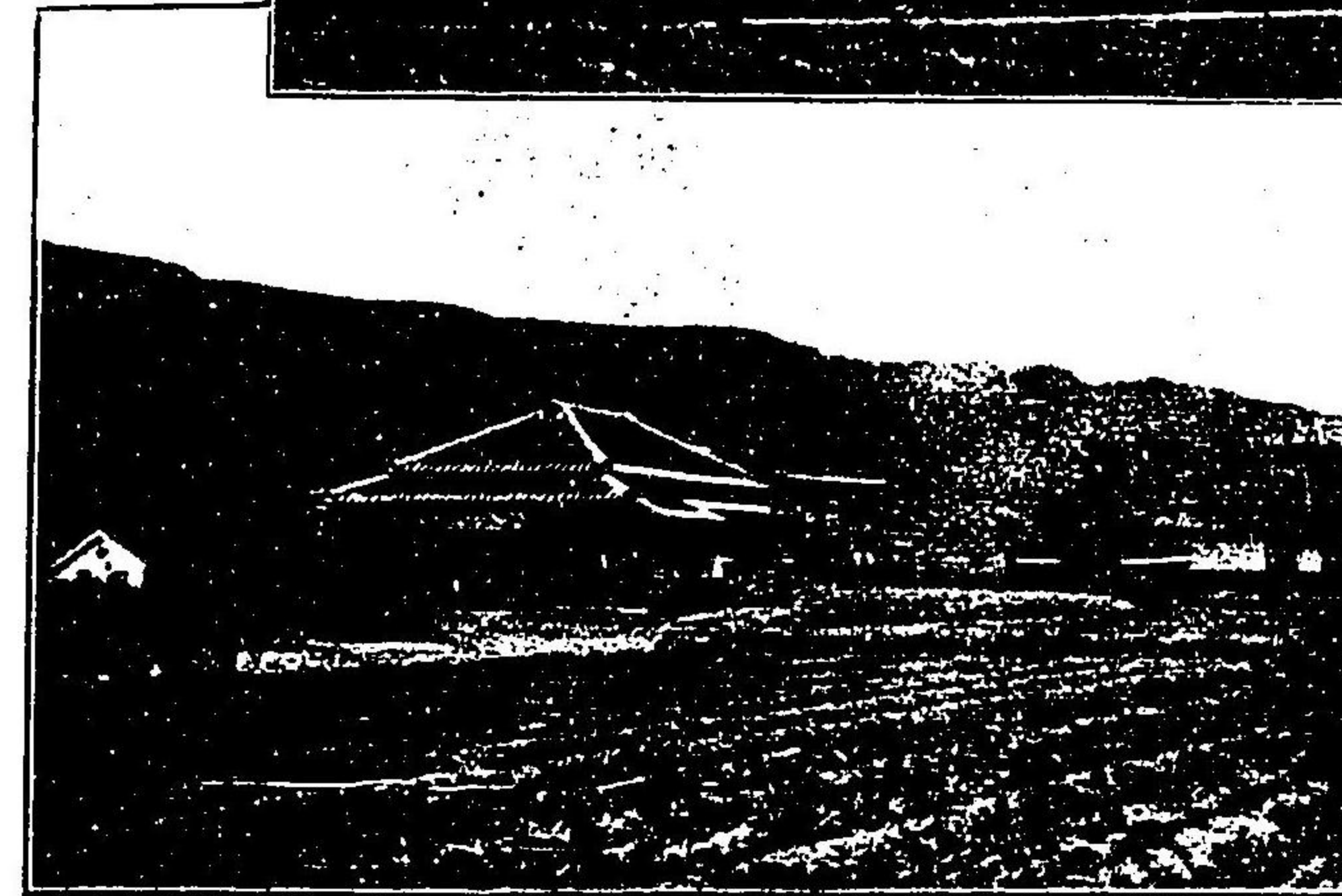


(第四十三圖)



む望を島居瀬上同(乙)

宅故山栗野柴同(丙)



(第四十二圖)

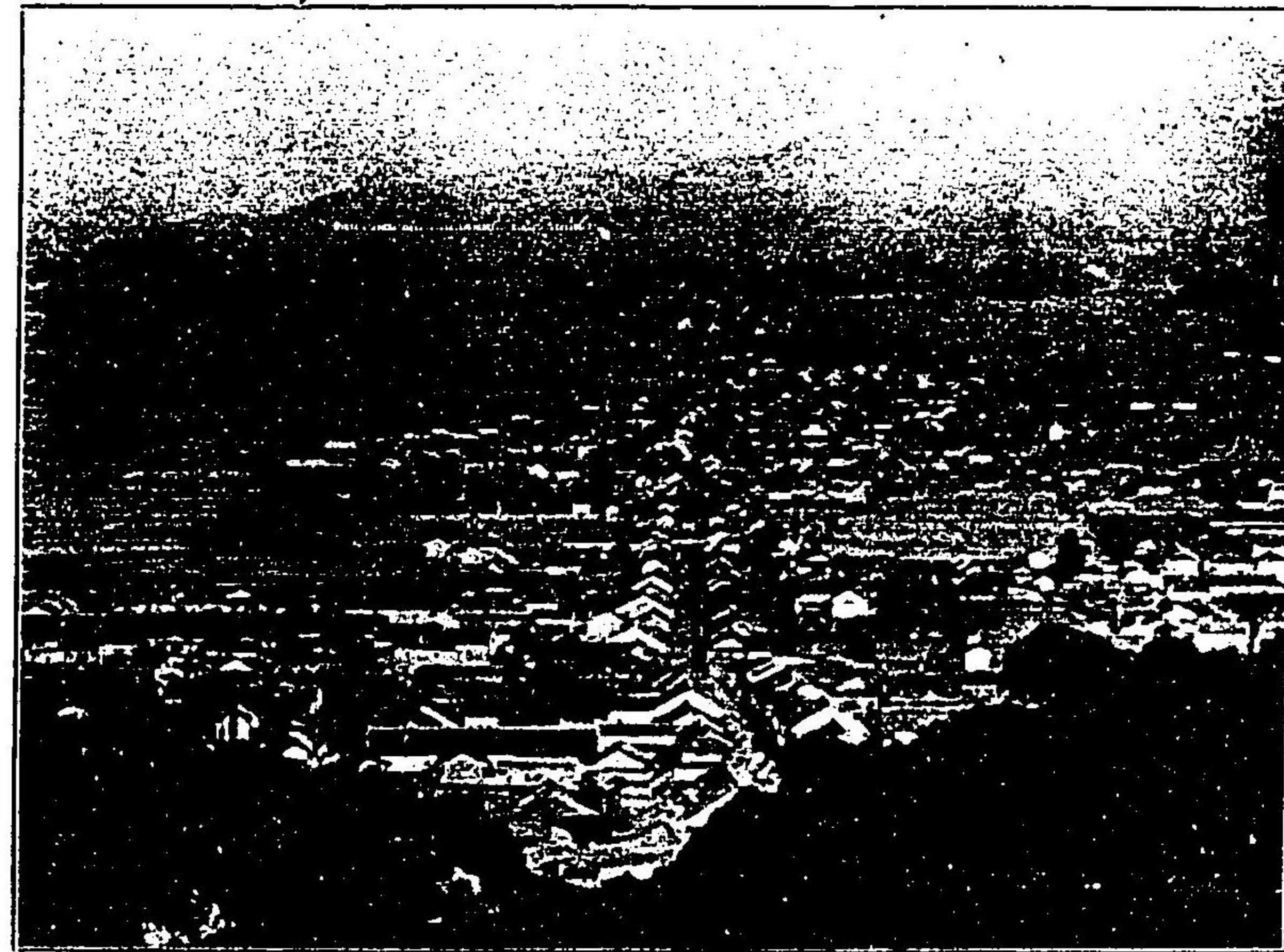
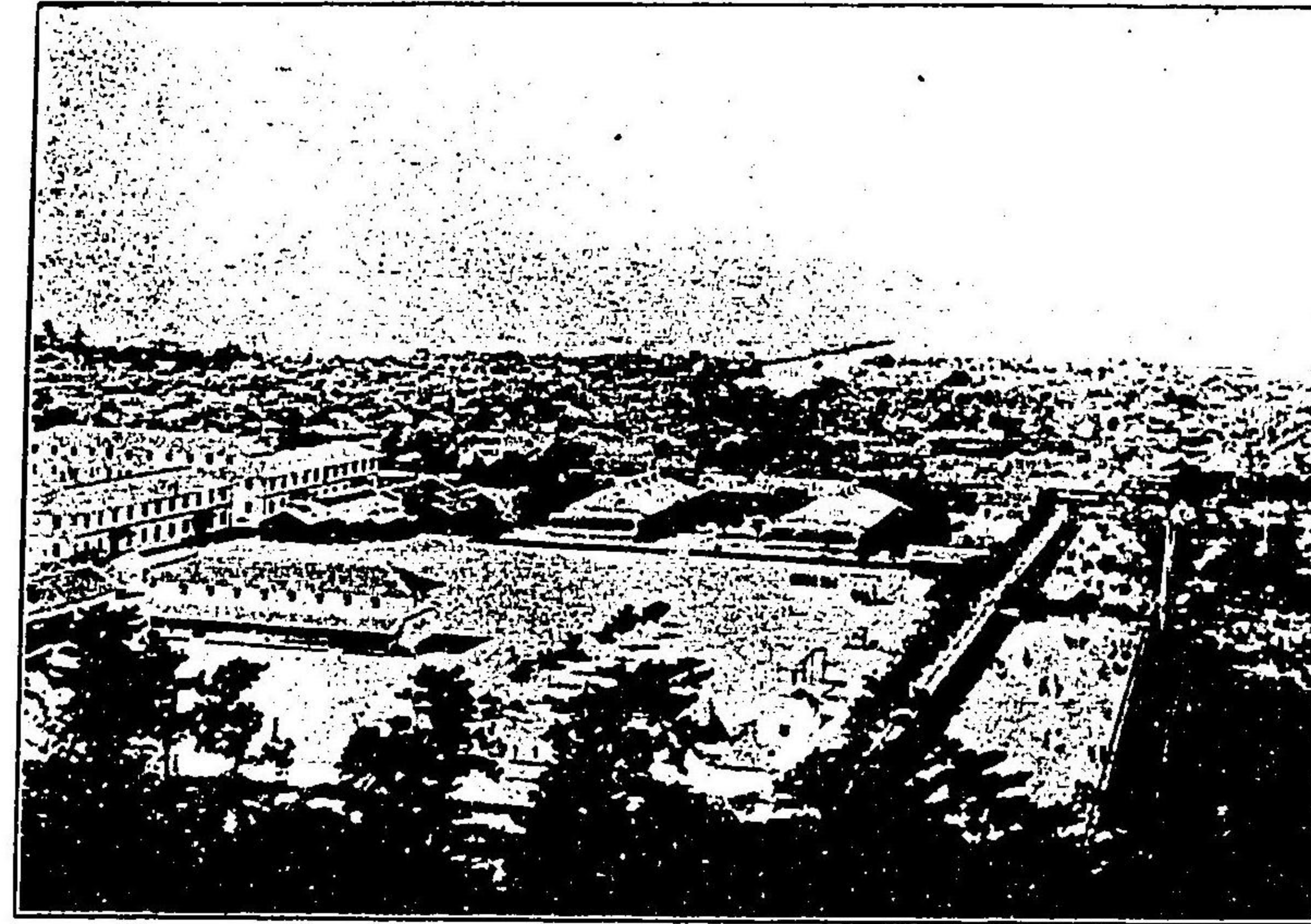
松本一の古多島豆小岐讚 (甲)



松のスピエ島豆小岐讚 (乙)

(第四十五圖)

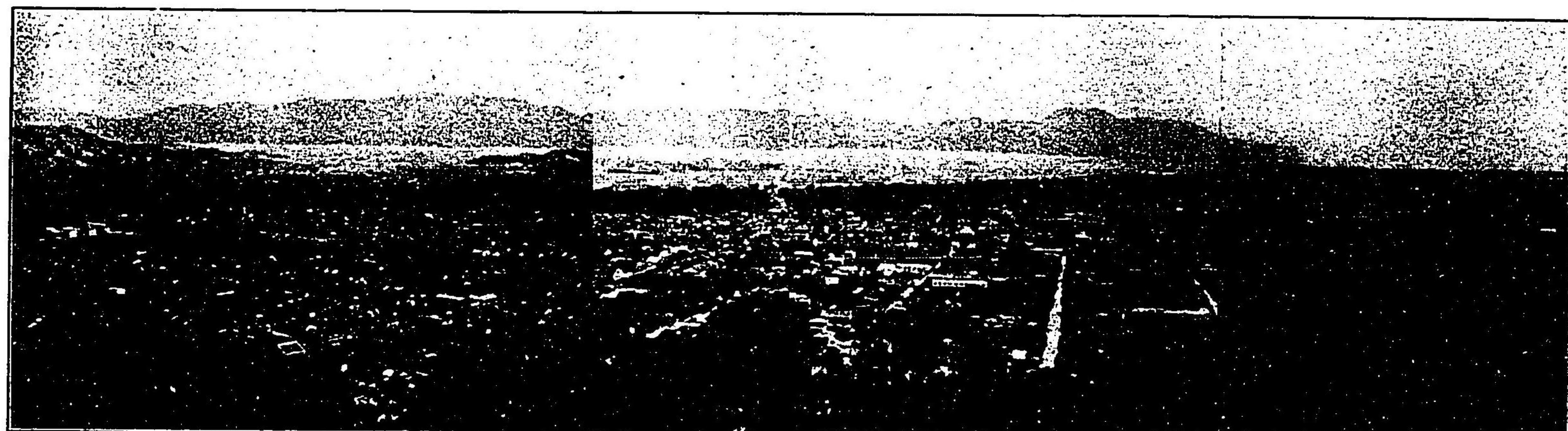
市龜丸岐讚 (甲)



町平琴同 (乙)

(第四十四圖)

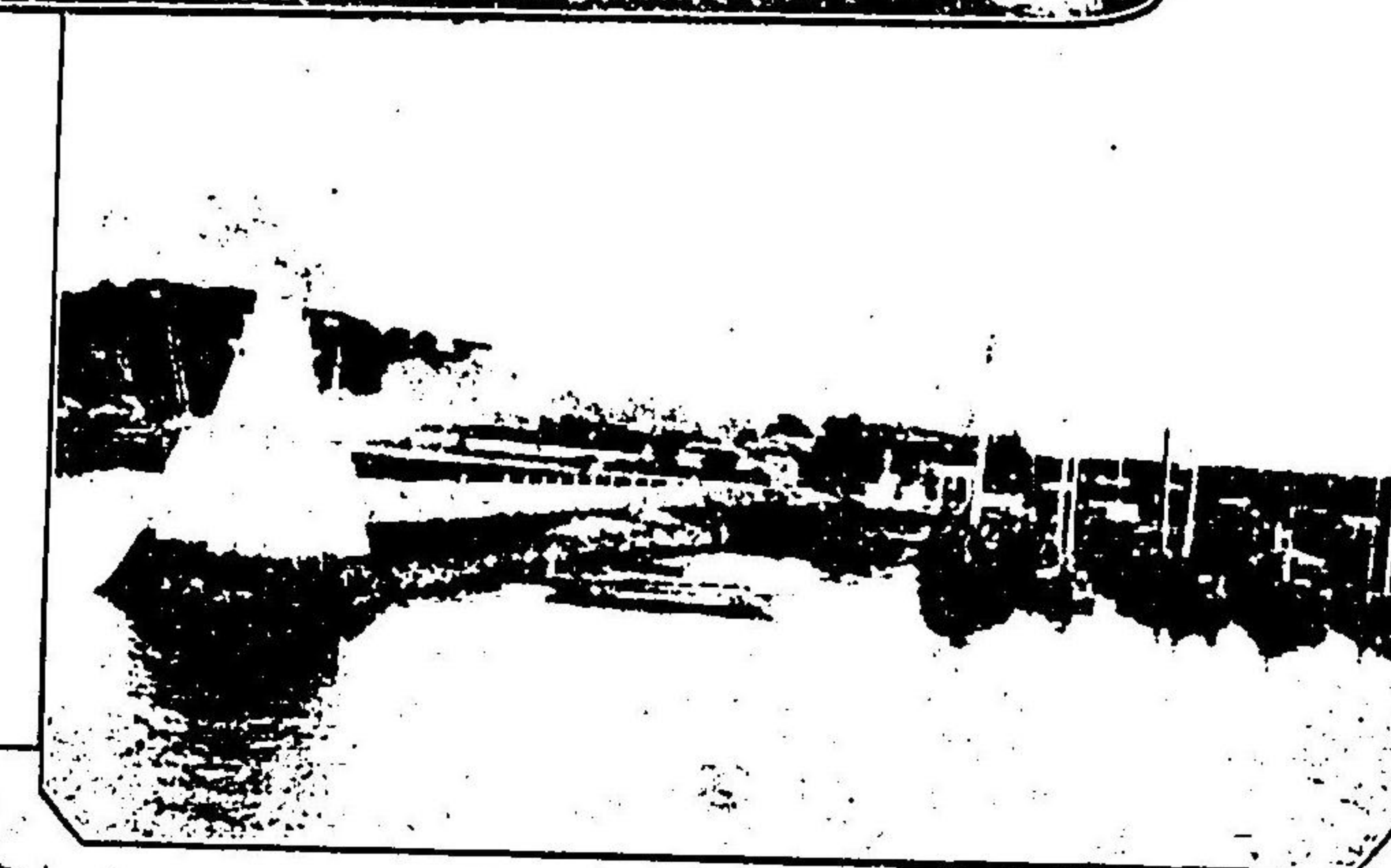
伊 豫 松 山 市 (甲)



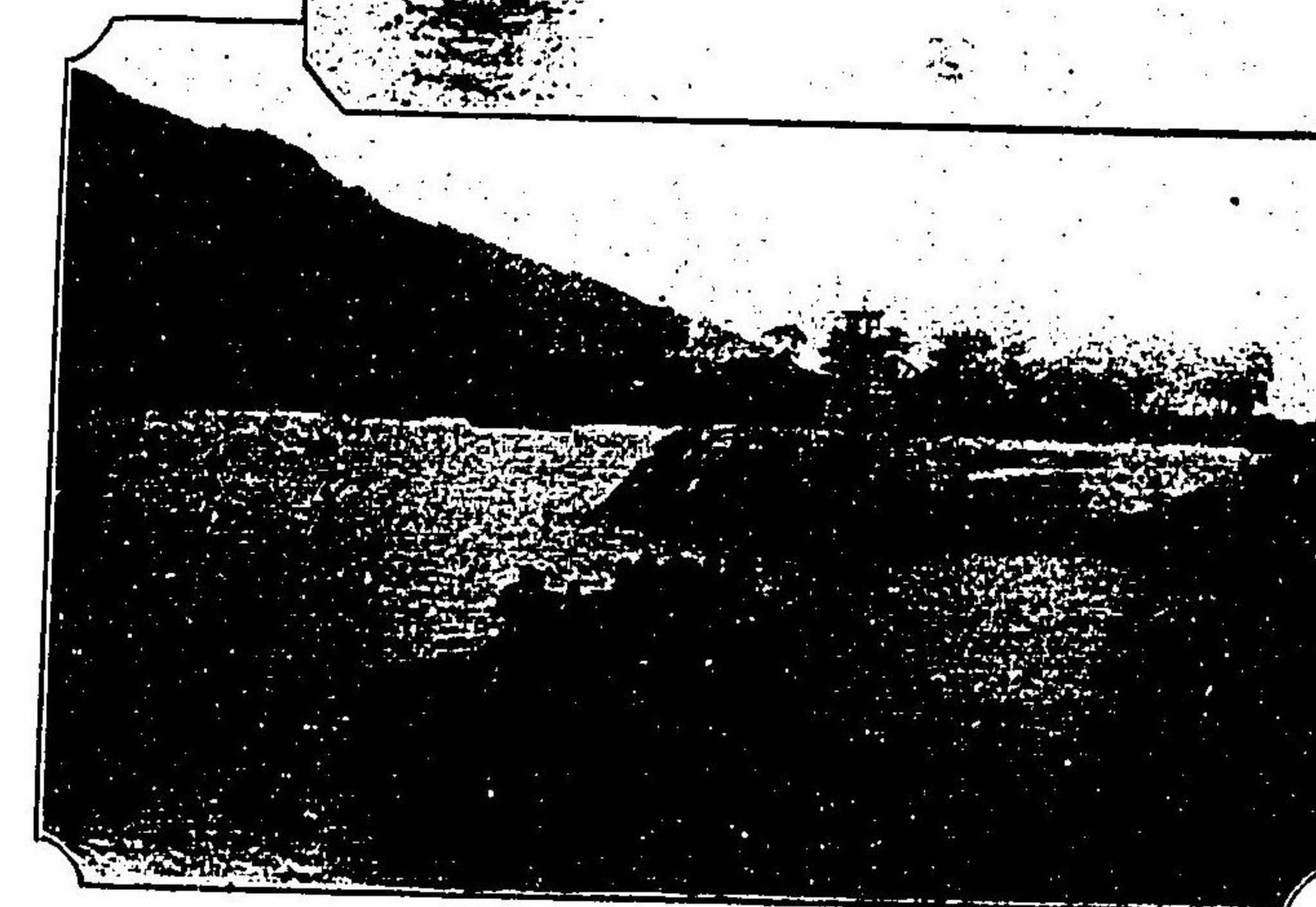
伊 豫 高 濱 港 (甲)



(乙) 同 三 津 濱



(第四十六圖)



同 長 濱 (丙)

(第四十七圖)

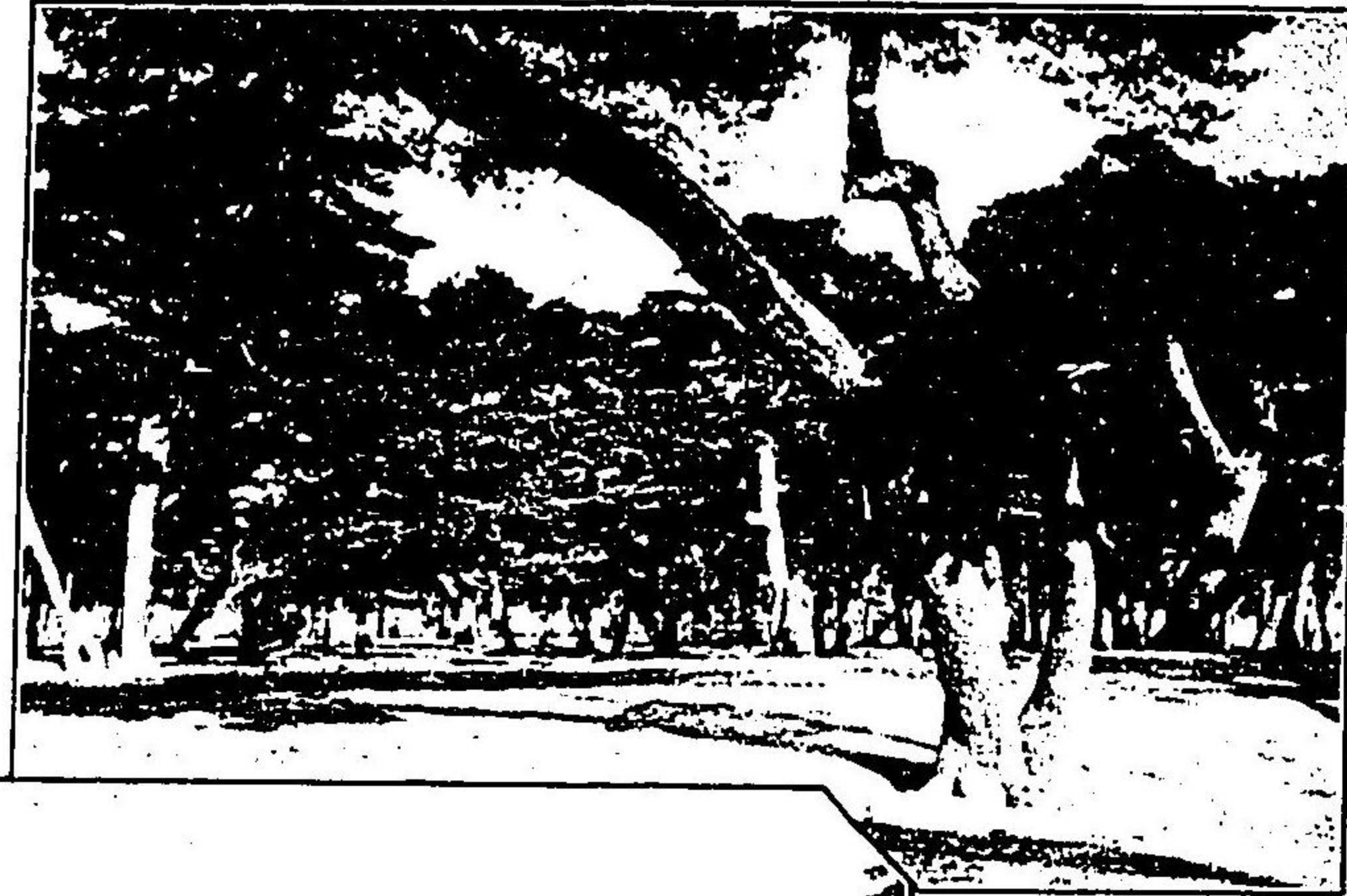


同 石 手 寺 (丙)



伊 豫 道 後 溫 泉 (乙)

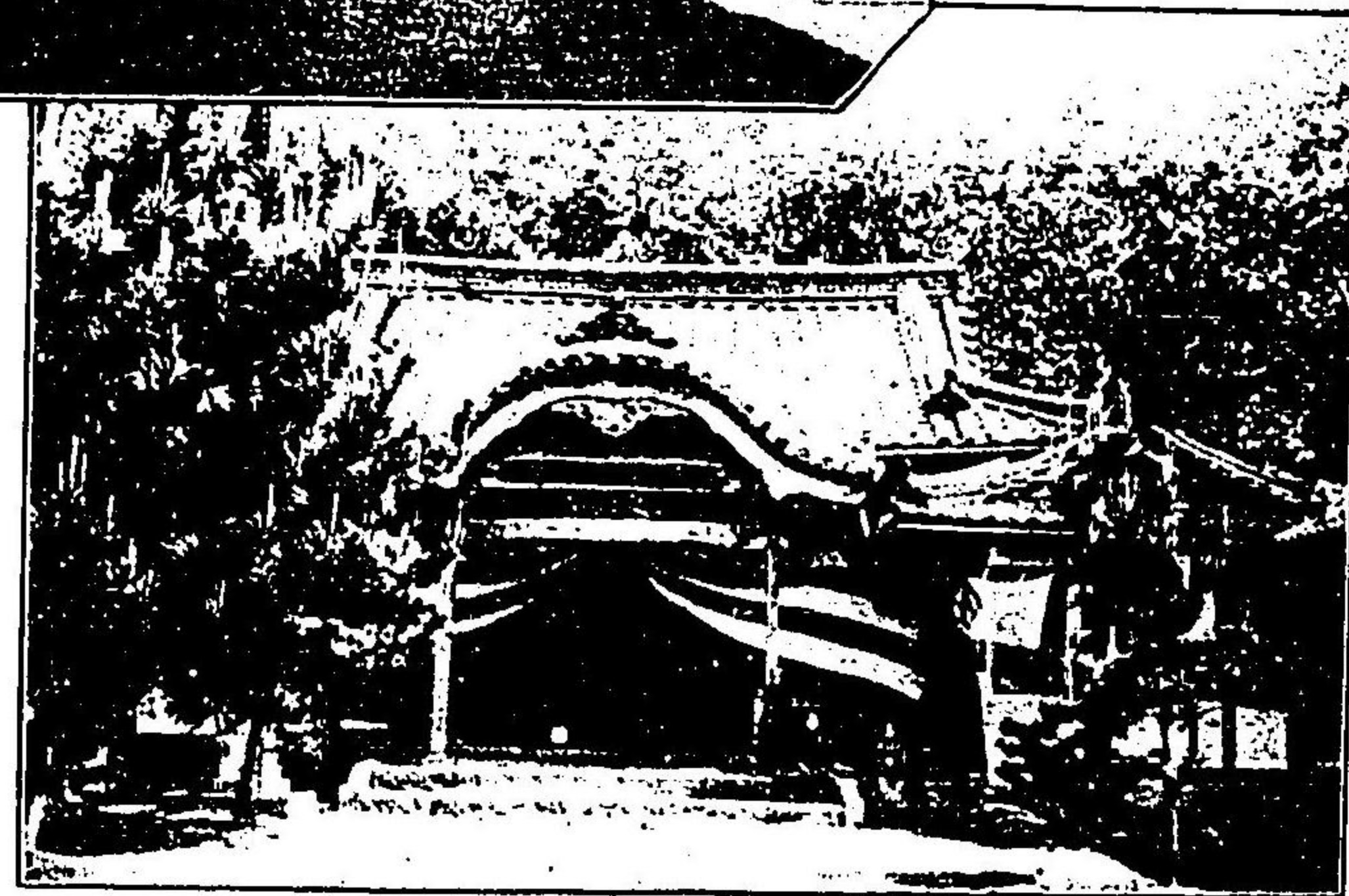
宮滿天引網郡智越豫伊(甲)



(乙) 同宇和島市街



(第四十八圖)



社神靈和同(丙)

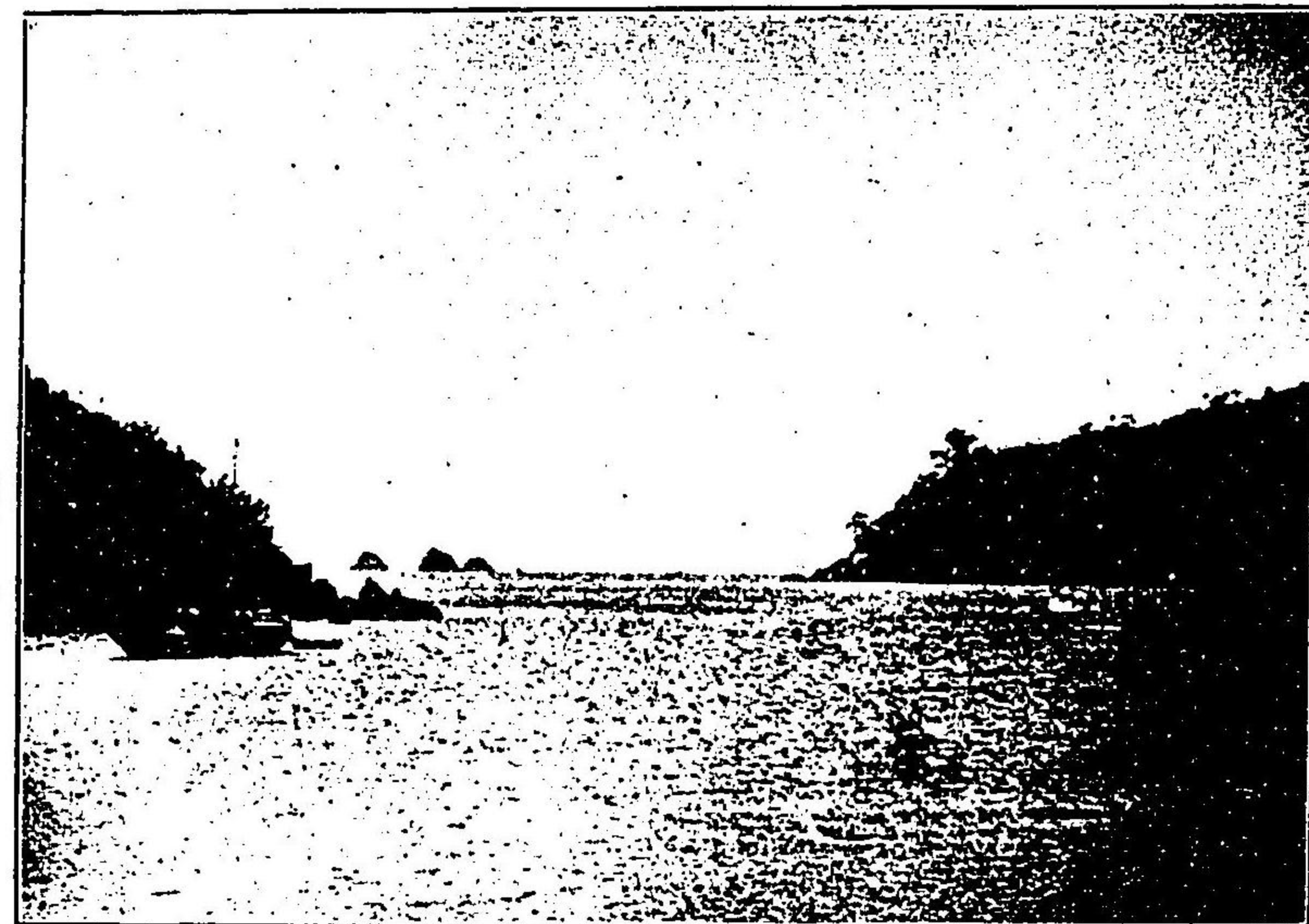
伊豫 柏 港 (甲)



伊豫 宇和 島八幡宮 (甲)

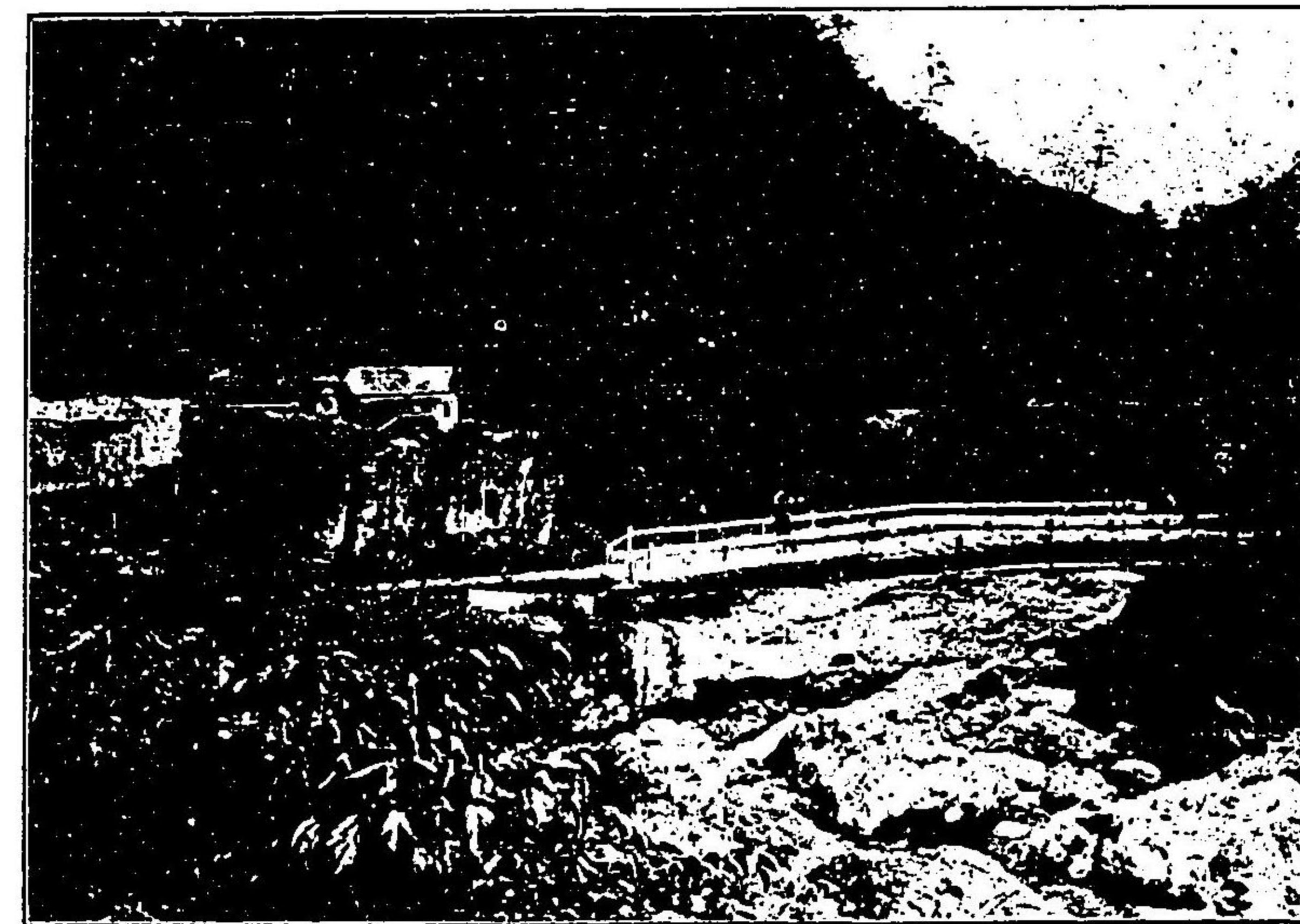


(第五十圖)



伊豫 同 港外 遠望 (乙)

(第四十九圖)

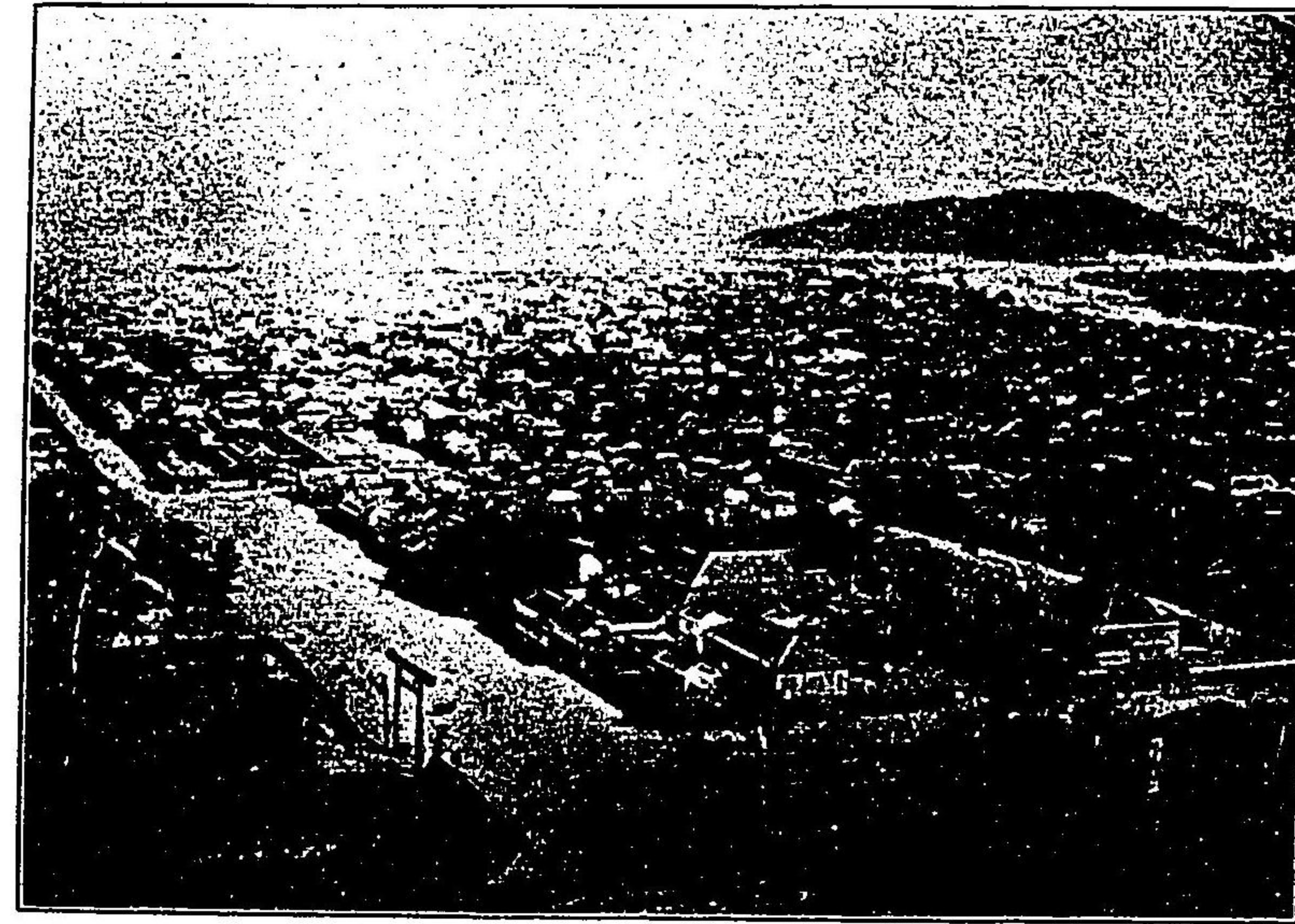


伊豫 同 上萬年橋 (乙)

門手大城舊市知高佐土(甲)



(む 瞰りよ城舊)市知高佐土(甲)



(第五十二圖)



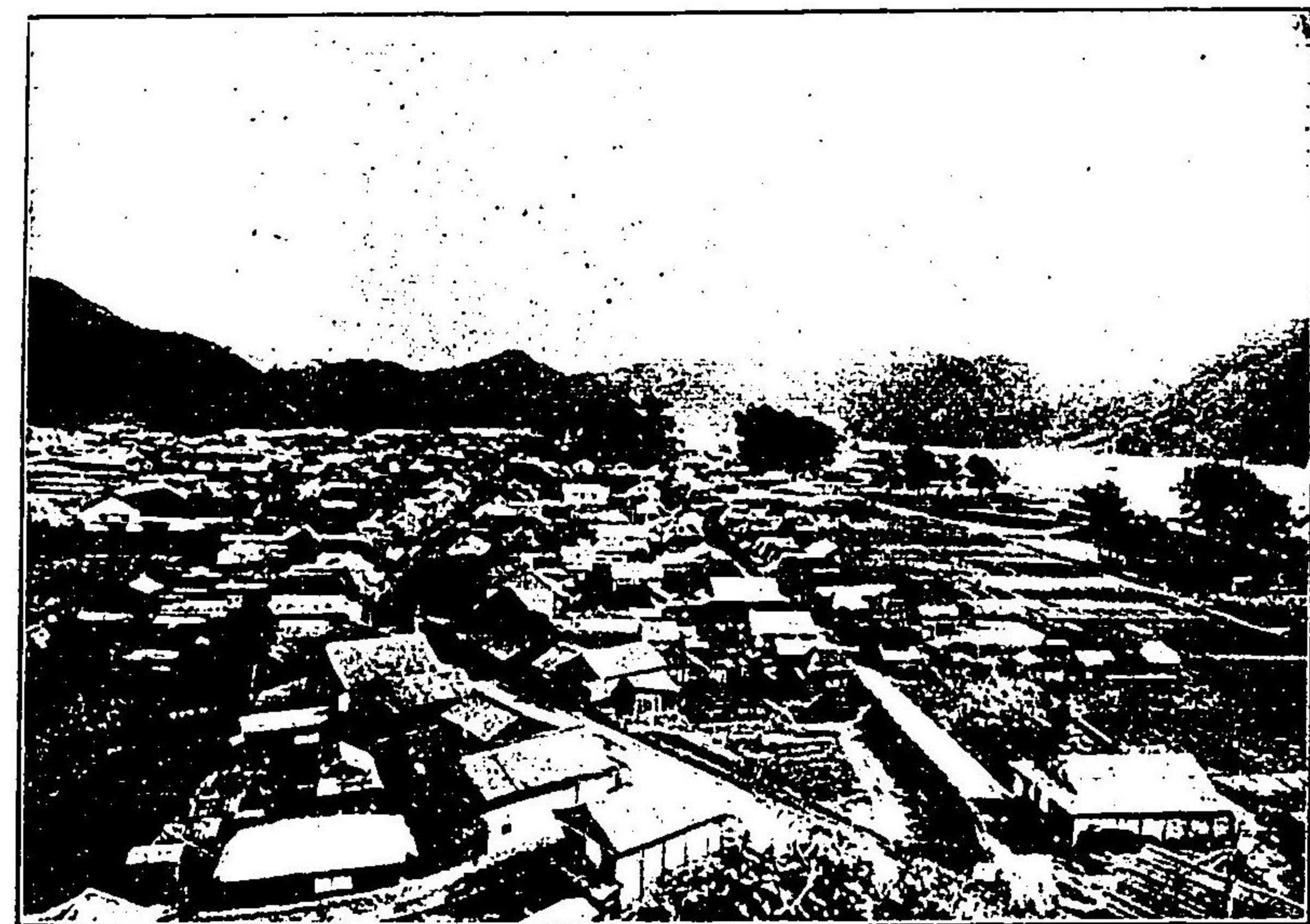
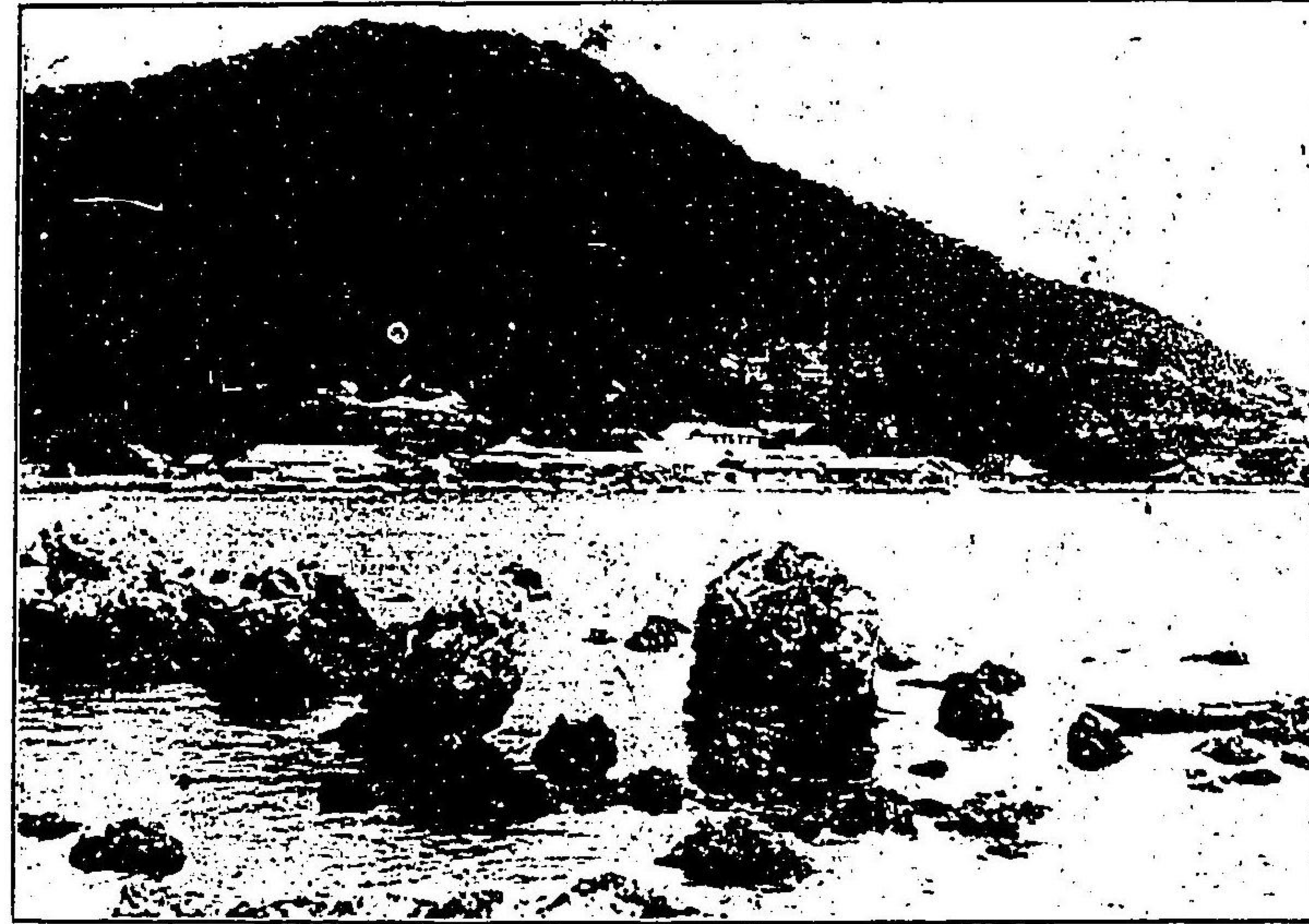
港 戸 浦 同 (乙)



(む 望を近附城舊りよ方南) 上同 (乙)

(第五十一圖)

江 吸 佐 土 (甲)



町 崎 須 佐 土 (乙)

(第五十三圖)

琴平町

生寺と稱す。僧空海の呱々の聲を擧げたる地にして、今の寺域は其父普通の邸宅なりきといふ。境内廣潤にして、堂宇各所に散在し、まことに「讃州第一の巨剎」の名に負かず。其所藏彫刻木像地藏菩薩立像は國寶たり。元麻野村に大麻神社あり。景行天皇以來の古社として著名なり。汽車はこれより直ちに琴平町に達す。

琴平町(第四十圖乙)は琴平山の山麓に位し、琴平街道は東北より來りて西南に向ふ。町は東西に長く、南北に短かく、市坊十五、人口六千八百を有す。此町は四國第一の流行神なる金比羅神社の爲めに榮えたる地にして、規模宏壯なる旅店街頭に高く、賽者常に陸續として踵を絶たず。町の主街路は東北より西南に向ひ、半ば琴平山の山腹に至り、人屋高下相接して、遂にその著名なる金比羅宮に達す。宮は琴平山の中腹平地に數棟の堂宇を成し、本堂は規模宏壯、頗る壯觀を極む。これ、明治十一年に造營せしもの、すべて檜材の無節にして、壁板天井には、櫻樹の蒔繪を描き、金光燦爛、殆ど賽者をして目を眩するの思ひあらしむ。社傳に由れば、正殿大神の鎮座は、太古に屬し、相

殿の神靈は永萬元年の勸請なりといふ。維新前は象頭山金比羅大権現と稱し、金光院これが別當となり、桃園天皇の世、勅願所に仰出され、日本一社の繪旨を賜ひしが、明治元年六月、神祭に改め、事比羅神社と稱し、四年六月國幣小社に列し、十八年五月更に國幣中社に進み、二十二年七月事比羅神社の稱を更めて、金刀比羅宮と爲す。大祭は毎年十月を以てこれを行ひ、頗る古雅なる典式に富む。國寶には紙本著色なる竹取物語繪卷以下數點あり。町の南方に、琴平公園あり。園は琴平山の山麓を繞り、東南より背後に出て、絶頂に達する一帶の丘山にして、眺望絶佳、晴日には遙かに讃備の水光山色を展望することを得べし。公園と相對し、金刀比羅宮神事場あり。一境別に開け、地清く砂白く、老松盤旋、溪聲掬すべし。また公園の麓に、町立工業學校あり。

琴平町より南すれば、三里にして、徳島縣の國境に達す。

多度津町より伊豫街道は南し、二里にして三豊郡に入る。郡境に近く、吉原村字吉原に、眞言宗の名刹曼荼羅寺あり。其西に西行法師が四國行脚の際

一時草庵を結ひて假寓せしといふ水莖の岡の古跡あり。
仲多度郡の海上に散布せる島嶼を鹽飽群島といふ。即ち本島廣島與島佐柳島高見島にして、本島最も大なり。

観音寺町

伊豫街道は三豊郡に入り、大見上高瀬笠岡寺家等の諸邑を経て、観音寺川の灌漑する平野に出て、一里餘にして其の河口に位する観音寺町に達す。町は人口一萬三千を有し、西讃の一都邑にして、郡役所稅務署小林區署等皆此所にあり。町の東南に琴彈八幡宮あり。琴彈山の麓に、眞言の巨刹觀音寺あり。琴彈公園は明治三十年琴彈山及び其西方有明濱に面せる白沙青松の地を開きたるもの、庭園の設備未だ年處を経ず、従つて蒼古幽邃の趣を缺くと雖も、庶民遊覽の地としては過ぎたりと言ふも不可ならず。町の東二里に、一谷池あり。其附近に農事試験場あり。粟井村に縣社粟井神社あり。式内二十四座の一として著名なり。二宮村大字羽方にある大水上神社も亦式内社の一なり。

伊豫街道は和田濱に近く、琴平町より來れる一路を合せ、海岸に沿ひて南

に走り、遂に愛媛縣に入る。

三豊郡の西南の一角は長く海中に突出して、一小半島を成す。其半島の頭部に仁尾の一邑あり。魚業盛なり。其海中に大蔦小蔦の二島あり。大蔦島の北方二十町餘に、平石の奇景あり。東西九間南北七間、其上平滑にして數百人を座せしむるに足る。船を舩して遊ぶ者多し。

小豆島

小豆郡は大川郡の北海上に横はれる小豆島と其西に連れる豊島とを管す。北は備前播磨と相對し、播磨灘及び淡路島に面す。地勢山岳中央に連亘するを以て、其平坦なるもの僅に沿海の地に過ぎず。交通は郡の首邑土庄町を西北に距る數町の吉ヶ浦を以て、最も主要なる水運の寄港地を屬し、高松岡山、神戸大阪を往復する汽船は毎日に此灣頭に入出する。道路はこれより土庄町を經、池田草壁・安田苗羽を經て、坂手港に至る。土庄町は郡中最も殷賑の地區にして、人口五千餘を有し、郡役所其他の官衙皆此處にあり。小海峽を隔て、對岸に淵崎の一邑あり。人煙稠密なり。其東南宇富岡に富岡神社あり。山の巔に位するを以て、讃岐の山水を眼下に展開し、風光絶佳なり。同村北

神懸

山に眞言の名刹資生院あり。この東南大鐸村肥土山に桃子瀑あり。縣道は淵崎より蒲生を經て池田に達す。同村中山に湯船庵と稱する勝地あり。堂下清泉湧出し、綠樹翳鬱、眞に別天地を成す。中山の背後に大麻山あり。高さ七百七十四米、山骨露出天半に横はる。其西端に瀧水寺あり。

内海灣は二生三都西村草壁・安田苗羽の諸村これをめぐる。灣内廣濶にして、深さ十一仞を有し、泊舟に便なり。灣口は其西南に位し、船舶常に来り集る。本灣に添へる諸村は、有名なる小豆島醬油の主産地にして、醬油醸造家多く大夏をつらねたるを見るべし。明治二十三年四月十八日至尊が吳港行幸の際、本灣に濃霧の晴るゝを待たせ給ひ、『思ひきやあつきの島の朝きりにゆくさき見えずなりはてんとは』と御製あらせられし地、島民今も其の洪恩を記し、毎年其日を卜して、御寄泊記念式を執行す。草壁村は上下片城の三部落に分ち、人口三千を有す。下村は稍市街の状態を成せり。

小豆島神懸山(第四十五圖甲乙)は寒霞溪として文人墨客の間に聞ゆ。先づ上村に石門あり。巉岩聳立、其天工の奇、驚くに堪へたり。これより三十町、奇岩續出、

千態萬狀容易に狀すべからず。岡本黃石記して曰く、「五步改觀、十步異狀、一峯未移、一峯又出、更有一峯、自其後而彌縫之、有一峯分爲數峯、合爲一峰、有峰上安峰、如人之戴帽、有全石成峯不帶寸土、有峰腹空洞中抱數松樹、有上豐而下殺、欲崩未崩、有突怒將相闕、有如離立離座而往參之、或俛或仰、或起或臥、或欹或反、或橫或斜、終無一有同形」と。而して此間小溪潺々として流れ、春花秋葉、まことに天上の奇觀と稱するも溢美にあらず。此山の成因は上野の妙義山と同じく、浸蝕作用に由りたるもの、妙義に比すれば、規模稱小なれども、海山の眺望は蓋し遠くかれに勝れり。これより東三十町、安田村に星ヶ城の孤峰屹として聳立す。山頂に東峯西峰の二洞あり。眺望佳にして、中國四國の山川歴々として眼前に落つ。

此附近概して奇峯に富み、苗羽村に基石山あり。坂手村に洞雲山あり、隼山あり。皆な神懸と其形を同うす。星ヶ城山の背後に福田の一邑あり。人口千餘を有す。花崗石の石材を産す。

愛媛縣

愛媛縣

愛媛縣は概して本地方の西方に位し、東の一部は纔かに香川縣と徳島縣とに界し、東南の大部は高知縣に接し、南は戸内海に臨み、西は伊豫灘及豊後灘に瀕す。縣廳を松山市に置き、伊豫の一市十二郡を管す。一市は松山市にして、十二郡は宇摩、新居、周桑、越智、温泉、伊豫、上浮穴、喜多、東宇和、西宇和、南宇和、北宇和即ち是なり。長さ凡そ四十七里、幅凡そ十二三里、面積三二六、三九方里五五八九、三一方杆人口一〇四六一五四(一方里二八九三)にして、各郡中最も大なる者を北宇和郡と爲し、上浮穴、温泉、宇摩之に次く。北宇和は面積四〇方里、上浮穴は二三方里、温泉は二〇方里、宇摩は一八方里にして、其他東宇和の二二方里、西宇和の一七方里、新居郡の一五方里、周桑郡の一三方里、越智郡の一一方里也。最も小なるは南宇和郡にして十方里を有するに過ぎず。而て人口の密度最も大なるは温泉郡にして一方里七千二百餘人を有し、伊豫郡之に次ぎ一方里六千餘人を有す。之に次ぐは

地勢

越智郡の五千六百人、宇摩郡の五千二百人也。密度の最も小なるは北宇和島、上浮穴の二郡にして、前者は千三百人、後者は千二百人を有するに過ぎず。本縣は地勢上自から分れて三區をなし、備後灘に面せる東豫地方と松山を中心とせる西豫地方並に宇和山地より成れる宇和地方ありて、産業風俗各異にして、人文發展の方面自づから異なる所あり。備後灘沿岸地方は加茂川中山川の流域に平野發達し、西條小松の二名邑あり。越智郡には今治波止濱の二邑あり。西豫の温泉郡の平野は第一豊饒の地にして、交通の便またよく發達し、商工業隆盛に、松山市其中央に位し、附近に三津濱高濱の名港あり。南に郡中の名邑あり。且松山市の東、道後附近の地は縣下最も史蹟に富める地方にして、紡績業機業又此地を中心として發達す。肱川は此地方の南方丘陵の中を曲折して流れ、沿岸に大洲の名邑あり、喜多郡の中心都會を成す。宇和地方に入れば大洲の西々南に入幡濱の名港あり。宇和島町を中心せる地方には、廣見川の流域に狭長なる平地發達し、一丘陵を以て宇和島市の平野と相接す。宇和島市は此地方の中心を爲し、全く前記二地方と異りたる特色

産業

ある繁華を保つ。

縣下の産業は農業工業水産にして、農業は米穀を主とし、副業として生蠶の産あり。其額四國第一に位す。工業は紡績業機業陶器業にして、機業は最も盛に、温泉伊豫越智の三郡を主産地となす。紙は宇和四郡に産し、砂糖は宇摩伊豫二郡、茶は上浮穴郡に産す。水産は海岸地多くこれに富み、漁獵を業とするもの多し。鯛章魚は新居越智の二郡即ち瀬戸内海に多く、鯉烏賊等は宇和四郡の海岸に集る。殊に後者は其漁獲額巨大なるを以て、多くはこれを鯉節鰯に製して、各地方に輸出す。鑛業は宇摩郡別子に産する銅を第一とし、其他石灰砥石等を産す。

交通

縣下の交通を記せんに、鐵道は松山市を中心として、狭軌短距離の伊豫鐵道あり。高濱横河原間の十四哩、松山市外を一周する古町線の三哩、松山市より伊豫郡の郡中に至る郡中線の六哩、其他松山市より森松に至る三哩弱の線路あるに過ぎず。一地方の交通に止り、未だ縣下の交通機關と爲すに足らず。道路は宿毛街道宇和島街道八幡濱街道高知街道西條街道川の江街道立川

街道の六あり。宿毛街道宇和島街道は松山市より南方に至る幹線路にして、宇和島までを宇和島街道といひ、宇和島以南を宿毛街道といふ。此道路は松山市より南し、郡中町に至り、これより伊豫郡の中央を縦断し、喜多郡に入り、中山川に沿ひて内子に達し、新谷に至り、郡の首邑大洲町に達し、愈々南して卯の町に至り、東宇和北宇和兩郡の境なる法華津峠を越え、吉田を経て、宇和島市に達す。宇和島よりは丘陵の間を南して、岩松上下畑地を経て、南宇和郡に入り、柏に至りて海岸に出て、これより東して、平城を過ぎ、遂に高知縣の界に達す。松山市より宇和島市まで二十五里餘、宇和島より縣界まで十四里あり。此道路は良好ならざれども、辛うじて車を通ずべし。八幡濱街道は此幹線の大洲町より分岐し、四里にして八幡濱町に達す。高知街道は松山市より、三坂峠を越えて、上浮穴郡に入り、郡の名邑久萬町に出て、仁淀川の峡谷に沿ひて東し、直ちに土佐に入る。國境まで里程十里弱なり。西條街道は松山平野より周桑新居兩郡の平地に達する唯一の道路にして、松山市を出て、東し、川上の一邑を経て、中央山脈の凹所を越え、次第に海岸平

高濱

地に出て小松町より西條町に至る。この街道は猶東し、別子銅山の産銅を運搬する鐵道を横断し、上野津根寒川三島を経て川の江に達す。之を川の江街道といふ。立川街道は宇摩郡より土佐長岡郡に入るものにして、海岸路の川の江より岐れ金川馬立を経て、水無峠を踰え、土佐の立川に至る。此他、温泉越智の海岸を縫へる一路あり、濱街道といふ。松山市より北し二里餘にして北條町あり。これより海岸を東に縫ひ、菊間龜岡大井を経て、今治町に達し、これあり海岸を南に縫ひて、小松町に達す。海運は大阪九州間の汽船、定期を定めて、海岸の諸港に寄港し、重要な交通機關を成す。又別に中國廣島より發する汽船あり、高濱をその發着點と爲す。

吾人は先づ舟路に由りて、高濱に上陸したりとせむ。此附近の風光の明媚なる、旅客の思を惹くに足れり。興居島長く其前に横り、盡くが如き伊豫富士は其影を深碧なる海水に倒にして、汽船漁艇は其間を往來す。高濱は此海峡に面し新に發達せる商港にして、伊豫鐵道の終點をなし海岸に棧橋を設けて大阪商船會社汽船の繫留地となし松山市の前港をなす。港市未だ大ならず。

三津ヶ濱

松山市

るも旅客の出入最も盛にして縣下主要の港津をなす。(第四十)汽車、海岸を走ると數分右方海岸に近く、簇々たる白堊粉壁と、林立せる帆檣とを認むべし。之、往古より伊豫の港津として著名なる三津ヶ濱なり。(第四十)は人口七千を有し、汽船の碇泊場にして、交通の要津なり。唯近時汽船の高濱に寄港する者多く爲に多少の影響を蒙る所あり。町も亦松山市の前港をなし貨物の出入少なからず。商賈甚だ多く又魚市の賑ふを以て名あり。汽車は海岸を離れて東すれば頃刻にして一帯の平野前に展げ、一小丘陵の松樹蒼鬱たる中に、白堊の城壘の高く夕日にかやくを見るべし。而して其丘陵の四周、人屋櫛比せる所即ち松山市の市街にして丘上の白堊は即ち松山城址なり。
松山市(第四十)は縣下第一の都會にして、本地方中その繁華は徳島市に次ぐ。周圍に持田・中村・立花・藤原・南江・味酒一萬の七村を繞らし、中央に城山の一丘陵あり。三層の天主閣今も猶封建の昔を語る。而して市坊は其麓を縫ひ、東西十五町、南北十町、西北を古町、東南を外側と稱し、市坊の數百、戸數六千餘、人口三萬六千二百を有す。鐵道、其四周をめぐり、西に三津ヶ濱線

あり、北に道後線あり、南に郡中線あり、西に平井河原線あり、市の各所に無數の小停車場を設け、宛然電車のごとき便を有す。先づ三津濱より來りて古町停車場に下車すべし。萱町・松前町・魚町・本町・府中町・木屋町の長き街路は所謂古町に屬し縦街路を爲し東西に平行し、人屋櫛比し、商業繁盛なり。松前町に法泉寺あり、萱町に得能寺あり。同古町にある大林寺は日露戰役の初期、露國俘虜を收容したるを以て其名世に知らる。木屋町に師範學校あり。此古町の繁華は寧ろ場末的にして、松山市の主なる街路は外側にあり。此古町の一區郭と外側の一區郭との間に、松山城の丘陵と城址と相連りて横はる。古町の木屋町の角を進めば、城濠の水とはに縁に、堤上には老松の盤回するを見るべし。其城濠の中に、歩兵第二十二聯隊の兵營あり。
此兵營の屋棟の相連れる間を屈曲して進み、大手門を南に出づれば、即ち外側の市街にして、地を南堀端町といふ。この濠端に添うて東し、更に少しく北すれば、中學校あり。それに隣りて愛媛縣廳あり。裁判所あり。最も繁華なる街路は三番町道、小唐人町通等にして、人家軒をつらね、百貨輻湊し

町は人口五千を有し、主として旅館と雜貨店とより成り、道路狹隘にして、稍々爪先上りなり。浴室の規模頗る宏壯にして四時浴客絶ゆるとなし。(第四十)泉質は半透明無臭のアルカリ性なり。附近に玉の石伊佐庭の岡の碑等の古蹟あり。小丘陵の上に伊佐爾波神社あり。一に湯月八幡と稱す。縣社にして、本縣著名の古祠なり。寛文七年、松山城主の造營せし者、石清水八幡宮に模して造れりといふ。其南に當り丘陵の盡くる所、土豪河野通治の湯月城址に道後公園あり。規模甚だ大ならざるも林泉清楚の趣あり。河野家歴世の人々が四國に於て有力なる勢力を振ひたるは史を讀む者の皆知る所、當時に在つては、其城頗る堅固に、濠を二重にめぐらし、土居外廻り五百二十間内廻四百六十間、本壇の高さ四十五間を有したりきといふ。此公園の東十二三町に眞言宗の名刹石手寺あり。(第四十)神龜五年聖武天皇の勅により、國司越智玉證の創建する所、弘仁四年、僧空海も亦此處に暫く錫を留めたりといふ。本堂阿彌陀堂大師堂等あり。三重塔は林樹の間に隱見す。概して規模蒼古宏壯也。宇東岡に兩新田靈社あり。上下社に分ち、上社は新田義宗を祀り、下社

は脇屋義治を祀る。義宗義治は南朝衰微の後、此處に潜行して、得能氏に依り、恢復の志を抱きつゝ空しく此地に没せしなりと傳ふ。岡を距る八丁許にある圓福寺は、當時得能通範が二公の香華堂となしたる處なりといふ。芳野山の城址の東北の山中に今尙二公の墓碑を存す。其附近御華村に龍穩寺あり。其境内に十六日櫻あり、傳へ言ふ陰曆一月十六日には必ず其花唇を開くと、俗言信ずべからざるも亦名樹なり。同村姫原に輕神社あり。輕太子と輕皇女とを合祀す。地は即ち皇女の流されて遂に果て給ひし所なり。和氣村に名刹大山寺あり。其本堂と八脚門とは特別保護建造物なり。

松山市の南部に、星ヶ岡天山あり。共に平地に驛起す。天山は高さ七丈、星ヶ岡は高さ十丈、共に眺望に富む。星ヶ岡は元弘三年、土居通治得能通言が勤王の兵を擧げて、長門探題北條時直の軍を破りたるの地、今、其事を勒して一碑を樹て、星岡表忠之碑といふ。

松山市の南、立花に起點を置ける鐵道は、小松西條に通する街道を縫ひて東に走り、久米を過ぎ、平井河原に至り、之を一時の終端驛と爲す。此附近

小松町

に古城址二あり。川上村は人口三千を有し、この街道の一驛たり。これより東する二里、温泉周桑兩郡の境に達す。千原よりは道路下り阪となりて、中山川の溪流の遠く海岸平地に注ぐを望み、右に石槌堂ヶ森の諸峻嶺を望み、北西には高繩山中の三方森山の峙立せるを望み、風景頗る佳なり。ましてこれより來見に至る道程三里の間は、中山川の隄防に添うて櫻樹を植ゑ、里人これを稱して櫻三里といふ。この道路より西北に三里、徳田村に眞言の古刹興隆寺あり。皇極天皇御宇の創設なり。本堂は鎌倉時代の古建築にして、今特別保護建造物なり。棟行八間梁行七間、屋根は茅葺なり。寶物多く、中源頼朝の寄進狀と延元五年の勅書を藏す。山後に一の瀧二の瀧三の瀧の勝あり。秋日紅葉の候は、遊客尠なからず。

これより明穗安井大頭を経て、小松町に達す。町は人口三千餘を有し、周桑郡第一の名邑なり。寛永年中、西條の城主一柳直盛の遺封を頌ち、直盛の第三子直頼、一萬石を以て、此地に封ぜらる。維新前までは、陣屋ありき。此地は松山より讃岐に通ずる國道の中間に位し、人煙稍稠密なり。

石槌山

四條町

別子銅山

石槌山は周桑新居上浮穴三郡の境に屹立し、山嶺に石槌神社あり。縣社なり。國中著名なる神社にして、白衣の行者常に陸續として登躋す。三郡共に登山口を有すれども、いづれも險峻にて、鐵鎖に縋りて纒かに昇降するところ往々にしてあり。頂上に銅製の小祠を安ず。山嶺眺望雄大なる四國第一と稱す。山中にまた高瀧あり。其巨大なるを以て聞ゆ。

街道は小松町を経て東し、新居郡に入り、大町に達す。西條町は大町の北海岸にあり。松山市より行程十三里十八町なり。加茂川の河口に近く、海陸交通の便盛なり。人口五千を有す。此地は往昔河野通信の館せしところ、徳川幕府時代にありては、最初一柳直盛六萬八千石を以て此地を領せしが、故ありて後絶え、寛文年中松平頼純三萬石を以て此地に封せられ、以て維新に至る。市街整正にして、人煙稠密、東豫屈指の名邑たり。郡中、山水の奇景多く、中奥山村の覗き、西之川村の御塔石最も著はる。

別子銅山は縣下第一の鑛山にして、兼ねて亦本邦屈指の銅山なり。宇摩郡の山中別子山と、新居郡東方の山地とを其の鑛區と爲す。大阪の富豪住友氏

の經營する所にして、其規模頗る宏壯を極む(鐵梁參照)交通運搬機關としては、山麓立川山より、國道を横斷して、海岸新居港に出づる七哩餘の鐵道を敷設し、新居濱には埠頭を設け、事務所製鍊所を建て、又近海の四阪島には壯大なる製鍊所を設くる等其業務の繁盛なる關西稀に見る所なり。

これより街道は宇摩新居兩郡の間に横はれる丘陵を踰えて宇摩郡に入る。上野津根寒川三島の諸驛連珠のごとく連り、遂に讃岐國境に近き川の江町に達す。川の江町は人口六千を有し、東豫の名邑なり。地は阿波街道讃岐街道の衝に當れるを以て、交通頻繁、人煙稠密なり。宇摩郡役所また此の地にあり。町に古城墟あり。南北朝の頃、土肥義昌が勤王の兵を擧げし故蹟として著名なり。長須村に西行松あり。妻取村に輕太子の墓あり。上分より南せる一路は、金川を過ぎ、平山越を踰え、銅山川を横りて、高知立川街道を爲す。街道上に馬立の一邑あり。地に仙龍寺の名刹あり。結構宏壯、加ふるに岩石聳立せる間に、高く飛瀑を懸け、地甚だ幽邃を極む。更に小松町に戻り、海岸の一路を越智郡に入るとせん。海岸に壬生川の一

川ノ江町

丹原

世田山古城址

國分寺

邑あり。これに隣りて、新町あり。又其南に丹原あり。人口三千を有する一邑にして、周桑郡役所は此地にあり。海岸の路は高田を経て楠村に達し、遂に越智郡に入る。郡界に世田山あり。山に古城墟あり。南北朝の頃、脇屋義助、此地に来るや、大館氏明此城に據りて以て相援く。義助病死し、足利の將細川頼春大擧して來り攻む。氏明この城に拒き戦ひ、城陥りて戦死す。石燈を登れば、八町にして中腹の平地に達す。藥師堂及び僧舎あり。寺は醫王山藥師寺と稱し、往昔は伊豫十七伽藍の一なりしといふ。寺傍に大館氏明及十七士の墓あり。天保年間西條の人なにがしの建つる處、一碑あり、詳かに當年の事蹟を勒す。憑吊すべし。街道はこれより丘陵と海岸との間を過ぎ、櫻井に至りて、全く海に出づ。伊豫の往古の國府は此の櫻井村の中にある。古國分、國分等の字を存す。往昔の國分寺の跡は大宇國分の龜山にあり。今、猶眞言の巨刹を存す。此の國分寺は、伽藍の構造、諸國の國分寺中に冠たりしもの、當時の繁華は今日と雖も猶想像するに足る。寺の東一町許の田圃の中に、礎石十一箇を存す。これ往古の七重塔の遺跡なりといふ。寺の東二町、

宇谷の口の丘上に、臨屋義助の墓あり。墓の高さ五尺、正面に臨屋刑部卿源義助公神廟の十一字を刻し、右側に清和天皇十七代の七字、右側に慶運三年五月十一日の九字を刻せり。義助が四國の勤王の諸軍を統率すべく此地に渡り、官軍一度振ひたるも、義助病死の爲めに遂に挫折したることは、史を讀むもの、皆な痛悼せるところ、來り弔ふもの、誰か當年を追懷せざるものかあらん。この東七町に、唐子山聳立す。其山頂は即ち國府城のありし處にして、礎石猶歷々として數ふべし。山上眺望に富み、北は海を望み、西は今治の阡陌を見、南に峰巒重疊し、石槌山高く群を抜く。まことに形勝の地と稱すべし。大字古國分に、網敷天滿神社あり。(第四十八圖甲)菅公配流の時、船しばし此の浦に漂着せし紀念として里人の祀れるもの、海中の一奇岩は菅公か當時衣をかけたるものなりとて、里人これを衣干岩といふ。神社は海に面し、青松白沙、頗る風景に富めり。

今治町は高繩半島第一の港市にして、其の東北岸來島海峽の南口に近し。市坊の數八、東西三町、南北十三町、戸數千二百餘人口六千七百を有す。慶

今治町

長七年、藤堂高虎此處に築き、寛永十二年松平定房此の城主となる。維新の時、樓櫓を毀ち、今は城濠を存するのみ。此城地近年開いて公園と爲し、庶民遊樂の地と爲す。園内に吹揚神社あり。地少しく高く、眺望に富めり。市街は整正にして、百貨輻輳し、港頭には常に帆檣の林立するを見る。町の北大濱の湊山に伊勢山と稱する丘阜あり。篠塚伊賀守の墓あり。

高繩半島を回れる道路は、今治より西して半島の北端を横斷し、西岸の大井に出で、海岸を西南に走りて菊間に達し、温泉郡の北條町に至る。今治より北せる一路は一里餘にして、波止濱に至りて盡く。波止濱は郡中第一の良港にして、來島海峽に接し、灣内水深く、風波を避くるの便あるを以て船舶常に輻湊す。大井濱は街道上の一邑にして、稍繁華なり。菊間も亦郡の西部の一邑なり。高繩山の低所を踰えて北條町あり。町は温泉郡北部の名邑にして、人口五千餘を有す。東南に高繩山聳立し、北に波妻崎斗出し、風光佳絶なり。北條より南すれば堀江村あり。村は堀江灣頭に位し、沙濱平滑にして松樹多く、風光明媚なり。人口二千を有す。これより路は海岸を縫ひ、松

北條町

郡中町

市に至る。

松山市の東南角、藤原停車場より南に向ひたる伊豫鐵道の線路は宇和島街道と交錯して、石手川と重信川との合流點に鐵橋を架し、余土出合正木の三驛を経て、伊豫郡の首邑郡中町に達す。郡中町は市坊を灘湊の二に分ち、戸數千百餘人口六千三百を有す。伊豫郡中第一の都邑にして、水運陸運の便兼ね備り、商業繁盛に、人屋櫛比す。町の西南北伊豫村神崎に、縣社伊豫神社あり。景行天皇十二年の創建にして、國中屈指の古社也。筒井村に義農神社あり。享保中、義農作兵衛なるものあり、村民の爲めに身を犠牲として死す。村民其靈を祀る。又上吾川に、源範頼墓と稱するものあり。範頼實は修禪寺に死せず、逃れて此地に來り、天壽を全うして終ると。里傳信ずるに足らず。町の南一里餘の海岸に森林あり。字桂谷の地に扶桑木を産す。木質堅緻、色澤黒にして光澤なり。印材其他種々の細工に用ゆ。

伊豫郡の上浮穴郡と接する地に一路土佐街道を並びて相通し、原大南總津等の諸小邑あり。國中唯一の蠶業地として名高き砥部は、此の大南附近を總

内子村

肱川

大洲町

長濱町

稱せるもの。(蠶業參照)

宇和島街道は郡中町より全く海岸を離れて南す。佐禮谷出淵等の諸邑を経て、喜多郡に入り、中山川に添うて下れば、内子町あり。人口三千を有し、山中の一驛をなす。これより南二里に、新谷の一邑あり。

肱川は宛然肱を曲けたる如く、郡中を曲流し、上浮穴郡よりするものと東宇和郡より來りたるものと相會し、大河の趣を成し、西北流して、長濱に至りて、海に朝す。大洲町は恰も此の肱の屈曲部に位し、地形のづから一小盆地を爲せり。北岸なる中村より肱川に架したる一長橋を渡れば、市街南北に相連り、西に高く地藏ヶ岳の古城址を望む。城は源平の昔、河野通信の據りて以て弱を國中に徇へたる處。徳川氏に及て、藤堂脇坂の二氏これに居り、元和に至りて加藤貞泰六万石を以て來り治し、以て維新に至る。人口五千を有し、市街整正にして、家屋櫛比し、人煙稠密なり。町に、喜多郡役所あり。中學校あり。此附近は和紙の産地にして、産額少なからず。

肱川の河口に、長濱町あり。人口三千を有する一名邑なり。山岳海に逼る

矢野の神山

所纒かに小沙濱を剩し、沿海には漁業盛にして近海航路の汽船常に寄泊す。大洲町の西方に、出石山あり。標高八百十八米、往古は呼んで矢野の神山と稱せり。其南麓豊茂に出石寺あり。眞言宗の名刹にして、養老二年の開基にかゝる。本堂大師堂鎮守堂開山堂等山に凭り谷に架して、規模宏壯、結構佳麗なり。殊に、眺望は絶佳にして、遙かに肱川の峽流蜿蜒として海に入るの状より伊豫灘の煙波茫々たるの景を望み、賽者をしてちのつから忘我の境に遊ばしむ。

八幡濱町

大洲町より西南に向ふ一路は、八幡濱街道にして、四里にして八幡濱に達す。八幡濱町は海に長く突出せる佐田半島の頸部に位せる良港にして、西宇和郡の首邑をなし、人口六千四百、灣内水深く、船舶常に幅濶す。鯉節鮭の製造盛に、町には巨商多し。此地、松山市を距ること十八里八町、港口には黒島鳥島等の小嶼散點し、灣の風光亦甚だ美なり。佐田半島は狭長なる形を爲し、長さ十里に及ぶ。磯澤村に金山鑛山あり。規模稍大なり。一路これを縫ひて通じ、伊方三机名取三崎佐田の諸邑連珠の如く述る。土民皆な漁獵を

卯の町

業とし、鯉漁最も盛なり。港としては北岸の三机港、南岸の佐田港を推す。宇和島街道は大洲町より南し、鳥阪の難路を踰え、東多田を経て、卯の町に至る。此附近は山嶺四周、地、多くは寒村僻地にして、唯往々溪流に臨みて紙を製するものあるを見るのみ。卯の町は人口四千を有し、東宇和郡役所あり。此地は伊豫の守護西園寺氏の居城のありし處にして、其南下松葉に、今猶その古城墟を存す。道路はこれより愈南し、北宇和と東宇和との境を劃れる法華津峠を踰え、直ちに吉田町に達す。町は人口五千を有し、海岸に瀕せるを以て、船舶の來り集るもの多し。宇和島町は早此處を去ること二里に過ぎず。

吉田町

宇和島町

宇和島町は縣下第二の都會にして、南豫宇和四郡の中心を成せり。(第四十) 宇和島灣の無數の長く彎入したる蒼波と無數の島嶼とに面し、東北は滑床山大谷山鬼ヶ城山等の高嶺を繞らす。此地は天正中西園寺公頼の弟宣長之に居りしが、徳川氏に及て伊達政宗の長男秀宗に此地を賜ひ、爾來世襲して以て維新に至る。市坊の數戸數千七百人口八千三百を有し、市街殷賑、人煙稠密

なり。先づ藤江を過ぎて、町に入れば、須賀川は市街を横貫し、一道の長橋を架せり。街路は南北に通ずるもの最も繁華にして、中央に北宇和郡役所あり。海岸通には回漕業、肥料商軒を列ね、港内には帆檣林立、白帆徂徠大阪より四國九州の沿岸を航海する幾多の汽船は常に此處に寄港して响然たる汽笛の響絶ゆるとなし。宇和島城址は町と全く離れたる丘陵の上において、今日猶城格と天主閣とを存し、老樹鬱蒼たる間、遙かに其白堊を望む、まことに壯觀なり。市外、九穗村に宇和津彦神社あり。縣社にして、國內屈指の古社なり。正殿中殿拜殿等結構壯麗なり。西、宇和島城と相對し、眼下に宇和島の市街と明媚なる煙波とを望み、風景甚だ佳なり。また市街の北下村に、和靈神社あり。海祖伊達秀宗が其東臣山家公頼の靈を祀れるもの、祠宇甚だ宏壯ならずと雖も、香火の盛なる蓋し南讃に冠たり。(第四十圖西)

宇和島と一丘陵を東に隔てたる地は、廣見川の峡谷にして、此沿岸に幾多の村落發達す。松丸吉野は其の中に於ける名邑なり。而して此道路を浜れば、高知縣幡多郡下山村に達す。

宇和島より南する街道を宿毛街道といふ。高知縣宿毛町に達せるが爲めに、その名を得たり。宇和島を去りて、三里にして、岩松の一邑あり。これより下畑地上畑地を経て南宇和郡に入り、柏菊川を経て、平城に達す。邑は人口三千を有し、南宇和郡役所は此處にあり。一地方の中心を爲せども、要するに海岸の僻地にして記すべきこと少し。街道は此より東し、中の川を経て、高知縣界に達す。

更に松山市に戻り、是より土佐街道をたどるとせん。伊豫鐵道は立花驛より森松驛に至りて終端驛を爲す。土佐街道は益々南し、久谷に至る地に古城址あり。新道は迂回して三坂峠に達し、窪野より來れる舊道と會す。三坂峠の頂上は眺望の佳なるを以て稱せらる。殊に土佐方面より來れるものは深山峡谷の中より出て、此處に始めて開豁なる展望を擅にし、松山平野の瓦葺粉壁を始めとして、伊豫灘の煙波悉く之を一眸の中に集め快哉を叫ばざるものなし。峠を下れば久萬町あり。上浮穴郡役所所在地にして、人口四千を有す。四面悉く山に包まれ一盆地をなし町は即ち此盆地の中心をなす。町の東十町

三坂峠

久萬町

昔生に、眞言の古刹大寶寺あり。大寶元年の創基にかゝる。此寺の奥の院は七鳥村嶽谷の山中にありて、四國通路巡禮の札所なり。土佐街道は久萬町より久萬川の流に沿ひて屈曲し、日野浦黒藤川等の諸邑を経て、高知縣境に達す。

高知縣

高知縣は本地方の南部に位し、東北は徳島縣に界し、北方及び西方の大部分は愛媛縣に接し、南は全く太平洋に面す。縣廳を高知市に置き、土佐國の一市七郡を管す。市は即ち高知市にして、七郡は安藝・香美・長岡・土佐・吾川・高岡・幡多是れなり。東西長さ大凡三十五里、幅大凡十里、面積四八四方里(七四七九・九二方軒)人口六四五二七〇(一方里一三三〇人)を有す。各郡中面積の最も大なるものは幡多郡にして、高岡郡これに次ぐ。幡多是面積一三三三方里、高岡は一・二方里餘なり。これに次ぐは安藝郡の八一方里、土佐郡の五〇方里にして、最も面積の小なるは、吾川郡の三五方里とす。本縣中人口の密度

高知縣

面積人口

地勢

最も大なるものは吾川郡にして一方里平均三千二百人を有し、長岡郡これに次ぎて一方里平均二千百餘人を有す。人口密度の最小なるは幡多郡にして一方里九百人を有すに過ぎず。

地勢は極めて山勝ちにして、四國山系は縣下を横斷し、石槌山脈は縣の北境に接して横はり、劍山山脈は更に其南に隣りて縣の中央を走り、東は徳島縣に西は愛媛縣に入る。其他猶二三の小山脈之に並行して南方に列なるものあること疊に地形の章に述べたるが如し。縣の中央に於ては斯の如く山脈の序列明かなるも、東部西部に於ては其形稍複雑にして前者は安藝山地をなし、後者は幡多山地をなし、其西隣の宇和山地に連なる。而して吉野川の巨浸は石槌山脈の間を始めは縦谷をなし後ち折れて横谷をなして徳島縣に入る。又仁淀川は愛媛縣より來り劍山山脈の間を貫きて東南に流れ土佐灣に朝す。此二流は其走路の大部分は高山峻嶺の間を走りて峽流をなすも、而かも其盤谷は四國交通の主幹線路の通ずる所にして、沿岸亦山中主要の聚落を發展せり。又縣の西部には四萬十川ありて幡多山地の間を貫流し該地方の脈絡をなす。か

くの如く、縣下は山嶺丘陵起伏するを以て、平地は高知市附近を中心とする地方に止り、東部の海岸地方と前記諸川の下流沿岸に少許の發達を爲すに過ぎず。高知市附近の平野は浦戸灣頭より物部川下流に亘れる地方にして御免山田・赤岡の諸邑爰に發達し、仁淀川の下流の平野には、製紙を以て著名なる伊野町及び高岡町發達す。伊野町の西、伊豫街道上に佐川町を中心とするの一盆地あり。須崎町は高岡郡の海岸にありて、縣第二の都邑を成し、殊に港灣良好なるを以て聞え、漁業商業共に隆盛なり。幡多郡に入れば、四萬十川の附近の地は郡の中心を成し、農業工業共に盛に、其中心なる中村町は最も重要なる物資集散地たり。又此町附近には土佐の古國司たりし一條氏の故址ありて、歴史的遺蹟に富めり。下田港は河口の要津をなし、又宿毛町は宿毛灣に臨める良港にして、殊に愛媛縣との交通盛なり。縣の東部の内地には物部川の上流韭生郷に其地方の中心たる大柄の一邑あるのみにして、他は概して海岸地方に都邑連珠の如く相連る。安藝安田・浮津・室津等の諸邑即ち是なり。此海岸は縣下著名の捕鯨業の最も發達せる處なり。阿波に近く甲ノ浦の一邑

産業

名なる港津なり。

縣下の産業の主要なるものは林業水産にして、共に四國四縣に冠たるのみならず、其水産業は又本邦屈指の位地を占め、殊に鯉漁を以て知られ、又捕鯨珊瑚採收等の如き、他縣に多く見る能はざる特色を發揮せるを見る。林業は縣下の大部分山地なると風土の之に適せるとを以て、極めてよく發達し、又工業に於て吾川郡土佐郡高岡郡の製紙は古來有名なるものなり。

交通

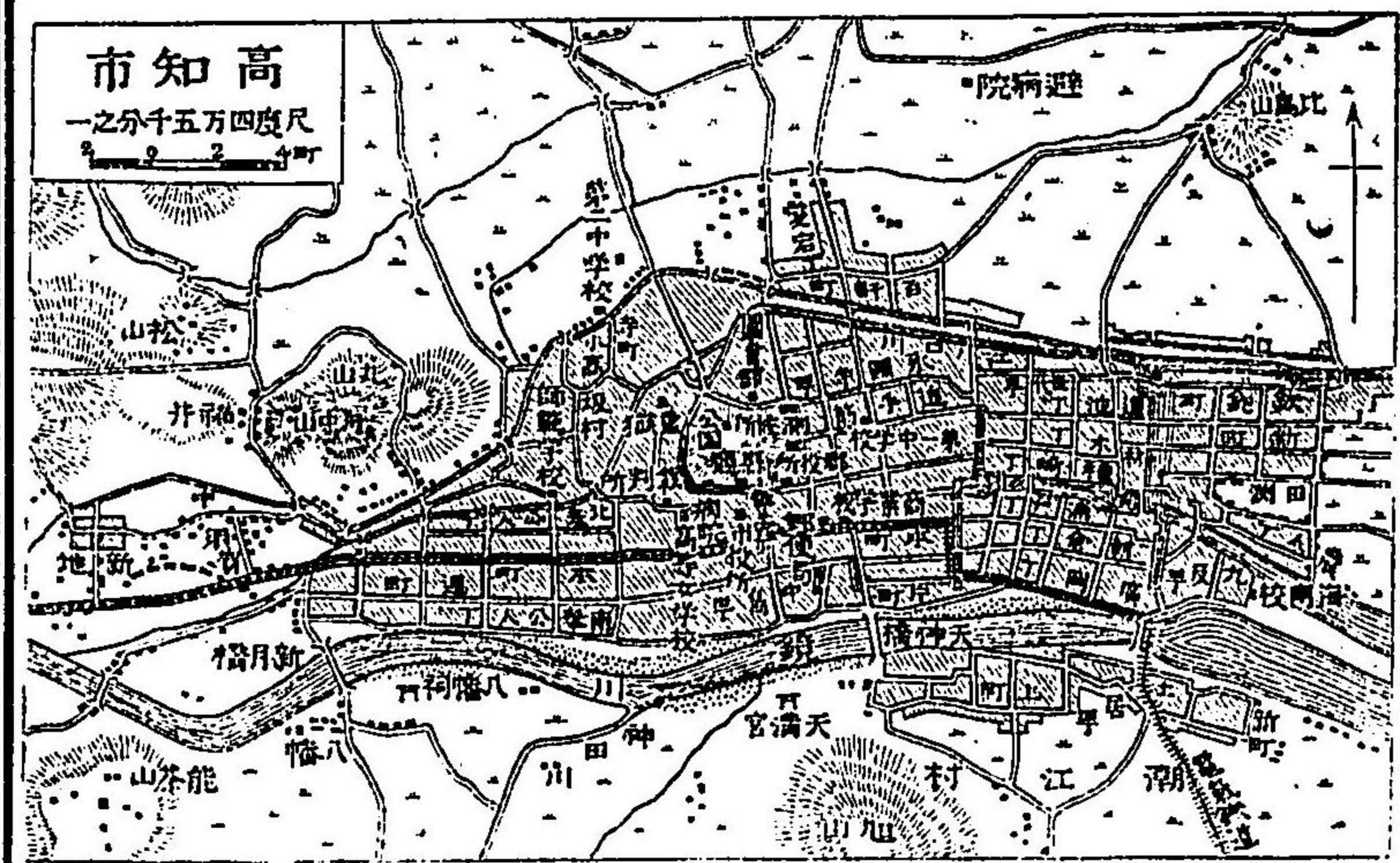
縣下の交通を記せんに、本縣は未だ鐵道の敷設を見ず、陸上の交通機關としては高知市附近に一條の電氣鐵道あるのみ。この電氣鐵道は浦戸灣頭潮江村の棧橋を起點とし、高知市中を東西に走れど、要するに纔かに高知市を利するの交通機關たるに過ぎず。道路は高知市を中心として輻射し、其主要なるものは徳島街道・讚岐街道・松山街道にして、之に次で別子街道・宇和島街道・大洲街道等あり。徳島街道は三路あり。一路は高知市より海岸を縫ひ、赤岡・安藝安田を経て奈半利に達し、これより海岸を離れて安藝郡の中央を東西に横斷し、再び東海岸の一邑野根に出て、甲ノ浦を経て、徳島縣の穴喰に達す。

道程三十二里餘なり。一路は高知市より長岡郡の南端を掠め、香美郡に入り物部川溪谷に沿ひ葦生郷を経て阿波海部郡に出づ。道路險惡にして車を通せず。一路は讃岐街道と同じく阿波に入りて、始めて分かれて徳島街道となるものなり。即ち高知市より東北に向ひ、根引峠を越え、穴内川に沿ひ、遂に吉野川の上流地方に出て、これに沿ひて、阿波三好郡下名に入る。道路良好にして車を通じ主要道路中の幹線たるものにして、人馬常に絡繹たり。此の道路の中途高須より岐れて北し、川口立川を過ぎ笹峰を越え愛媛縣宇摩郡地方に達する一支路あり。古は四國横斷の主要なる道路をなせり。別子街道は此線路と並行して又四國山系を横斷し、土佐山を経て土居附近に至り之より吉野川の上流に沿ひて溯り、大平を経て愛媛縣に入り別子に出づ。松山街道は高知市を出て、西し、伊豫に於て仁淀川を渡り、佐川を經、大崎より川口に達し、これより二路に分る。一は土居川居を經、一は仁淀川に溯りて愛媛縣界に至る。共に上浮穴郡の久萬町に向ふ。殊に後者は車行容易風景の美亦之に伴ふ。この道程約二十里餘なり。縣下西部幡多郡を経て宇和島に向ふも

のは高知市より西南して、弘岡高岡市野々の諸邑を經、須崎町に至りて海岸に出で、久禮に至りて再び丘陵の中に入り、平串に至りて大洲街道の一路を分つ。概して僻地にして車馬の便に乏し。幹線は西南より南に折れて幡多郡に入り、佐賀に至りて再び海岸に出て、入野を經、次て郡の首邑中村町に達す。街道は更にこれより西して宿毛に達し、遂に愛媛縣南宇和郡に入る。この幹線路の道程四十三里餘あり。概して車を通ず。海運は交通不便なる本縣下に於ては、特別の發達を爲せり。大阪商船會社の經營せる高知、大阪間の定期汽船は一方に於ては高知市と阪神二港を連ね、又一方に於て宿毛港は所謂宿毛線の終端港をなして、瀬戸内海諸港を經て阪神地方と常に相往來せり。其他高知市を中心として東西二線の航路あり。東を甲ノ浦線といひ、西を宿毛線といふ。共に沿岸各港に寄港す。

吾人は先づ大阪高知間の定期航海に搭して、高知市に向ふとせんか、左舷に浦戸灣の門戸をなせる龍頭岬の絶端に白色の燈臺を見、右舷に種崎の沙嘴を望みて、狹隘なる水道により漸く灣内に入れば、少時にして浦戸港の人煙

高知市



家屋を左舷に望む。灣形漸く廣くして、裸島・玉島・鐘島・青螺を點し、東孕・西孕に至りて灣形再び縮れ、更に廣がりて、風景明媚なる吸江灣を展く。旅客は此時既に遙かに高知城の粉壁を萬葉の頭に認むるを得べし。

高知市は浦戸灣の盡頭高知平野の中央に位し、南と北には郊外近く山脈の連亘せるあり。鏡川の一水北より來り、折れて東に流れ市に入るに先ちて二派に分れ、一は大川と稱して市の北部を流れ、本流は市の南部を縁どり共に浦戸灣に注ぐ。市は東西三十二町、南北八町、市坊の數五十六、戸數六千五百、人口三萬四千餘

を有す。市の沿革を釋ぬれば、戰國時代にありては、長曾我部浦戸城に治し、此地は唯一村落たるに過ぎざりしが、徳川氏に及び、山内一豊遠州掛川より來りて此地に封ぜられ、慶長五年始めて城を小高坂に修築せしより、城下の繁華次第に加はり、廿四萬石の大名の城下として以て維新の時に及べり。今市の中央丘陵の頭に其城墟を存す。市は高知町北町上町の三區劃に分たる。旅客の市に入るもの、此の潮江棧橋に達するに先だち、其埠頭に數隻の汽船の繋留するを望むべし。この棧橋は明治卅七年の春を以て起工し、同年十月開通式を挙げたるもの其落成すると共に從來浦戸港に碇泊せし汽船も直に爰に來りて纜を結び、交通上多大の便を與ふるに至れり。電氣鐵道は之より直ちに旅客を高知市の繁華なる街衢の中に運び去るべし。かくて築港棧橋より鏡川に架したる一橋を渡れば、即ち北町の一區劃にして、八百屋町木履屋町は縦街路を爲し、浦戸町朝倉町は横街路を爲し、八百屋町に二三の銀行瓦葺相接せり。これより播磨屋町の繁華なる街路南北に通じ、巨商薈を並べ、人煙稠密なり。蓮池町に高知商業學校あり。山田町に縣社八幡宮あり。附近河

高知公園

岸に青物市場あり。鏡川の下流に魚市場あり。播磨屋町に交又せる横街路蓮池町通を東すれば、高知町の一區劃に達すべし。此一區には市の官衙學校多く集り、中央に城址ありて濠渠之を周る。宛然東京の丸の内の規模を小にせるものなり。舊城址の大部分は今公園となり、天主閣と城門とは依然として當年の面影を存し、城内老樹鬱蒼まことに市民好箇の遊覽所たり。城樓を今呼んで威臨閣といふ。其附近に測候所あり。公園の東、舊大手門に隣りて、縣社藤並神社あり。山内氏祖先一豊公の靈を祀り、社殿境内共に清酒なり。天守閣の南、丘陵の下に縣立病院あり。之と濠を隔て、帶屋町に地方裁判所市役所土佐郡役所高等女學校あり。又大手町に至れば、土佐女學校第一中學校等の校舍相接す。城濠の北に隣りて農學校あり。西に隣りて大林區署監獄署の建築物あり。更に西方小高坂村に師範學校第二中學校の校舍あり。かくて其南に隣り高知町の西部をなせる上町の一區劃に達す。此地は北町に比して其繁華遠く及ばず、松山街道の起點たる宿驛的の繁華を有するに過ぎず。水道町筋に入幡社あり。

湖江村

鏡川の對岸なる湖江の地も今は高知市の管轄に屬せり。地に縣社菅原神社あり。社殿宏壯なり。この東に隣りて眞如寺、要法寺等の巨刹あり。築港棧橋に至る道路は年々家屋を増加し、土居町新町の附近は稍々繁華なる街路と成すに至れり。

之を要するに、市は四國の僻陬に介在し、交通不完全なるを以て、四國の各都邑に比して、商業振はず、繁華また他に一步を讓るの憾あれども、土佐一國の首都として、其風俗其生活其氣風總て一種堅實なる特色を有し、明治史上幾多の人傑を産みしは特に記憶すべきことと爲す。(第五十一圖甲)

これより先づ市の周圍を記せんに、高知市の東端に布師田川あり。長岡郡の山中に發し、土佐、長岡兩郡の境を爲して浦戸灣に注ぐ。此河口に一大長橋を架す。青柳橋といふ。此橋上より展望すれば、所謂土佐名勝の隨一なる吸江十景(第五十三圖乙)は直ちに眼前にこれを指點すべく、灣水一碧、清きことさながら鏡を拭ふが如く、東方に聳立せる五臺山の翠螺は宛として畫圖中にあるが如し。五臺山の西麓に吸江寺あり。この寺の下に吞海亭あり。亭、長

吸江十景

く海中に突出し、其景近江の琵琶湖の堅田浮御堂に髣髴たり。吸江寺の上にある粹適庵またこの吸江の寺を見るに適せり。されどこの吸江の全景を一眸の下に集めんと欲せば、五臺山上の見國嶺に上らざるべからず。山頂の眺望絶佳にして、高知市の瓦葺粉壁、浦戸灣の深碧なる海波悉く一望の中に集る。五臺山上に眞言の古刹竹林寺あり。神龜年間僧行基が聖武天皇の勅を奉じて勸建せしもの、境内廣潤にして堂宇宏壯なり。

潮江より南し、一里にして吾川郡に入る。横濱より道路は海に添ひ、績島裸島、玉島等の青螺瑠璃盤上に散點し、風光盡くが如し。御壘瀬の一邑あり、人口千七百を有す。此附近は夏時海水浴に適するを以て來り遊ぶもの多し。

長濱は一名邑にして、其附近瀬戸横濱海洲灣を合せて人口五千を有し、地に區裁判所あり。地に古城墟あり。天文の頃土佐七雄の一人本山梅慶の屬城たりしといふ。天甫山に長曾我部氏の墓所あり。秦神社には長曾我部元親の木像あり。其他海岸は近く宇賀神社若宮八幡宮等あり。八田川は野中良繼の開鑿せる運河にして、長濱村中を西より東に流れて海に注ぐ。村民今猶其灌溉

長濱

の利を喜ぶ。

浦戸は浦戸灣口の西側にありて、人口二千餘を有す。全村悉く漁獵を業とす。此地は長曾我部元親の居城のありし處、往時は頗る繁盛を呈したるなるべけれど、今は其繁榮全く高知市に移れり。浦戸の南方外洋に面せる一帯の地を桂濱といふ。海岸には徒崖沙濱相半し、龍頭岬に至りて奇岩絶壁多し。此沿岸二里、怒濤奇岩に激するの景と白沙一帶松樹其間に點綴せる景とは頗る嘆賞に値ひす。近年海水浴場の設あり。山上に長曾我部歴世の城址あり。今は唯其髣髴を留むるのみ。

高知市附近にて猶著名なるものを擧ぐれば、市の西南濱街道上の朝倉村に朝倉神社あり。縣社にして往古より著名の古社なり。傳へて齊明天皇崩御の舊址なりといへど、元より信ずるに足らず。國道より賽路二町餘、これを馬場と稱し、正面に本社拜殿等あり。村に歩兵第四十二聯隊の兵營あり。市の北方初月村字圓行寺に、鑛泉を湧出す。其地丘陵の中にありて、交通便ならず。泉質炭酸泉にして、無色透明、少しく白色の浮游物あり。浴舎數軒あり、

浦戸

朝倉神社

土佐神社

湧して以て沐浴に供す。土佐神社は市の東北一里餘一の宮村大字一の宮にあり。國幣中社にして、一言主神を祀り、縣下第一の大社と稱せらる。當社は往昔の一の宮にして、社殿宏壯輪奐の美を極め、一年七十五回の祭儀ありて、神徳盛揚、靈驗殊に著るしかりき。永祿六年本山梅慶の兵燹にかゝり、本社を除くの他は大抵灰燼に歸したるが、永祿十年長曾我部元親再建に着手し、四年を経て元龜二年の春竣功す。即ち現今の社殿なり。傳へ云ふ此社再築の頃は今の匏の類なく、斧鉞を以て板面を削りし爲め、梁柱斧鑿の跡歴々たりと。本社殿は特別保護建造物にして、其敷地切石を高く積み、地面盤より床面の距離數尺に及び、奈良の舊都に見る木造伽藍と同一の構造を爲せり。又以て古代の建築物たるを知るに足るべし。棟上の欄間に水草の彫刻あり。質樸にして雅致に富めり。要するに本社は縣下に於ける最も古き建造物にして後來永く建築家史學家の賞する處となるべきものか。

後免町

高知市より東方に向へる徳島街道を巡れば布師田川を渡り、平野の間を行くこと三里餘にして後免町あり。人口千五百餘を有す。地に長岡郡役所あり。

國府舊址

町の北方一里國左比村大字比江に土佐國府の遺址あり。承永年中、紀貫之は土佐國司として此地に來りし時、其政廳を置きしところなり。里俗この古址を内裏の田又瓦畑といふ。地に一碑あり、題して紀氏舊蹟之碑といふ。天明年間尾池泰水の建てたるものにして、國主山内豊雍の篆額、權大納言日野資枝の和歌、清原宣條の銘辭を刻す。遺跡の東二町字豌豆畑に一大礎石を存す。長さ九尺六寸幅六尺四寸、中央八方形の凹みたるところあり。これ蓋し柱穴たるべし。土佐日記に據れば、貫之の歸來するや國府より大津に出て、船に乗れるよしを記せり。此大津は國佐比村の西南一里餘にありて、今は全く海より遠く離れたり。また以て桑滄の變を知るべし。同村大字國分寺に國分寺あり。天平年間聖武天皇の命じて擬建せしめしもの、國中著名の古刹なり。後免町より直ちに香美郡に入り、物部川の灌漑せる沖積平野を東に向ひ、海岸に出て、赤岡町に達す。町は人口四千を有し、香美郡中第一の都邑にして、郡役所區裁判所等の官衙此地にあり。町の東岸本村の北に一小丘あり、老樹其上に生じ、頂上稍々平坦なり。人傳へて、土御門天皇行在の舊址と爲す。

安藝町

これより東南二十町、手結港あり。手結岬其北に灣を抱き、一小繫泊地を形成す。此海岸は土佐日記に謂ゆる宇多の松原にして、往時は松樹遠く連り、風光畫くが如くなりしも、今は松影乏しく、空しく波濤の徂徠するを見るのみ。手結港より道路徒崖の上に通じ、一小嶺を成す。手結峠といふ。風光頗る佳なり。これより和食赤野櫻濱穴内等の諸邑を過ぐ。此附近甘蔗の栽培多く、製鹽業また盛なり。

安藝町は安藝川の河口右岸にあり。安藝郡第一の名邑にして、人口六千七百を有す。郡役所區裁判所第三中學校あり。町の北土居村に古城墟あり。豪族安藝氏の據りし處なり。安藝川の峡谷に井ノ口あり。明治の人豪岩崎彌太郎出生の地なり。其東内野原に鑿業家數戸あり。尾戸焼と謂ふもの即ち是なり。此平地は伊尾木川安藝川の灌漑する處、面積狭小なりと雖も、安藝郡中第一の肥沃豐饒の地にして、米穀を産す。伊尾木に伊尾木洞あり。かくて不動河野を経て大山岬に至る。巨岩海中に突出し、風光壯大なり。四國巡禮遍路の札所なる神の峯はこの海岸の唐の濱より登躋す。登路一里半、山腹に神

奈半利

峯の一邑あり。創建年月は遠遠にして知るべからず。維新前は神峯寺と稱せしを、明治九年改めて縣社に列せり。山頂の眺望絶佳なり。

これより安田を経て安田川を渡る。安田より郡の中央魚梁瀬に至る新道北に岐る。田野は一名邑を爲し、人口三千九百を有す。これより奈半利川を渡りて、奈半利の一邑あり。人口四千八百を有す。此地は奈半利川上流地方魚梁瀬山の大山林送木の河口に位せるを以て、材木山積し、河口にはこれ運搬すべき船舶常に碇泊し、一種他に見るべからざる繁華を保つ。

魚梁瀬山は八千町歩に餘れる面積を有せる官有林にして、杉の良材を産し長岡郡白髮山の檜と共に縣下に著名なり。近時奈良吉野地方の伐木法を用ひ、其功果頗る良好なりといふ。

奈半利より野根山越東に岐る。此山路は徳川氏時代に於て東より土佐に入らんとするもの、要路に衝れるを以て、山地の中央岩佐に關所を置き、以て行旅を檢したりき。奈半利より東海岸の野根に至る道程十二里餘なり。道路險惡にして行人甚だ稀なり。

吉良川

奈半利より須川を経て中山岬に至る。岬頭に羽根石と稱する奇岩聳立す。羽根は人口三千六百を有す。海岸は白沙青松相續きて半月形を畫き、風光眞に畫圖の如し。土佐日記に『今し羽根といふ所につまぬ。若き童此の所の名をきいて、はねといふ所は鳥の羽のやうにやするといふ。また幼き童のとなれば人々笑ふ』と記せるは此處なり。これより沙漠平滑にして吉良川に至る。人口四千を有し小市街を成せり。吉良川の岸に榕樹あり。幹の周圍三抱餘、唯半ば朽ちたるを憾みとす。

行當岬の前面に突出せるを望みつゝ元の一邑に達す。北方一里に西寺の里名を存す。有名なる金剛頂寺は標高二百米弱の丘陵の上にある。寺は新義眞言宗にして、大同年間僧空海の創建するところ、四國通路札所の一なり。往昔は歷代天皇の崇敬篤く、香煙噴音この誨嚙に遍ねかりしも、今は全く其面影なく、幾かに堂宇二三を留むるのみ。

浮津

浮津は土佐東海岸航行汽船の重要な寄港地にして、高知市を距る水路三十八哩、室津を合せて人口六千七百を有す。縣下著名の水産業なる浮津捕鯨

津呂

會社は邑の北端にあり。此社は津呂捕鯨會社と共に土佐海の捕鯨に従事し、毎年代代に、東西兩岬端に得る處近年まで平均三十頭に上り、價額五六萬圓に達す。捕鯨の方法は陸に數箇所の見張を設け、望遠鏡を以て數里の外の鯨の游泳する見、目標狼煙を擧げて其の種類と位置とを報す。二隻の沖差配舟は數隻の屬船を指揮し、沖に於て其獲物を取巻き、鋸を投し鯨を傷け、遂にこれを斃し、縛して歸る。其光景頗る壯觀を極む。近時は漸く其方法を改めノルウェー式漁船により火砲を以て之を獲るに至り、捕獲の數亦大に加はるに至れり。また此地は土佐東部珊瑚採收業の中心として知られ、又土佐東部鯨漁の二中心を爲し、鯨節の製造頗る盛なり。此附近また石花菜を産す。室津港の上に津寺あり。四國通路の札所にして、堂宇古雅なり。

室津より南すること一里、上人磐二子磐沖の磐等の奇岩海中に散點し、前に室戸岬の懸崖を見る。津呂は人口四千を有し、浮津と共に捕鯨業の中心を成すことは既に前にこれを記せり。邑の入口に津呂捕鯨會社あり、又其東端に堀割の一港あり。東西二丁南北三十間、水深く漁船數百を泊せしむるに足

室戸岬

る。これより一里にして室戸岬に達す。

室戸岬は土佐東南の極端にして、西方の蹉陀岬に相對して土佐灣を抱く、又遙かに東方紀伊熊野と相對して、紀伊水道の門戸を爲せり。岩頭亂礁屹立し、白砂雪の如く、松翠之に映し、眞に壯觀を極む。岬頭四百尺の上に最御崎寺あり。新義眞言の巨刹にして、元村の金剛頂寺と對して、東寺といふ。大同二年僧空海の創製する處、嵯峨天皇以來歴代の勅願寺なり。古來此の寺は蹉陀岬の金剛福寺と相對し東西の二大伽藍なりしも、今は荒廢して舊態なく、所々に礎石を存するのみ。岬の南端に燈臺あり。明治三十年築くところ、白色回轉の燈光は海上三十哩に及び、紀伊水道往還船舶の航路の標識を爲す。(第十圖甲)燈臺の下に大師の窟と稱する岩窟あり。其上榕樹林を成し、人をして熱帯地方の小模型たるを思はしむ。

野根

德島街道は浮津より北して丘陵の間を越え、三里にして東海岸に出て、又二里餘にして佐喜濱に達す。地は人口三千を有し、漁業發達せり。字根丸に入幡祠あり。これより沙濱徒崖相半せる間を過ぎ、野根に達す。地は野根川

韭生郷

の河口に位し、野根山越の一路これより西に岐れたるを以て、人煙稍盛なり。これより南する二里餘、遂に縣の東北端甲ノ浦に至る。甲ノ浦は一小灣を成し、櫻津又はかぶとの浦と稱す。葛島港口に横りて海水二つに岐れ、東港を東股、西港を西股といふ。東海岸唯一の港にして、汽船和船盛に港内に輻湊す。人口四千二百を有す。字甲山に熊野神社あり。

德島縣界は此處を北に距ること僅かに數町に過ぎず

香美郡の地は深山幽谷にして、物部川の溪流其間を東北より西南に流る。この峽谷を二大別して韭生郷、横山郷の二とす。韭生郷は上韭生下韭生奥韭山の三つに分ち四十六村を有し、横山郷は十四村を有す。共に山間の僻地にして木材楮茶等を以て其生業と爲せり。阿波の祖谷に比すれば、稍開けたる如くなれども、其住民の平家の後裔を以て稱せられたる、溪流處々に蔓橋を架したる、其風俗其光景酷だ相類す。德島街道の後免町より岐れ二里にして山田野地に達す。人口三千を有し、市街繁盛なり。蓋し物部川峽谷よりする物質の集散地を爲せるが爲なり。且、近郷より産する茶及藍の製造所あり。

山田野地

大柄

山田堰は高知藩士野中兼山の經營せる處、鏡野兩面の荒蕪一朝にして良田に化したるは、實に此治水の功に由ると謂ふべし。物部川の屈曲部片地より以東を葦山郷と爲し、橋川野太郎九野尻を経て葦生野に至る。此間峡谷稍々廣く、宛然關東平野多摩川の青梅より棚澤附近に至るが如し。地に縣社大川上美良布神社あり。祭神は大田々禰古神にして、式内の古社なり。拜殿本殿共に白木造の茅葺にして結構古雅なり。境内老杉古楡多し。これより小川吉野根須を経て白石に至る。此邊兩山漸く迫り、峡谷次第に盛りて、山腹の斜面また急峭に、物部の大溪は之字狀を爲して屈曲し、山水の美容易に狀すへからざるものあり。永瀬村を経て少時川に離れ、白木坂を登り、傾斜急峻なる阪路を下れば、深谷の中一奇橋を架す。これ即ち大柄橋なり。此橋は明治十五年まで葦橋なりしもの、東南より來れる横山川の物部川に合せんとする處に位せり。橋を過ぎ、山腹を迂回して行くこと五六町、大柄邑に達す。人口千二百を有し、自から物部川峡谷中の中心市邑をなす。

大柄にて途は二つに分られ、各々川に沿ふて溯る。即東北より來るものを葦

生川と稱し、沿岸上流に柳瀬安九久保の諸邑を有す、所謂奥葦生なり。東々北より來るものを横山川と稱し、其沿岸附近の村落を總稱して横山郷と爲す。横山郷は深山幽谷にして、居民は平氏の後裔と稱し、米穀の産に乏しく、玉蜀黍甘藷等を以て其常食となす。物産は木材を主とし、椿茶これに次ぐ。而して木材は大雨を待ちて大柄に下し、これより筏に組みて山田野地に送る。奥葦生を窮むれば、二路に別れて共に阿波美馬郡祖谷に達し、横山郷を窮れば、阿波海部郡に達す。共に道路險惡にして馬猶至らざる處あり。押谷に葦橋あり。其製祖谷の葦橋に同じ。

高知市より東北に向へる道路は阿波吉野川の流域に達する重要な道路にして、近年大に修繕を加へ、四國道路の幹線として容易く車馬を通ず。市を出て、一の宮の土佐神社を過ぎ、國分の西、八幡より又北を指し、領石植野より根引峠四百二米を踰え、繁藤に至る。明神嶽其の西に屹立す。これより穴内川に添うて下り、杉驛を過ぐ。驛に一大杉樹あり、名木を以て著はる。磯谷に至れば、四國第一の大河吉野川は西より來り、穴内川を合せて東より

伊野町

次第に東北に偏して流る。川に沿ひ豊永寺内永淵大久保を経て、徳島縣の界に達す。

吉野川上流の縦谷は、伊勢の別子に通ずる道路を成せども、寒村僻地にして、行人稀なり。唯峽谷の北なる白髮山は檜及杉の良材を産し、縣下有數の林業地に屬するを以て、筏を吉野川に下すもの多し。

高知市より西し、松山街道を辿るとせん。朝倉神社附近、縣道の南側に城山あり。本山梅慶の古城墟なり。これより鏡、仁淀兩川の分水嶺の低所内内阪を踰ゆれば、一里餘にして、伊野町に達す。町は仁淀川の東岸に位し、東西七町南北二町人口三千餘を有し、吾川郡の首邑にして、郡役所あり。此地は土佐著名の物産製紙の出産地にして、製紙會社は町の東北小山の麓にあり。明治廿八年より汽力を用ひ、近年手漉工場の他に器械工場を設け、コッピ紙及び典具帳紙を製造す。此他町の附近より仁淀川下流沿岸の地戸々紙を製し、町は實に其集散の大市場をなす。町に杉本神社あり。かくて町を西に去れば、仁淀川の大河溶々として南に流れ、舟橋を架す。下流鎌田及び八田に

佐川

川口

高岡町

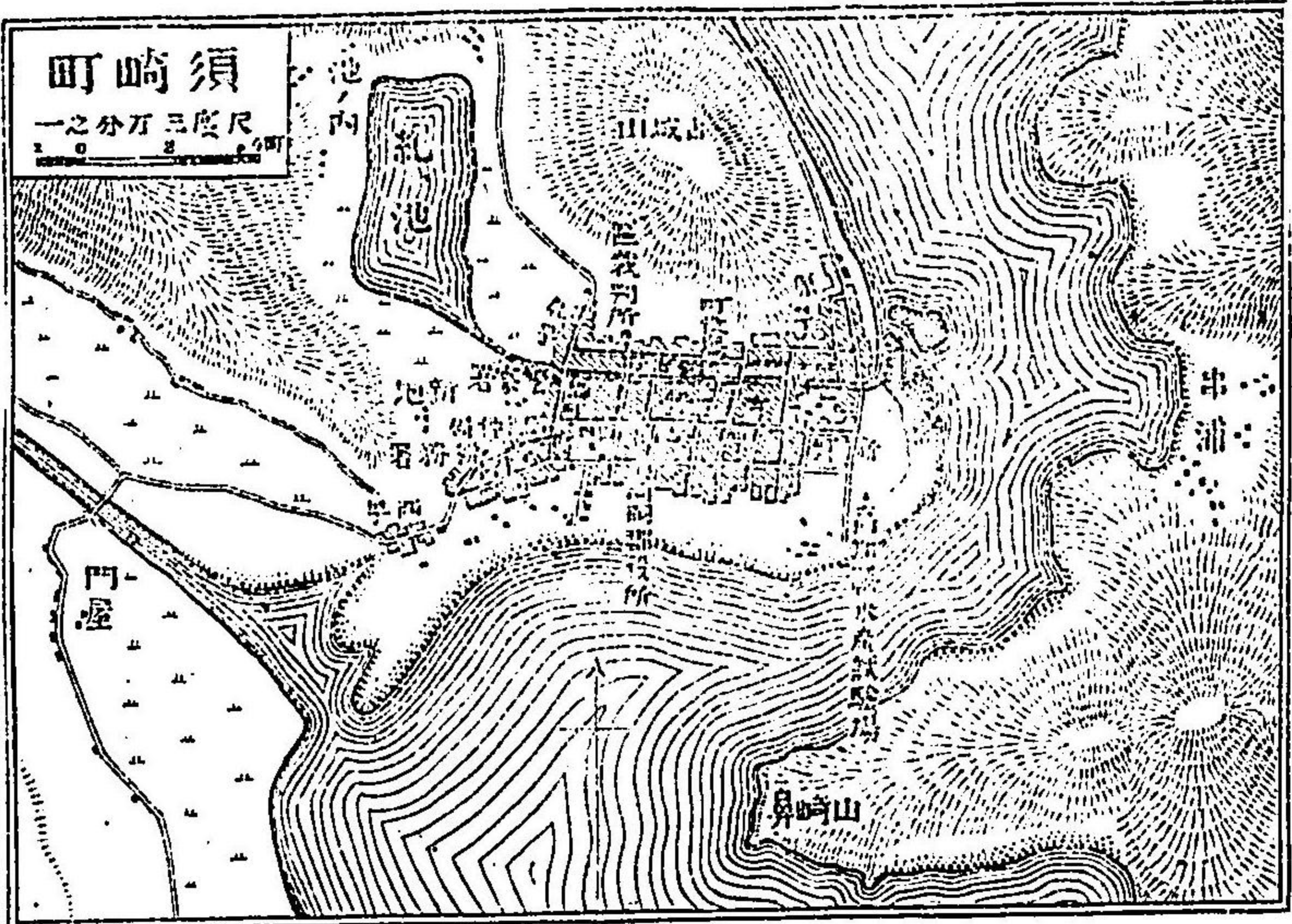
河隈あり。野中兼山の治水工事にして、民今猶其恩恵を被る。これより道路は丘陵の間に通ずる狭長なる平地を過ぎ、佐川町に達す。町は人口四千を有し、海岸須崎町に至る街道の衝に當り、人煙稍稠密なり。越智は佐川を距る三里、黒岩川の仁淀川に會湊する地點に位し、人口三千餘を有す。この西に横倉山あり。頂に御嶽神社あり。これより道路は仁淀川の南岸を縫ひ、川に従つて屈曲また屈曲、頗る狹隘なる峽谷を成し、其山水の美まことに狀すべからず。大崎を過ぎて川口の一邑あり、仁淀川舟運の起點にして、河港の繁華を有し、船舶常に其岸に輻湊す。これより山愈迫り、谷愈深く、風景愈絶佳に、道は山腹を縫ひて處々に村落を點綴し、山隈多く三椏一楮を植ゆ。斯くて遂に愛媛縣の國境に至る。(第四圖乙 第五圖甲)

再び高知市に戻り、更に海岸路を伊豫宇和島へと辿るとせん。市より鴨田を經、仁淀川を渡りて、高岡町に達す。町は人口四千餘を有し、養蠶種紙の業に従事するもの多く、戸々繰車の響を聞く。此地又梨子を産するを以て聞ゆ。高岡より南する一路は海岸なる宇佐に至る。蓮池村に古城址あり。太平

氏十三代の居城たりし地、永徳九年長曾我部氏の爲めに滅さる。これより戸波川に沿ひ戸波を経て、鷹の巢に至り高岡より至れる街道に會す。永正十四年津野元實が一條氏の將と戦ひたる惠良沼の古戰場は戸波附近にあり。市野々の一驛を過れば、丘陵稍迫り、足指漸く仰き、名古屋阪に至る。阪上の隠道を出づれば、須崎灣及び龍岬半島の山腹を展開し、眺望頗る開豁なり。これより須崎町に至る纒かに一里半に過ぎず。

須崎町

須崎町(第五十)は須崎灣頭に位し、後は重疊たる連山を負ひ、灣内水深く巨船を泊せしむるを得べく、實に南海九十九灘中の良碇泊地と稱すべし。灣内に戸島中島神島等あり。東西十町南北四町市坊九人口一萬三千餘を有す。往時は佐川街道町の中央糺町に出でしを以て、大厦巨肆は皆な其の近傍に集りしに、今は縣道町の東端古市町に通じ、汽船解舸の埠頭、運漕店等皆同じく東面に集れるか爲め、繁華全く町の東半部に遷れり。商業工業共に殷盛にして、高岡郡山中の物産の唯一の門戸を成せり。且、此地は吾川郡伊野町と共に本縣西部製紙の集散地たり。地に高岡郡役所區裁判所水産試験所等あり。



第三編 地方誌 高知縣

町の附近は津野元實の據りし古城墟を存す。津野氏は土佐七雄の隨一にして、文明年間に於ては其の勢力國司一條氏を凌ぐの概ありしが、長曾我部氏の起るに及んで、遂に滅ぶ。町に津野神社あり。津野氏の祖先を祀る。

須崎の東南、野見灣の中に野見港あり。灣深くして船を泊せしむるに適し軍艦の好碇泊地をなす。灣口の戸島に榕樹あり。横波三里の半島、龍村に青龍寺あり。眞言宗の巨刹にして、四國遍路の札所にして著名なり。海山の美また頗る佳なり。

須崎町より南し、二里にして久禮に

下田港

至る。邑は人口三千餘を有し、土佐西海岸航行汽船の寄港地なり。港頭に八幡宮あり。松樹鬱として繁茂す。これより道路は二つに岐れ、一は海岸を縫ひ、一は四萬十川上流地方を過ぐ。前者に上加江、與津の二邑あり。後者に仁井田窪川あり。かくて道路は共に幡多郡に入り其海岸佐賀に至りて再び合す。佐賀は人口三千を有し、汽船寄港地なり。これより伊田入野を過ぎ、海岸路をたどれば下田港に達す。港は四萬十川の口にありて高知地方より水路幡多郡に入るもの、船を乗つる所なり、人口四千を有し、漁業商業共に盛なり。猶海岸を進めば、下ノ加江上灘等の漁村を経て、窪津の一邑あり。此地は土佐東海岸の津呂浮津の二捕鯨會社毎年交代に來りて、此地を前進根據地を爲し、蹉蛇岬附近の捕鯨に従事す。これより南、熱帯羊齒たるりうひんたい茂り、一葉の長さ七八尺、其叢生する所宛然小樹木林の觀を成す。これより津呂大谷の二漁村を経て、遂に土佐西南の最端蹉蛇岬に達す。

蹉蛇岬は花崗岩の絶崖屹然として峙ち、岬頭に海岸望樓あり。其西に有名なる金剛福壽寺あり。補陀落院といひ、俗に足摺山とも言ふ。四國通路の札所

蹉蛇岬

龍串

にして、嵯峨天皇の弘仁十三年勅を奉して僧空海の開基せる處なり。現今の堂宇は山内忠義の創建せる處、堂宇宏壯なり。附近に不滅不増水、龍馬世、龜呼瀑、地獄穴等あり。岬に近く伊佐の一邑あり。松尾の海岸に白磐あり。海水奔漲して渦を巻き、頗る奇觀なり。中の濱村に土佐のロビンソン中濱萬次郎の舊宅を存す。これより遠見岬を遶り、深く灣内に入れば清水港あり。此近海は有名なる鱈の漁場にして、沿岸の漁村處として鱈節を製せざるなく、清水港は實に其製造の中心を爲せり。港内水深く、此附近第一の良港なれども、灣内に暗礁あり、大船を通じ得ざるは惜むべし。この西方二里に三崎港あり。南海岸中の大村にして、人口四千餘を有し、一小市街を成す。此地は土佐西南海岸珊瑚採收業の中心にして、月灘村の岬より蹉蛇岬に至る沿岸南方の沖を生産漁場となす。これより南し、三崎川を渡り、三四町にして海岸に出つ。土佐著名の勝地龍串の奇景は實に此處にあり。此附近は第三紀赤褐色砂岩より成り、海水の侵蝕作用は巧に其脆部を侵し、爰に千態万狀の奇岩を造る。(圖甲乙)凡そ八町の間、麻風山に始り、面向不背山に終

中村町

るまで、總て八十景と稱す。龍石、鯨石、馬鞍石、水石、滑石等殆ど應接に暇あらず。海水奔騰、頗る奇觀を極む。これより縣の西端宿毛町に至る六里、櫻濱下川口、小筑紫等の漁村連珠のごとく相連る。

再び下田に戻り、宇和島街道をたどれば、中村町は四萬十川の河畔にありて、縣下第二の都邑を成し、人口一萬千餘を有す。高知市を距ること實に三十二里三十町なり。此地は文明十一年一條教房房家の父子京都よりのがれ來り、土佐七雄の爲めに推されて國司となりたる處、以後一百二年、其後繼五世相繼きて此地に治せり。今日猶當時の古圖を存し、これを見れば、市街は總て其規模を京都に模し、一條氏の邸を御所と稱し、其門を日の御門と稱し、西に公卿屋敷あり、東は與力及北面侍屋敷あり、北に家老諸大夫の屋敷あり、其他一々京都の市街に模せるを見る。また以て當時の繁盛を思ひ見るべし。

地に幡多郡役所、區裁判所、中學校等あり。町の愛宕山に一條神社あり。一條教房房家房基兼定内政の五卿を祀る。中央に本社拜殿あり。眼下に中村町の市街と四萬十川の水脈を望み、風景甚だ佳なり。また大字不破に、縣社八幡神

宿毛町

社あり。文明年中國司一條房家の男山八幡を勸請せしものなりといふ。

中村町より一路四萬十川に添ひて北に向へば、峽谷の間多くは山村僻地にして、記すべきことなし。唯、中村町より溯ること七里の處に下山の一邑ありて、附近の一小物資集散地を爲せるのみ。

中村町より宇和島街道を西すれば、中筋川の流に沿ひ二里半にして有岡の一邑に達す。人口千餘を有し、一小宿驛を成す。此附近柳を栽培し、盛に行季を製造す。其他楮、甘蔗の栽培多し。この西一里平田村、字藤林に藤林寺あり。寺内に國司一條氏の墳墓あり。小丘陵の上に位し、青苔幾百年墓碑の文字讀むに難し。其形は皆高さ一尺餘の卵形にして、右は房家中は房冬、左は房基の墓なり。其背後に一小祠を安し、三卿の靈を合祀し、扉に一條家の上り藤の紋を釘装せり。詣者當年を思ひて感慨に、摸たれざるもの無かるべし。此墓壁の下なる平地を平田御殿の舊跡とす。今猶地に御前ヶ井と稱する一古井を存す。これより西する二里、午下川を渡りて、宿毛町に達す。土佐最西の名邑にして、人口五千五百を有し、市街繁盛なり。港は市街を距ること西十餘町

○明治四十一年五月十一日印刷
明治四十一年五月十五日發行

定價金貳圓五拾錢

編者 山崎直

編者 佐藤傳

著作權所有

大日本地誌
第七卷奥付

發行者 大橋新太郎

東京市日本橋區本町三丁目八番地

印刷者 飯田三千太郎

東京市日本橋區本町 博文館

發兌元

東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地

場工一第舍英秀

理學士 山崎直方君 理學士 佐藤傳藏君共著
齋藤文學士 大日向理學士 大塚文學士 田山花袋其他數君補助

大日本地誌

全部拾册 各册大判
總紙數約壹萬餘頁 每卷地圖及
寫真版數十葉 挿入

地理の世に多し而も其描寫其觀察者平凡普通の地誌たるに止り、又地形地勢より觀き出して産業の盛衰、法制、宗教、教育、軍事等に及びたるものあるを聞かず本書は歐洲に於ける最新の體式に鑒み全く在來の地誌と其目的方針を異にし地文人文の關係を詳述して人為の加工が如何に自然に影響するかの點を推究し文明發展の系統を知悉するに足らしむ、若し夫れ各地の史蹟を推考して變革と推移を開述し特種産業の來歴より交通機關の發展が土地の盛衰興廢を左右し山嶽開けて都市となり桑田變じて蒼海をなす底の變遷に隨て其制度人情の趨向を窺知するに感興津々湧くが如し況んや每册鮮明美麗なる地圖數十葉及び各地勝地地名區の高麗版八十餘頁を挿入し本文と相俟て完全ならしむるに於てなや、彼の乾燥無味なる偏狹の地理書と同一視すべからざるなり

第壹卷 關東

方面地圖(着色版八枚)
寫真銅版八十一頁
紙數九百餘頁
正價金貳圓四角五分
小包料金拾五錢

一 望遠なき平野の理河川縱横に流れて舟楫の便多く交通機關又完備して殆んど他地方の模範たるものあるは是れを關東地方と云ふ本卷收録する所は是等の地形地質より説き起して沿革宗教政治教育産業等に入り轉じて地方誌に及ぶや叙述精到にして緻密其地方の盛衰興廢を叙するに精確なる榮耀精確なる考證に

第二章：政治、宗教、行政、司法、軍事、教育、宗教(神社、神道、佛敎其他)▲交通(道路、鐵道、電氣鐵道其他)◎第三章：産業▲農業(土壤、米、麥外六目)▲林業(關東地方の森林外四目)▲水産(製鹽業、生物類、外三目)▲工業(製絲、機械紡績外十目)▲鑛業(金屬鑛類、非金屬鑛類)▲商業(商業都會、商業機關、會社事業、金融機關)

地方誌 東京府伊豆七島小笠原島(東京市)地勢、河海、道路、通町區、神田區、日本橋區、京橋區

底他の企及すべからざるものあり殊に挿入の地圖及び寫真版は皆共に精巧繪畫を極め著者の勇健なる筆力と相俟つて紙上一層の美觀を添へしむ又以て本邦地理學界の重鎮たるん乎

第一卷 重要目次

第一章：地形(概説、相模、武蔵、安房、下野、常陸、上野、下野)◎第二章：海岸及沿岸線(相模灣、東京灣、太平洋沿岸、海流、並潮)◎第三章：地質▲汎論▲三波川系▲古生代▲中生代▲新近代▲噴出岩▲温泉◎第四章：氣象(氣温、氣壓、風向及風力、雨、霜、雪、霧、湿度、一豆南諸島及び小笠原島の氣象)

第二章：政治、宗教、行政、司法、軍事、教育、宗教(神社、神道、佛敎其他)▲交通(道路、鐵道、電氣鐵道其他)◎第三章：産業▲農業(土壤、米、麥外六目)▲林業(關東地方の森林外四目)▲水産(製鹽業、生物類、外三目)▲工業(製絲、機械紡績外十目)▲鑛業(金屬鑛類、非金屬鑛類)▲商業(商業都會、商業機關、會社事業、金融機關)

第二章：政治、宗教、行政、司法、軍事、教育、宗教(神社、神道、佛敎其他)▲交通(道路、鐵道、電氣鐵道其他)◎第三章：産業▲農業(土壤、米、麥外六目)▲林業(關東地方の森林外四目)▲水産(製鹽業、生物類、外三目)▲工業(製絲、機械紡績外十目)▲鑛業(金屬鑛類、非金屬鑛類)▲商業(商業都會、商業機關、會社事業、金融機關)

第貳卷 奧羽

方面地圖(着色版八枚)
寫真銅版八十一頁
紙數九百餘頁
正價金貳圓四角五分
小包料金拾五錢

夫れ奥羽の地たる山嶽重疊河川縱横文物交通は關東地方に及ばずと雖も自然の壯大地形地勢の複雑なるに到りては本邦多く其比を見加ふるに火山地帯の數甚だ多く海軍出入の繁榮も其の材料と該博なる考證とを以てしたれば又茲に傲するを要せざる也

第貳卷 重要目次

第一章：地形(概説、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後)◎第二章：海洋並に海岸線(太平洋沿岸、津輕海峽及陸奥灣、日本海岸、海流及潮、庄内地震、陸羽地震、三陸海嘯)◎第三章：地質(汎論、始原代、古生代、中生代、新生代、噴出岩、温泉)◎第四章：氣象(氣温、氣壓、風向及び風力、降水量、霜、雪、湿度)

第二章：政治、宗教、行政、司法、軍事、教育、宗教(神社、神道、佛敎其他)▲交通(道路、鐵道、電氣鐵道其他)◎第三章：産業▲農業(土壤、米、麥外六目)▲林業(關東地方の森林外四目)▲水産(製鹽業、生物類、外三目)▲工業(製絲、機械紡績外十目)▲鑛業(金屬鑛類、非金屬鑛類)▲商業(商業都會、商業機關、會社事業、金融機關)

第二章：政治、宗教、行政、司法、軍事、教育、宗教(神社、神道、佛敎其他)▲交通(道路、鐵道、電氣鐵道其他)◎第三章：産業▲農業(土壤、米、麥外六目)▲林業(關東地方の森林外四目)▲水産(製鹽業、生物類、外三目)▲工業(製絲、機械紡績外十目)▲鑛業(金屬鑛類、非金屬鑛類)▲商業(商業都會、商業機關、會社事業、金融機關)

第五卷 北陸

方面地圖 彩色版二葉
寫真銅版 四十三頁
紙數 七百三十七頁
定價 金貳圓五拾錢
小包 金拾貳錢

北陸道は其東南に日本山岳の脊梁を爲せる飛騨山脈を帯び海岸は延長二百里地形地質共に複雑にして地理的興味の富む事少しとせざるが故に古く産業又盛に越後の石油染織の織物業等の如き實に本邦有数の工業たり世の北陸の地理を窺はんとするの士は須らくまづ本書を編みかざるべからず

第五卷重要目次
地文 第一章：地形（概説、若狭、越前、加賀、能登、越中、越後）第二章：海洋及海岸線（若狭海、越前加賀の海岸、能登中島、富山海道越中東北部の海岸、越後の海岸）第三章：地質（汎論、原始大統、古生大統、中生大統、新生大統）▲火成岩 ▲温泉 ▲第四層 ▲氣象（氣温、氣壓、風、湿度、降水量、天氣、霜雪の季節）
人文 第一章：沿革（石器時代、上古、大化以後、大群衆制時代、平安朝、源平二氏時代、南北朝時代、徳川幕府時代、明治維新）第二章：政治行政 ▲行政 ▲司法 ▲軍事 ▲教育 ▲宗教 ▲交通 ▲水産 ▲工業 ▲農業 ▲商業

第六卷 中國

方面地圖（彩色版一葉）
寫真銅版 四十八頁
紙數 八百三十四頁
定價 金貳圓五拾錢
小包 金拾五錢

由來山陽の地は九州に近く四國に對し近畿に接し交通往來の便物質取散の利頗る重要な位置を占む殊に瀬戸内海は陷落地帯として地形上の興味甚だ多く長江曲海幾多の真港都市を此沿岸に産みて地理學上探索すべきもの頗る多し山陰は又太古出雲民族の根據地として著はれたる地一種特有の風俗を有し其他名區勝地に乏しからず本卷はこれを網羅する頗る詳密挿入の寫真版又益々麗麗を加ふ幸ひに愛讀を給

第六卷重要目次

地文 第一章：地形（概説、美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐）第二章：海岸並に海岸線（瀬戸内海岸、日本海海岸、海流及湖）第三章：地質（汎論、古生大統、中生層、新生大統）▲火成岩 ▲温泉 ▲第四層 ▲氣象（氣温、氣壓、風、降水、天氣、霜雪の季節）
人文 第一章：沿革（石器時代、神話時代、王朝時代、武家時代、明治時代）第二章：政治宗教 ▲行政 ▲司法

第八卷 九州

◎西海道全部

第九卷 北海道

◎北海道全部

第十卷 琉球及臺灣

發兌元

東京市日本橋區本町三丁目
振替貯金口座第二百四十番

博文館

地方誌 福井縣（敦賀町、武生町、鯖江町、福井市、丸岡町、三國町、勝山町、大野町其他）◎石川縣（大聖寺町、小松町、安宅町、白山、鶴來町、美川町、松任町、金澤市、金石港、津幡町、羽咋町、高濱町、七尾町、輪島町、内浦街道の諸島其他）◎富山縣（氷見町、大門町、小松町、富山市、上瀨町、若瀨町、上市町、小杉町、魚津町、滑川町、泊町其他）◎新潟縣（糸魚川町、能生町、名立町、直江津町、高田町、柏崎町、高濱町、出雲崎町、寺泊町、興阪町、長岡町、見附市、櫻尾町、三條町、五泉町、村松町、新津町、小須戸町、加茂町、龜田町、新潟市、燕町、湊町、會根町、地蔵堂町、小千谷町、十日町、六日町、水原町、津川町、新發田町、葛塚町、岩船町、村上町、兩津町、河原田町、相川町、小木町其他）
銅版圖 北陸地方地形概圖◎北陸地方地形面圖◎金澤市街圖◎其他木版圖◎小原崎より白山遠望◎奥の院より白山火港を望む◎越後往昔地圖◎妙高山遠望◎機山遠望◎鳥嶺山群遠望◎信濃川河口變遷圖◎地質層位圖◎國造◎戰國時代配置◎徳川幕府列藩配置◎富山市、高山町◎大聖寺町◎武生町◎三國町◎小濱町◎敦賀町◎小松町◎七尾港◎伏木港◎直江津町◎高田町◎長岡市◎新發田町◎村上町◎相川町其他市街街圖數葉
法▲軍事▲教育◎第三章：産業▲農業▲林業▲水産▲工業▲礦業▲商業
地方誌 岡山縣（片上町、牛窓町、岡山市、倉敷町、玉島町、笠岡町、津山町、久世町、高梁町、鞆見町）◎廣島縣（福山町、鞆町、尾道市、糸崎港、三原町、吳市、

廣島市、宇品港、嚴島、府中町、上下町、庄原町、甲山町、河部町）◎山口縣（岩國町、柳井津町、徳山町、防府町、山口町、豐浦町、下の關市、萩町）◎鳥取縣（鳥取市、賀露港、倉吉町、御來屋町、漣江町、米子町、境町）◎島根縣（安來町、廣瀬町、松江市、美保ヶ關、今市町、平田町、杵築町、太田町、大森町、濱田町、益田町、津和野町、木次町、西郷港）
銅版圖 中國地方地形概圖◎大山地形圖◎三瓶山地形圖◎中國地方地質概圖◎岡山市街圖◎廣島市街圖▲其他
木版書 出雲國中の海より大山を望む◎三瓶山遠望◎奇野山遠望◎國造配置◎戰國時代配置◎毛利元就肖像◎徳川幕府列藩配置◎玉島町◎津山町◎尾道市◎岩國町◎徳山町◎防府町◎山口町◎下ノ關市◎萩町◎鳥取市◎松江市◎杵築町◎濱田町等市街圖

正軸仕立金六圓 價映入金五圓
 荷造金料拾五圓 送金料拾六圓

精巧刻圖美羅ニ引懸折圖調製赤道比
 例二尺五千五百一分三寸五尺四寸七寸

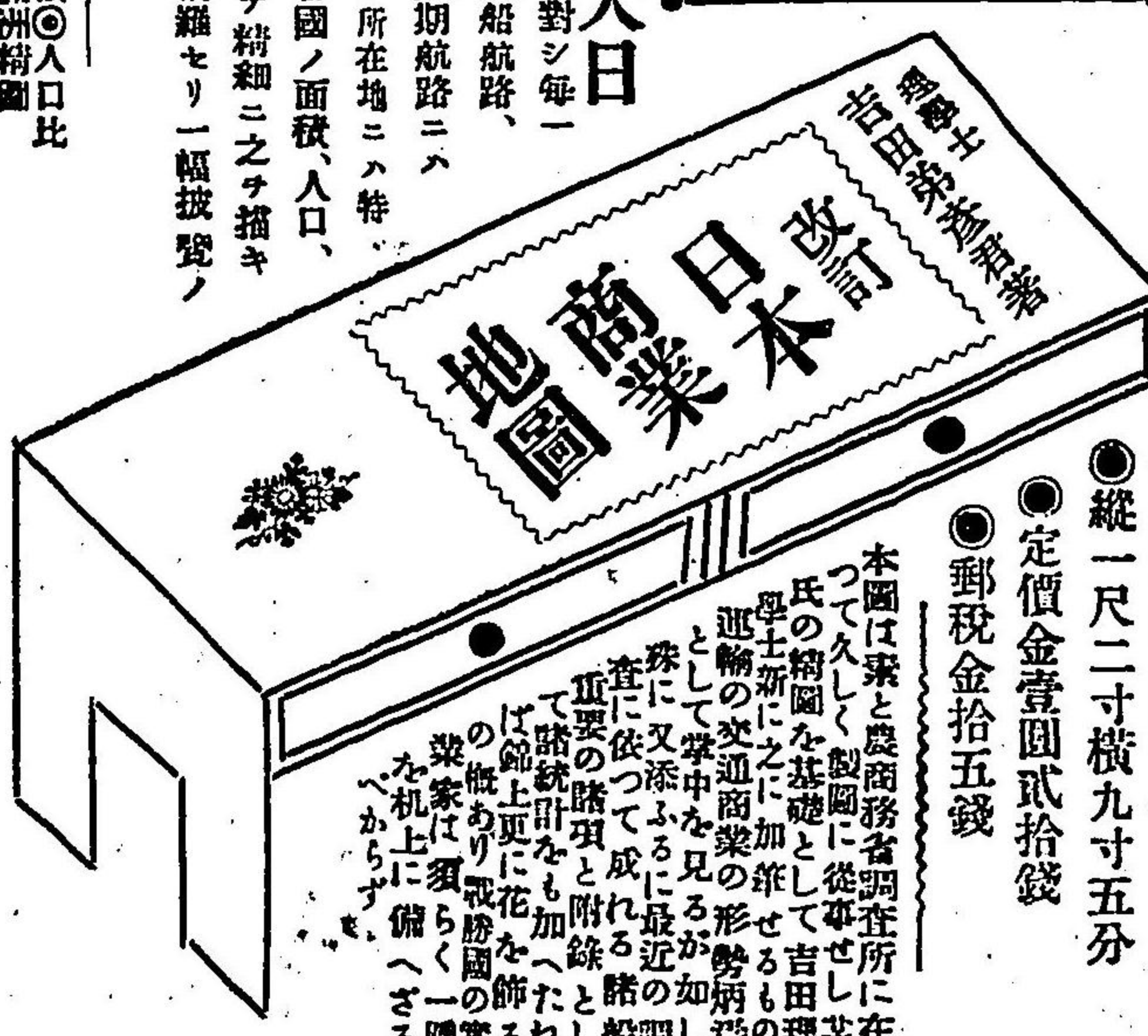
帝國教育會編 **世界現勢地圖**

帝國教育會編 辻新次君序文
 陸軍少將 矢津昌永君 東京高等師範學校教授 山崎直方君
 東京高等師範學校教授 正木直彦君 女子高等師範學校教授 町田則文君
 陸軍少將 牧瀬五郎君 編纂

本圖ハ東經百三十五度ヲ以テ全幅ノ中心トセリ故ニ我大日本帝國ノ位置ハ正シク全幅ノ中心ヲ占ム又經度ニ對シ每一時間ノ時間ヲ揭グ本邦ト各地トノ時差ヲ知ルニ便ナラシメ郵船航路、海底電線及ビ鐵道線路ヲ詳細ニ記入シ特ニ本邦汽船ノ外國定期航路ニハ旭旗アル汽船ヲ適宜ニ配置シ我が大使館、公使館、領事館ノ所在地ニハ特ニ視目ヲ惹クベク用意シ韓國及南滿洲ノ精圖ハ附録トシ又各國ノ面積、人口、軍備、貿易額等ヲモ圖式的ニ揭グ又陸上ノ山脈河流等ハ極メテ精細ニ之ヲ描キ又海面ニハ主要ナル海流、風向、風域、流水ノ境界等ヲモ網羅セリ一幅披覽ノ下現世界ノ光景ハ瞭々トシテ掌ヲ指スガ如シ

●附録 山高◎海深◎大河◎延長◎流域◎列國面積◎人口比
 較◎列國貿易額◎列國軍備比較◎韓國南滿洲精圖

發兌元 東京博文館
 振替貯金口座第二百四十番



●縱一尺二寸橫九寸五分
 ●定價金壹圓貳拾錢
 ●郵稅金拾五錢

本圖は素と農商務省調査所に在りて久しく製圖に從事せし某氏の精圖を基礎として吉田理學士新にその加筆せるもの運輸の交通商業の形勢病弱として學中を見るが如し殊に又添ふるに最近の調査に依つて成れる諸國の重要の諸埠と附録として附録上更に花を飾りたるの概あり郵船國の實業家は須らく一圖を机上に備へざるべからず

著君郎四秀原 士博學文 士學文

士學文 士博學文 著君郎四秀原

日本國史地圖
 ●附、日本國史地理

日本國史地圖は著者が大學院在學中の研究成績を輯纂せるものにして、大學院卒業に際して卒業生論文に副へて提出し、因て以て榮譽ある學位を得られたる、三種副論文中の隨一なる國史地圖彙の諸圖幅中に就きて其要を摘み粹を抜きて、稱其圖面を節約し、專ら中等程度の讀史社會に參考書又は教科書を提供するの目的を以て述作せるものにして其日本國史地理は之れが簡易なる解説なり

中等國史地圖

▲正價金壹圓拾錢 郵稅金拾貳錢
 中等國史地圖は概きに公にせる日本國史地圖の紙數を節約して編成せるものにして史蹟各細圖の大多數は日本國史地圖所載の者と同じく描寫極めて精細なれば山河墟落の形勢一目瞭然恰も身親ら其地を踏み其形を目撃する想あるべし又其外交關係の專斷の地圖は新なる研究を加へし點多く歴代國政の一般地圖と共に彩色を用ひて標示したれば日本國史地圖に比して更に明瞭鮮麗のものとなれり蓋し中等程度特に師範學校中學校初級用高級用として尤も其好なる參考地圖たるべく又中等國史教科書と併用すれば國史に關する健全なる智識を收得するには遺憾なきに庶幾からん

全一冊菊判精巧着色
 地圖壹百四十餘圖挿入
 正價金壹圓七拾錢
 郵稅金拾四錢

行發館文博

理學士 佐藤傳藏君著 (全一冊菊列) 紙數三百十四頁
●日本新地理 並製正價金四拾五錢 郵稅金八錢
 本邦の天然地理人事地理地方誌の三項を最新の事實に據り確實の統計を基とし組織巧妙叙述簡潔意到筆隨の況き盡くして餘蘊なし且つ彼の臺灣と北海道に至つては立論奇抜にして説明詳密なり中等教育の参考教科書として世上他に比類あるを見ず乞ふ御愛讀を給へ

女子高等師範學校 野口保興君 中村士德君 共著
 敬授日本大學講師 大久保千禧君 共著
●本邦地理詳説 洋裝菊列紙數八百四十頁
 正價金壹圓八拾錢 小包料金拾五錢
 本邦地理書の上梓せらるゝもの汗牛充棟も實ならず然れども是れ多くは中等程度に用ひらるゝ教科書の類なるが偶々參考に供すべし所也著者即ち此缺陷を補はんことを期し斯界の爲め遺稿とするに及んで本邦地理の精華を野口保興先生遺稿なる修正を試みらるゝ事を知るべし

野崎左文君外四君合著 全拾貳冊(中列五二〇〇頁)
●日本名勝地誌 正價一冊拾錢
 同畿内之部 郵稅一冊六錢
 北陸、山陰之下部 郵稅一冊六錢
 北陸、山陰之上部 郵稅一冊六錢
 北陸、山陰之全部 郵稅一冊六錢
 北陸、山陰之全部 郵稅一冊六錢
 北陸、山陰之全部 郵稅一冊六錢

東京府立第三中學校教諭 石渡延世君著
●地理統計要覽 全一冊洋裝三六列二六二頁
 正價金五拾八錢 郵稅金八錢
 本書は地文人文の兩方面に亘り天體陸水氣界に關する數より本邦外國の國勢各國君主及其系統關係に至るまで一目の下に瞭然たりしめたるものなれば當に普通教育の教師及學生の參考書たるのみならず廣く一般國民の座右に備ふべき書なり

榎本子爵石黑男爵外四大家序文高頭式君編(大列一三一五)
●日本山嶽志 正價貳圓
 小包料拾六錢
 ▲精巧彩色刷日本群島山嶽系統圖(縱一尺八寸横一尺四寸五分) ▲山嶽寫眞二十二圖挿入
 法學士山本信博君著 (大列三三〇頁)
●政治地理學 正價四拾錢
 郵稅八錢
 ▲洋布特製 金五拾五錢 小包料八錢
 理學士吉田弟彦君著 (大列三二八頁)
●地質學 正價四拾錢
 郵稅八錢
 ▲洋布特製 正價五拾五錢 小包料八錢
 理學士佐藤傳藏君著 (大列三三六頁)
●地質學 正價四拾錢
 郵稅八錢
 ▲洋布特製 正價五拾五錢 小包料八錢

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

法學博士文學士 有賀長雄先生著

大日本歴史

有賀博士の本邦史籍中の霸王にして國體の完璧なるに均し聲價を有す海内無比なり
 帝國史の歡迎せらるゝや果刊 戰勝國の紀念の舊版を改訂し其 缺陷を増補 編の大著述を世に公にせらる。

博士を神代の太古に起皇統連綿の國體を祖征露勅語の煥發に至つて綱維す其間事實の文明進歩に於ける原因を新説奇論を避け成 正史傳來の事實を叙述し處々に博士卓越の血族社會の編制は 社會學の原則に依り特別研究を以て立てられたる見解多く又た中古戰國の状態は憂ふべきに似方文明の起源なり是れ封建の餘瀝なりとする既も博士の創見に懸れる 高論は是れ本史か 史界唯一の寶典として 潤歩 更なる所以なり殊に博士の識眼なる 國學の諸大家に根柢的の修訂を加へられたる花を添 完全 其優劣月鑑も音ならずと謂ふも決して腰妄にあらざるなり

全二冊 菊判特製脊皮總クロー
 紙數一冊約壹千頁
 正價金貳圓 小包料拾六錢
 上巻 下巻 印刷中

博文館發行

文學士久保天隨君著 (大列一〇〇頁) 正價參拾圓 小包料貳拾圓

●日本歷史寶鑑 (大列一〇〇頁) 正價參拾圓 小包料貳拾圓

●日本歷史評林 (大列一九二頁) 正價參拾圓 小包料貳拾圓

●日本歷史要解 (中列四二四頁) 正價五拾圓 小包料貳拾圓

●史學研究法 (大列五〇四頁) 正價參拾圓 小包料貳拾圓

●帝國史略 (大列一〇三〇頁) 正價參拾圓 小包料貳拾圓

●日本歷史 (大列三七六頁) 正價四拾圓 小包料貳拾圓

●大日本通史 (大列一〇〇〇頁) 正價五拾圓 小包料貳拾圓

●新撰大日本帝國史 (大列五三四頁) 正價四拾圓 小包料貳拾圓

●通俗日本歷史 (大列三三四頁) 正價貳拾五圓 小包料貳拾圓

●新撰日本外史 (大列一〇〇二頁) 正價貳拾圓 小包料貳拾圓

●日本外史 (中列八〇〇頁) 正價七拾五圓 小包料貳拾圓

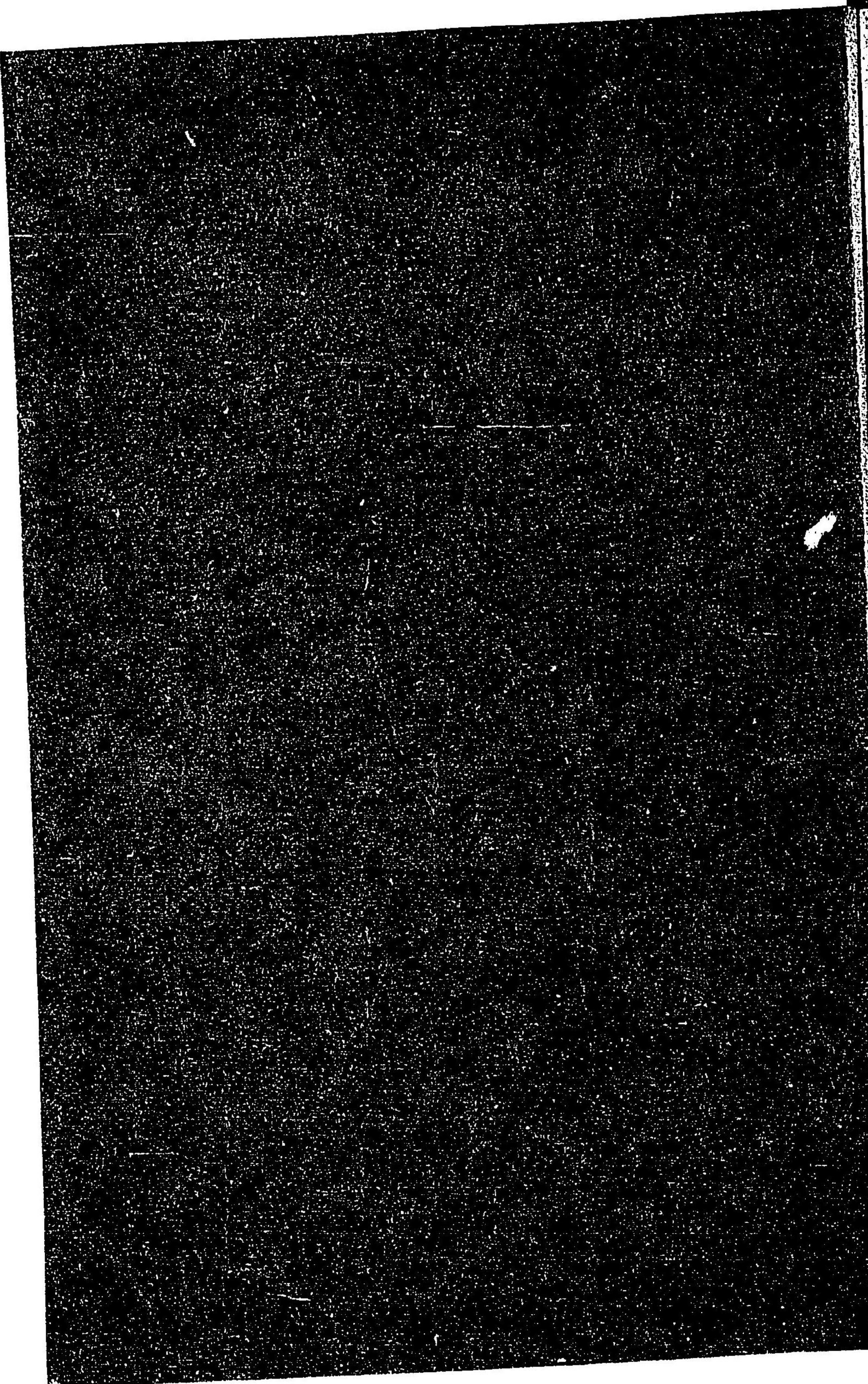
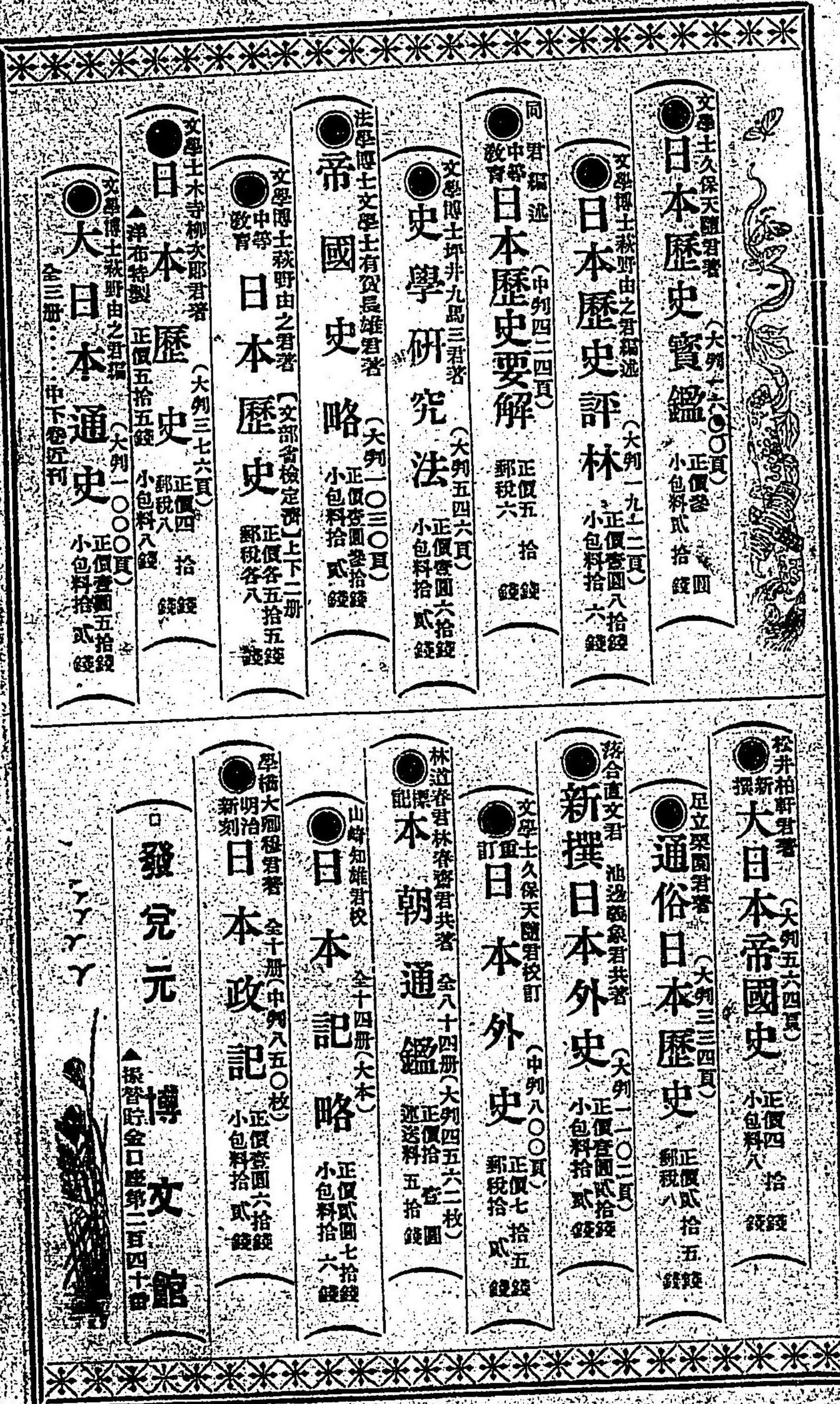
●日本通鑑 (大列四五六二頁) 正價拾圓 小包料貳拾圓

●日本記略 (全十四册) 正價貳拾圓 小包料貳拾圓

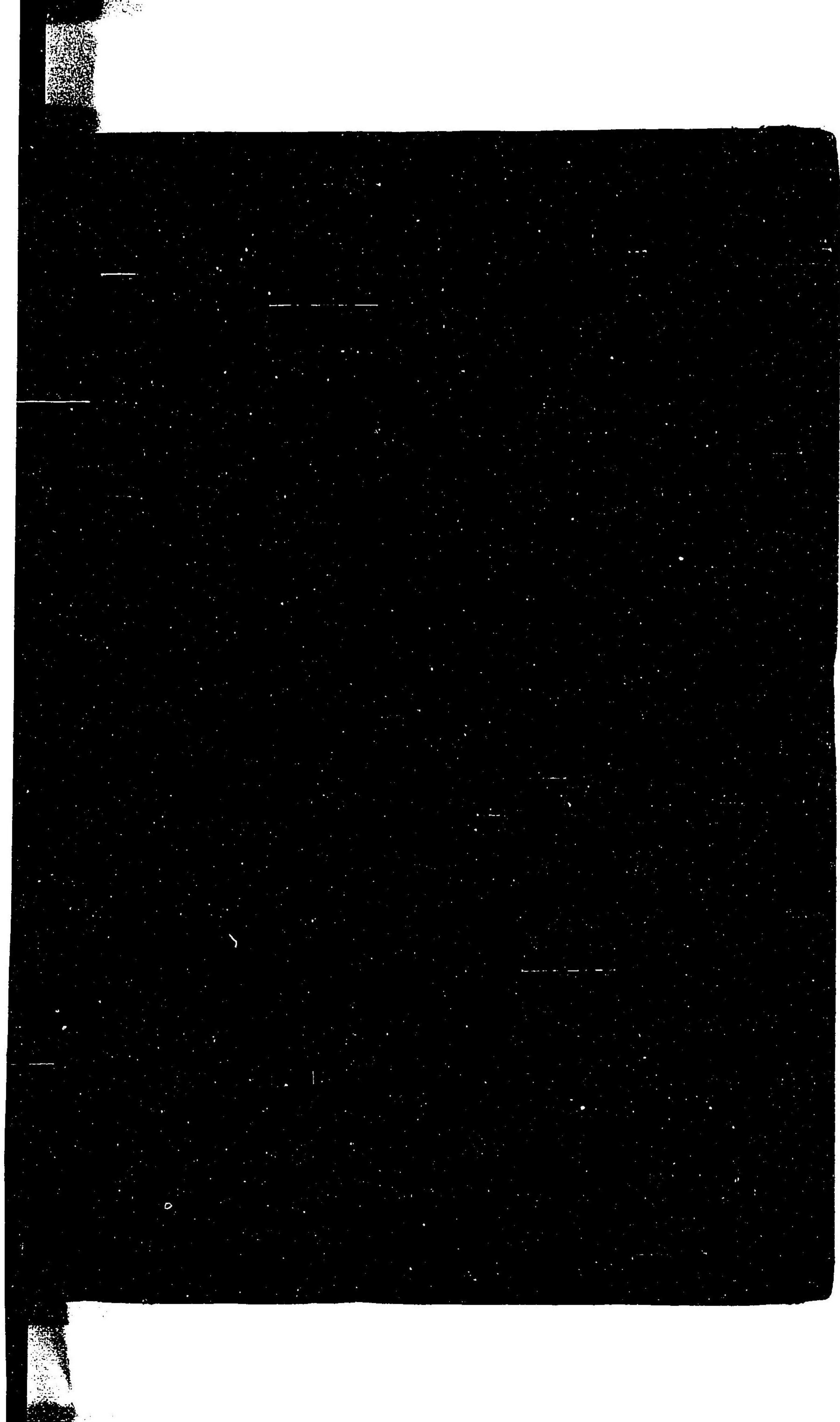
●日本政記 (全十册) 正價拾圓 小包料貳拾圓

●發兌元博文館 (全十册) 正價拾圓 小包料貳拾圓

●新撰大日本通史 (大列一〇〇〇頁) 正價五拾圓 小包料貳拾圓



77
1
260



177
260

(M)